

第9章

関係機関・関連記録

第一節 関係機関

【指導・助言、手続き関係】

○国の機関

文化庁建造物課

国土交通省建築指導課

○愛媛県の機関

愛媛県教育委員会文化財保護課

愛媛県建築住宅課

愛媛県市町村課

愛媛県林業政策課

○その他の機関

財団法人文化財建造物保存技術協会

財団法人日本建築センター

財団法人愛媛県市町村振興協会

【視察関係】

○城郭を所有する機関等

石川県庁・金沢城

白石市役所・白石城（宮城県）

白河市役所・白河小峰城（福島県）

二本松市役所・二本松城（福島県）

松本市役所・松本城（長野県）

掛川市役所・掛川城（静岡県）

篠山市役所・篠山城（兵庫県）

高梁市役所・備中松山城（岡山県）

松江市役所・松江城（島根県）

広島市役所・広島城（広島県）

丸亀市役所・丸亀城（香川県）

松山市役所・松山城（愛媛県）

熊本市役所・熊本城（熊本県）

【木材調達関係】

中部森林管理局（長野県）

【報道関係】

NHK松山放送局

愛媛新聞社

【特別なご協力をいただいた方々】

元文化庁建造物課主任調査官 清水真一氏

文化庁建造物課主任調査官 村田健一氏

元愛媛県建築住宅課長 北村重治氏

広島大学文学部教授 三浦正幸氏

舞鶴市建築住宅課 矢谷明也氏

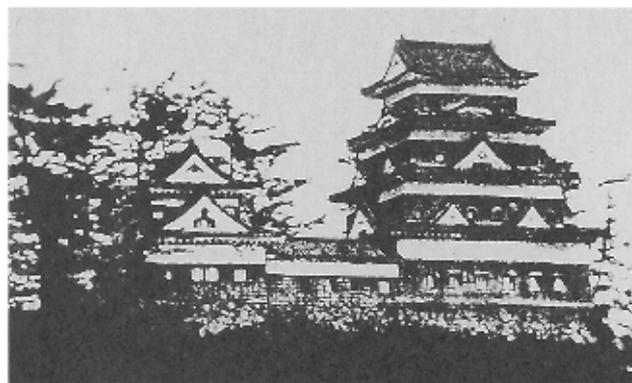
加藤寿子氏

第二節 かわら版復元大洲城

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|------------------------------|
| 第一号 | 「日本初木造四層天守閣 市制五十周年完成めぐす」 | 第二十三号 | 「大洲城史料 絵図 (宮上茂隆氏の研究)」 |
| 第二号 | 「第三回大洲城天守閣再建検討委員会結果報告」 | 第二十四号 | 「県指定史跡『大洲城跡』保存整備計画を策定しました」 |
| 第三号 | 「復元へむけ体制強化！第一回大洲城天守閣復元委員会」 | 第二十五号 | 「城跡周辺の樹木調査と整備後の予測調査1」 |
| 第四号 | 「大洲藩の出發・大洲藩領域図」 | 第二十六号 | 「城跡周辺の樹木調査と整備後の予測調査2」 |
| 第五号 | 「今甦る大洲城天守閣」 | 第二十七号 | 「城跡周辺の樹木調査と整備後の予測調査3」 |
| 第六号 | 「大洲城の歴史1〜比志城の戦い〜」 | 第二十八号 | 「城跡周辺の樹木調査と整備後の予測調査4」 |
| 第七号 | 「大洲城の歴史2〜飛鳥城の戦い〜」 | 第二十九号 | 「本丸付近の地質調査を実施」 |
| 第八号 | 「大洲城の歴史3〜長宗我部元親の侵攻〜」 | 第三十号 | 「ボーリング結果による地層の区分と状況」 |
| 第九号 | 「藤堂高虎か脇坂安治か（史談会例会報告）」 | 第三十一号 | 「大洲城跡の発掘調査を実施します」 |
| 第十号 | 「大洲城天守閣の模型が完成」 | 第三十二号 | 「ついに解明！天守閣の撤去時期」 |
| 第十一号 | 「大洲城の歴史4〜天下統一の流れの中で〜」 | 第三十三号 | 「発掘調査の現地説明会を実施」 |
| 第十二号 | 「大洲城復元に思うこと（寺尾幸記さん）」 | 第三十四号 | 「第六回大洲城天守閣復元委員会を開催」 |
| 第十三号 | 「大洲城復元を夢見て（白石成子さん）」 | 第三十五号 | 「故宮上茂隆氏の意志を継いで（八木清勝氏インタビュー）」 |
| 第十四号 | 「大洲の文化と大洲城（中川義博さん）」 | 第三十六号 | 「募金活動を本格的に始動します」 |
| 第十五号 | 「私とまちづくり、私と大洲城（武内八重子さん）」 | 第三十七号 | 「天守閣復元を夢見て：（久保博信さん）」 |
| 第十六号 | 「大洲の文化大洲のこころ『大洲城の復元を』（猪川伸一郎さん）」 | 第三十八号 | 「募木活動を開始します」 |
| 第十七号 | 「掛川城・静岡県掛川市のレポート」 | 第三十九号 | 「大洲城跡樹木整備計画を策定しました」 |
| 第十八号 | 「白石城・宮城県白石市のレポート」 | 第四十号 | 「天守閣復元基金が七千万円を突破」 |
| 第十九号 | 「小峰城・福島県白河市のレポート」 | 第四十一号 | 「発掘調査の第二回現地説明会を開催」 |
| 第二十号 | 「大洲城史料 天守雛形1（宮上茂隆氏の研究）」 | 第四十二号 | 「二十一世紀に向けてのまちづくり」 |
| 第二十一号 | 「大洲城史料 天守雛形2（宮上茂隆氏の研究）」 | 第四十三号 | 「御廬始め式」 |
| 第二十二号 | 「大洲城史料 天守雛形3（宮上茂隆氏の研究）」 | 第四十四号 | 「古絵図とパズルでPR」 |
| | | 第四十五号 | 「実施設計進行中！古写真の撮影位置が判明！」 |
| | | 第四十六号 | 「城のある風景1・愛知県犬山市」 |
| | | 第四十七号 | 「城のある風景2・兵庫県篠山市」 |

- 第四十八号 「城のある風景3・島根県松江市」
- 第四十九号 「城のある風景4・長野県松本市」
- 第五十号 「石垣耐力度調査を実施します」
- 第五十一号 「御用木の調達いよいよ最終段階に！」
- 第五十二号 「天守閣の高さ・面積が確定しました！」
- 第五十三号 「石垣耐力度調査が終了」
- 第五十四号 「発掘調査概要報告書を発行」
- 第五十五号 「城のある風景5・石川県金沢市」
- 第五十六号 「城のある風景5の2・石川県金沢市」
- 第五十七号 「木材の保管倉庫が完成しました！」
- 第五十八号 「大洲城あれこれ1・城郭の玄関口『枳形』」
- 第五十九号 「大洲城あれこれ2・昭和の大修理『大洲城櫓』」
- 第六十号 「第九回大洲城天守閣復元委員会」
- 第六十一号 「御用木お披露目式の開催が決定！」
- 第六十二号 「法手続き上の経緯・前川 康氏」
- 第六十三号 「大洲城あれこれ3・二の丸大手門と内堀」
- 第六十四号 「御用木お披露目式」
- 第六十五号 「大洲城あれこれ4・二の丸御殿」
- 第六十六号 「天守台石垣の発掘調査を実施」
- 第六十七号 「将来の文化財をめざして(株間組外館寛所長インタビュー)」
- 第六十八号 「起工式」
- 第六十九号 「材の仕上げを徹底調査」
- 第七十号 「大洲城あれこれ6・本丸御門『暗り門』」
- 第七十一号 「大洲城あれこれ7・台所櫓」
- 第七十二号 「木曳き式」
- 第七十三号 「大洲城あれこれ8・高欄櫓」
- 第七十四号 「徹底解剖！基礎工事編」
- 第七十五号 「徹底解剖！石垣工事編」
- 第七十六号 「徹底解剖！建て方工事編」
- 第七十七号 「伝統技術を受け継ぐ1・木工事編」
- 第七十八号 「伝統技術を受け継ぐ2・壁土づくり編」
- 第七十九号 「一般見学会を開催しました！」
- 第八十号 「暗り門の遺構を発見！」
- 第八十一号 「天守内壁の仕上げが決定！〜三階は板壁に〜」
- 第八十二号 「上棟式」
- 第八十三号 「徹底解剖！瓦の製作編」
- 第八十四号 「徹底解剖！屋根工事編」
- 第八十五号 「伝統技術を受け継ぐ3・壁工事編」
- 第八十六号 「伝統技術を受け継ぐ4・漆喰づくり編」
- 第八十七号 「大洲城あれこれ9・小早川隆景、戸田勝隆」
- 第八十八号 「大洲城あれこれ10・藤堂高虎」
- 第八十九号 「大洲城あれこれ11・脇坂安治」
- 第九十号 「大洲城あれこれ12・加藤光泰、貞泰」
- 第九十一号 「大洲城の匠たち1〜棟梁〜」
- 第九十二号 「大洲城の匠たち2〜副棟梁〜」
- 第九十三号 「大洲城の匠たち3〜瓦葺き師〜」
- 第九十四号 「大洲城の匠たち4〜左官〜」
- 第九十五号 「大洲城天守閣勇姿現す〜素屋根を解体〜」
- 第九十六号 「大洲城いよいよ一般公開！」
- 第九十七号 「最終号・復元のあゆみ」

日本初 四層四階 本格木造天守閣復元



明治時代の古写真 ①



明治時代の古写真 ②

市制五十周年完成めざす

このたび大洲城天守閣再建検討委員会は、記念すべき市制施行五十周年の平成十六年完成をめざし、史実に基づいた純木造での四層四階天守閣の復元構想をまとめました。これを受け市では、六月定例会市議会に、三十分の一の天守閣模型製作費などを計上。本格的に動き始めました。

かわら版
復元大洲城

第1号
平成8年9月1日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話0893-24-2111



発行に寄せて

大洲市長 榎田 興一

今から約四百年前の藤堂高虎・脇坂安治の時代に、現在の大洲城が完成したといわれています。その後元和三年（一六一七年）に、加藤貞泰が入城して以来明治維新まで、約二百五十年間加藤家の居城となりました。

このように「大洲城」は、戦国大名が繰り広げた激しい戦乱の世から、信長の遺志を継ぎ、天下統一を果たした秀吉、そして安定政権を実現した家康の時代へと受け継がれていきました。

まさにこの時代は、今もなお時を越え戦国武将たちの、鮮烈な息吹が伝わってきます。限らない歴史のロマンを感じます。これから、皆さんもいっしょに、大洲城が復元されようとしている歴史の現場を歩んでみませんか。

今、当市では市制五十周年完成を目標に、天守閣の復元にむけて事業を進めています。日本初の四層四階純木造での天守閣の復元です。史実に基づいて正確に復元できる、全国的にも数少ない天守閣の一つです。この事実が、当市にとって貴重な財産です。いかに活用していくか、天守閣を復元するためのキーポイントは一話題づくりです。

大洲市のシンボルとなる大事業だけに、いかに全国的な規模でのPRを図っていくか。まさに、現代ロマンの幕開けです。私は、一六〇〇年頃の「三世」を視野に入れ、当時のことを常に念頭において

城づくりまらびづくりを考えています。今回発行の「かわら版復元大洲城」は、以上のコンセプトから生まれた企画第一号です。文久年代の文獻に始めて出現した「かわら版」に載せて、これから始まる天守閣の復元に関するあらゆる情報を逐次お知らせします。また、皆さんの御意見も募集します。市民参加型江戸時代風のイベントも企画します。行政をもっと身近に感じて頂き、共に天守閣の完成にむけて行動しましょう。附近に迫っている二十一世紀の人達に、二十世紀からのすばらしい贈物を、メッセージを贈ろうではありませんか。

街が、いかに変わろうとも、「天守閣」は永遠に大洲市のシンボル・平成の遺産として、後世に受け継がれていきます。歴史の大きな事業を、私は、皆さんといっしょに歩んでいきたいと考えています。

天守閣の復元にむけて

これまでの経過



明治時代の古写真 ③

- 昭和57年7月 大洲市を考ふる百人委員会発足
- 昭和59年1月 同委員会が提言
- (提言の要旨) 市制三十周年を契機として、城下町の市民としての意識高揚と、観光資源としての大洲城天守閣をぜひ再建したいという市民の声は高い。
- 昭和59年5月 大洲市まちづくり委員会発足
- 昭和60年2月 同委員会に復元専門部会を設置
- 昭和61年4月 同専門部会が「大洲城天守閣復元計画」を報告
- (報告の要旨) 天守閣については木造建築は不可能であり、やむを得ず鉄筋コンクリート造とする。しかし、天守閣以外の建築物(多聞櫓・一の門)については、木造とする。
- 昭和63年完成目標 事業費総額は約五億五千万円
- 平成6年10月 大洲城天守閣再建検討委員会発足
- 平成7年1月 同検討委員会において宮上茂隆・東京理科大学非常勤講師が、大洲城の再建について講演
- 平成8年5月 同検討委員会が検討結果について報告
- (報告の要旨) 建築基準法第三十八条の建設大臣の認定により、純木造で復元することが可能となる。

ここがポイント

大洲城の場合、明治時代の古写真(今回のかわら版に掲載①②)・天守建造のひな形、古城絵図などの忘れた資料によって、完璧に復元できる。

復元総事業費 二十億円
基金目標額 十五億円
※なお、詳細については、次号のかわら版で報告します。

用語解説

復元とは「原形に復する」「元に戻す」という意味である。城郭の用語として使われている厳密な意味での復元とは「その新しく建設する建築物の木割図や実測図、写真などが残っており、材料も含めてほぼ旧態通りに再建できるもの」をいう。

ポイント解説

明治時代以降に建てられた全国の上層三階以上の天守閣の中で、右記の用語解説で説明している厳密な意味での「復元」に該当する天守閣は、現在までのところありません。
大洲城が完成すると、日本で最初の本格木造天守閣の「復元」ということになりました。
また、本造では、二層四階までの天守閣しかありませんので四層四階も「日本初」ということになります。

銅像移転へ



本丸に鎮座する中江藤樹像

城山天守閣跡にある中江藤樹先生の銅像が、雨もなぐ、二の丸(児童館のある広場)に移転します。
これは、大洲城天守閣の復元のために、行うものです。

思えば明治四十三年(一九一〇年)現在地に最初の銅像が建立されて以来、大正十四年(一九二五年)に第二の銅像除幕式、昭和二十七年(一九五二年)に第三回銅像除幕式と銅像そのもの変遷がありました。が、現在地に鎮座すること十八年間。

城山高くいっかる、君が御像を拝めば、古人に目のあたり、まみゆる如き心持して、何とは知らぬ尊さに、思い邪なかりけり。

と歌い続けられ、大洲の人々の敬慕の対象となってきました。
移転工事は、九月中旬頃から始まり、今一度、天守閣跡にそびえ立つ藤樹先生の銅像に、話しかけて見てはいかがでしょうか……

天守閣の高さは伊予八藩でNO1

ナンバー

続報

第三回 大洲城天守閣 再建検討委員会結果報告



会場中央の模型は、大洲藩作事方棟梁であった中野家に伝わった大洲城天守雛型（博物館蔵）

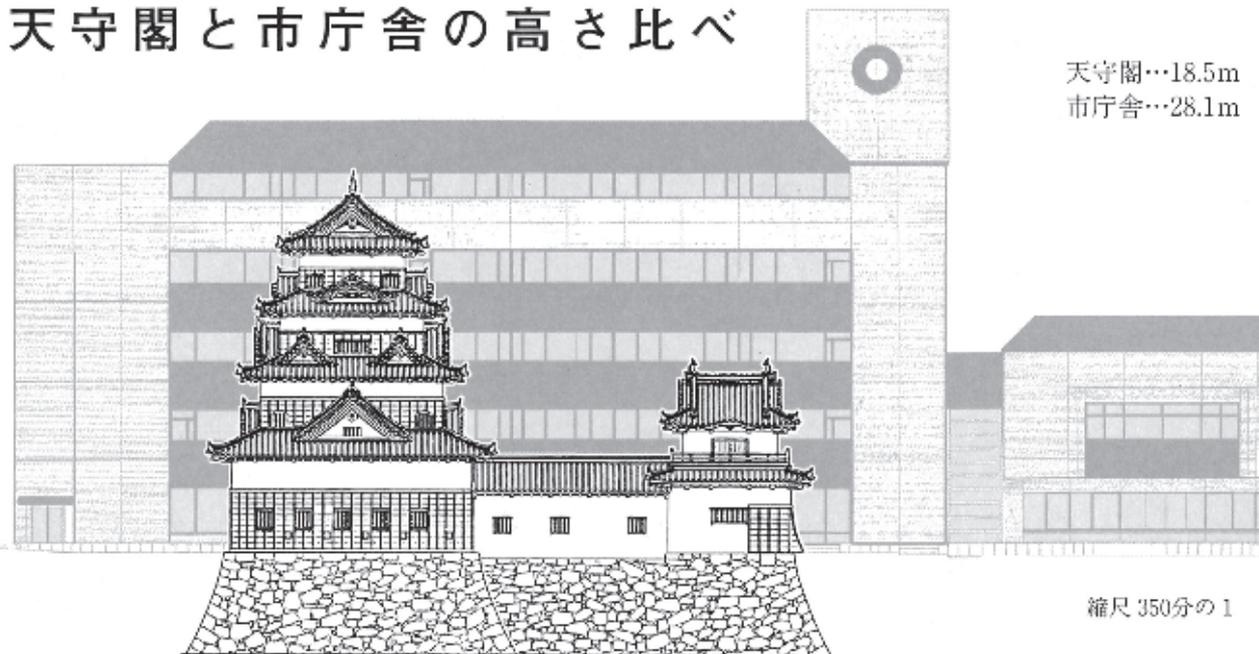
かわら版
復元大洲城

第2号

平成8年10月1日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話0893-24-2111

- ①天守閣の概要
大洲城天守閣再建検討委員会の顧問で、静岡県掛川市の掛川城を設計した宮上茂隆先生（工学博士、一九四〇年生、東京大学建築学科卒）は、当委員会において、大洲城天守閣の基本データを公表しました。
- 復元天守閣の概要・特徴は、裏面のとおりです。
- ②法規制について
（建築関係）
本造で復元するには、建築基準法第三十八条の建設大臣の認定を受けることにより可能となります。
- この認定を受けて建てられた天守閣は、今までのところ平成六年十月に完成した宮城県白石市にある三層三階の白石城です。高さは十六・七二メートル、延べ床面積は四百十四・三七平方メートルです。
- （文化財関係）
歴史を後世に正しく伝えるためにも、史実に基づいた本造での復元であることが必要です。
- ③今後の対応について
大洲城天守閣の復元は、前回のかかわり版で報告しましたように、日本で最初の本格木造天守閣の復元となります。
- 市では、この事実を十分に踏まえ対応します。具体的には、歴史的な背景も視野に入れて計画をしていく予定です。

天守閣と市庁舎の高さ比べ

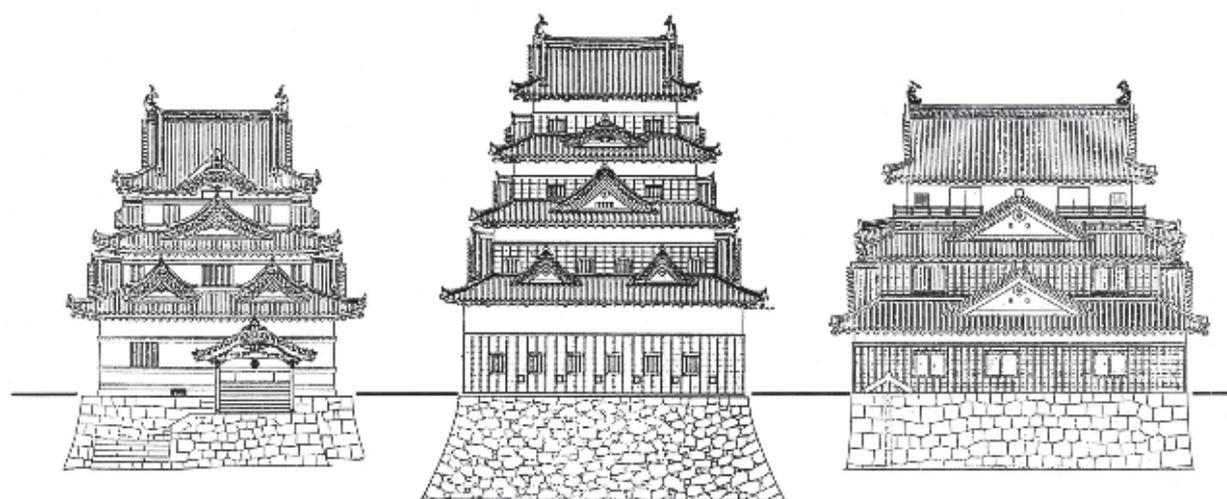


天守閣…18.5m
市庁舎…28.1m

縮尺 350分の1

伊予八藩の天守閣の高さ比べ

縮尺 350分の1



宇和島城

大洲城

松山城

区 分	宇 和 島 城	大 洲 城	松 山 城
天守の層階	三層三階	四層四階	三層三階地下一階
天守の高さ（棟高）	15.24m	18.5m	15.94m
天守の床面積合計	310.09㎡	353.92㎡	629.45㎡
天守の完成年	寛文11年（1671年）	文禄・慶長年間（1592年～1635年）	安政元年（1854年）
天守の築城者	伊達宗利	藤堂高虎・脇坂安治	松平勝善
現存する建築物	天守閣・上立門	台所・蔵・御膳所・小御所・直書院・土庫	天守閣・小天守閣・櫓口橋・門8棟・庫
最終石高	10万石（宇和島藩）	6万石（大洲藩）	15万石（松山藩）

伊予八藩と天守閣

伊予八藩の中で天守閣が存在したのは、大洲藩、松山藩、宇和島藩の三藩です。今治城の天守閣は、慶長十五年（一六、〇年）藤堂高虎が転封の際に丹波篠山に移され、その後明治維新までには、建てられませんでした。また、それ以外の新谷藩、西条藩、小松藩、吉田藩は陣屋がありました。

用語解説

陣屋とは、城を持たない小大名の邸宅（役所を兼ねる）を指している。このような小大名を領主といい、城を持つものを藩主という。

大洲城天守閣の概要・特徴

天守閣は、本丸上段の北西隅の地表に建つ。普通の天守は狭い天守台の上に建ち、屋根四重、内部四階、一階から三階の屋根に飾り破風を掲げる。外壁は下見板張り、壁上部ならびに軒裏は漆喰仕上げ。中央に最上階に達する通柱があるなど構造に特徴がある。基壇柱間は六尺五寸。

規模面積は次のとおりです。

古写真募集

明治時代に取りこわされた大洲城天守閣の写真を募集しています。

現在までに見つかっている天守閣の写真は、前回のかわら版第一号で記載した①②③の三枚です。

天守閣の復元において、写真の発見は、より正確に復元する上で最も重要な資料となります。

倉庫の奥でねむっている明治時代の写真を今一度、ご覧になって下さい。きつと大切な祖先のなつかしいメッセージが届けられると思います。

もしも、天守閣の写真がありましたら、大洲市総務部総務財政課 ☎21111（内線328）までご連絡ください。

1階床面積（7.0間×6.0間）	162.90㎡
2階床面積（5.5間×4.5間）	95.99㎡
3階床面積（4.5間×3.5間）	61.09㎡
4階床面積（3.5間×2.5間）	33.94㎡
床面積合計	353.92㎡
棟 高	18.5m
軒 高	15.8m



正面左から中川副委員長、村上副委員長、榎田委員長、富永副委員長、小泉副委員長

復元へむけ体制強化

かわら版 復元大洲城

第3号

平成8年11月1日

発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話 0893-24-2111

大洲城天守閣復元委員会 委員名簿

職名	氏名
大洲市長	榎田 剛一
大洲市議会議長	小泉 弘文
大洲市議会議長	久保 幸一
大洲市議会議長	大森 隆雄
大洲市議会議長	青岡 昇平
大洲市公平委員長	熊野 良一
大洲市社会福祉協議会長	近田 宣秋
大洲市校長会長	伊賀上 圭介
大洲市区長会長	玉木 道輝
大洲市公民館連絡協議会長	堀井 吉雄
大洲商工会議所会頭	村上 五郎
大洲市観光協会会長	富永 典
大洲農協協同組合代表理事組合長	上川 好邦
大洲市森林組合長	宇部宮 徹伯
大洲市文化協会会長	久保 幸悟
大洲市連合婦人会長	亀井 悦子
大洲市老人クラブ連合会長	福住 繁雄
大洲史談会長	中川 一生
大洲市文化財保護審議委員	福田 實留
大洲青年会議所理事長	寺尾 幸記
大洲市PTA連合会副会長	大久保 初恵
大洲市連合青年団副団長	河野 順子
大洲市助役	松井 健
大洲市収入役	首藤 繁
大洲市教育長	片山 幸史
大洲市総務部長	東 幸志
顧問	宮上 茂輝

順不同、敬称は略させていただきます

大洲城天守閣復元委員会の第一回会合が、七月三十一日に開かれました。

この委員会は、大洲城天守閣再建検討委員会において検討された内容を、実現するために設置されたものです。

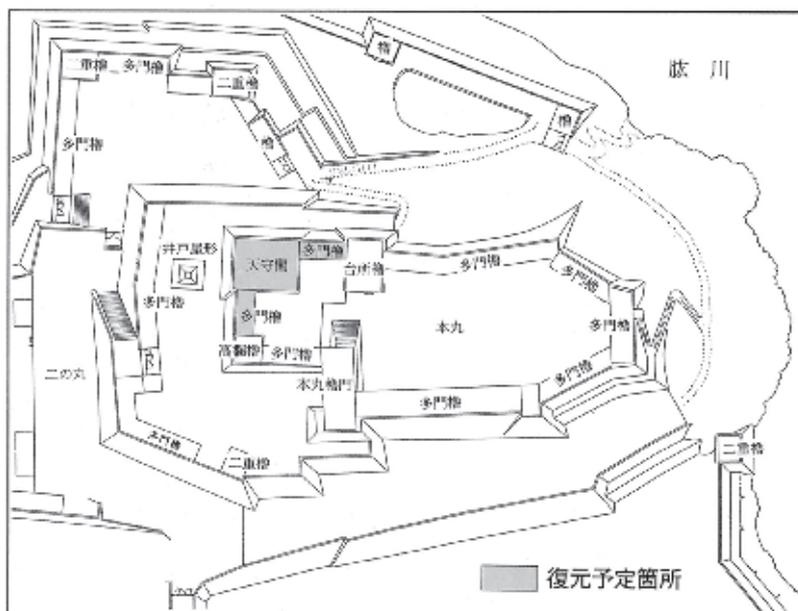
委員の皆さんは、左表のとおりです。

これから、当市の新しいシンボルとしての大洲城天守閣を、史実に基づき木造で正確に復元するため、調査、検討を行います。

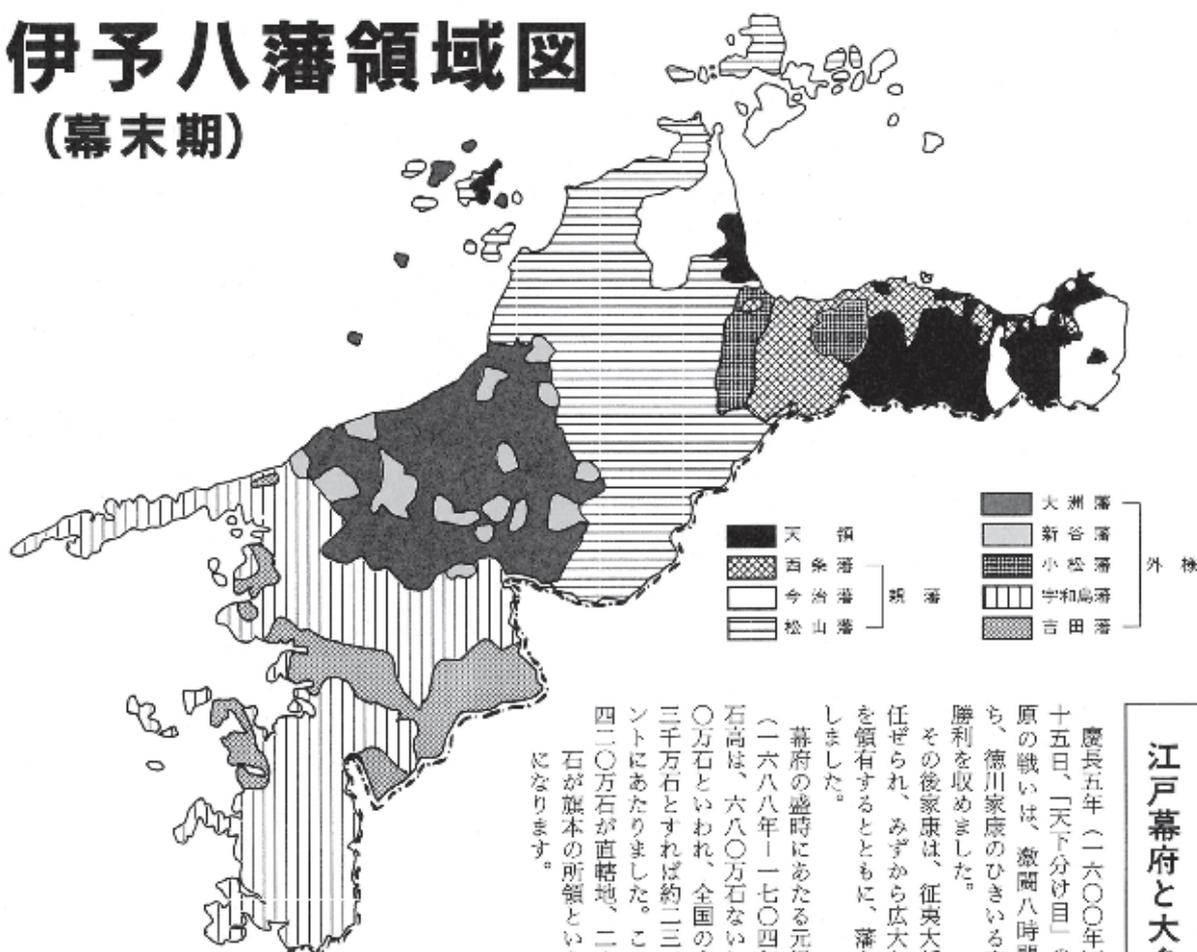
また、復元に際しましては、各分野において、専門的な知識が必要となりますので、今後、次の委員会を設け、調査、検討を行う予定です。

大洲城天守閣
整備専門委員会
保存管理専門委員会
建設専門委員会
募金専門委員会
募金専門委員会

大洲城本丸附近の配置図



伊予八藩領域図 (幕末期)



江戸幕府と大名

慶長五年(一六〇〇年)九月十五日、「天下分け目」の関ヶ原の戦いは、激闘八時間ののち、徳川家康のひきいる東軍が勝利を取めました。

その後家康は、征夷大將軍に任ぜられ、みずから広大な土地を領有するとともに、藩を統轄しました。

幕府の盛時にあたる元禄時代(一六八八―一七〇四年)の石高は、六八〇万石ないし七〇〇万石といわれ、全国の土地を三千万石とすれば約二三パーセントにあたりました。この中で四二〇万石が直轄地、二六〇万石が旗本の所領という割合になります。

江戸時代で最大の大名、前田氏が一〇二万石、これにつぐものは島津氏の七七万石、伊達氏の六二万石、尾張徳川氏の六一万石などで、これらと比べても徳川氏の所領は格段のちがいがありません。

また幕府は、大名の改易(取りつぶし)や領地替えを機会あるごとに行って、大名を整理しました。関ヶ原の戦いのときに西軍についた諸大名で、改易されたものは九一家、石高四二〇万石、石高を減らされたもの四家、石高二二二万石におよびました。この後も改易等は行われました。

大名の区分

諸大名には、徳川氏との縁故によって、譜代と外様に分けられ、その待遇に差別が設けられました。これは、法制上定められたものではなく、慣用上おこなわれてきた区分であり、普通の解釈では、関ヶ原の戦い以前に徳川氏に服属した者を譜代とし、それ以後、徳川氏に屈服した大名を外様としました。また幕府の親類の藩を親藩と呼び、そのうち尾張・紀伊・水戸三家は御三家といって、諸大名中、もつとも権威がありました。

便宜上、慶応時代(一八六五年―一八六八年)を基として、親藩・譜代・外様の別に分けると、総数二六六藩のうち、譜代は一四五藩、外様は九八藩になります。

伊予八藩

伊予国では、慶長十九年(一六一四年)に宇和島藩一〇万石が最初に成立し、その後大洲藩六万石、うち新谷藩一万石、松山藩一五万石、今治藩三万石、小松藩一万石、吉田藩三万石と続き、寛文十年(一六七〇年)の西条藩三万石の成立で、伊予八藩の時代を迎えました。

阿波や土佐の一藩、讃岐の二藩と比較すると、伊予国はさほど藩の数が多く、東予地方では藩領や天領が複雑に入り組んでいました。

また、八藩の分布をみると、親藩である三藩と外様である五藩が巧妙に配置されていることがわかります。

加藤のお殿様 入城

かわら版
復元大洲城

第4号

平成8年12月1日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話0893-24-2111

大洲藩の出発

大洲城のお殿様（城主）といえば、まず、江戸時代に約二百五十年間続いた加藤氏を思い浮かべる方が多いと思います。

また、そのほかにも藤堂高虎・鷹坂安治といった戦国武将や大洲城を最初に築城したと言われる宇都宮豊房などを思い出されるかもしれません。

今回は、初代加藤氏の入城当時にスポットをあててみることにします。



大洲藩初代 加藤 貞泰（曹溪院蔵）

加藤大洲藩の出発は、関ヶ原の戦いから十七年が経過した元和三年（一六一七年）七月二十日です。時の將軍徳川秀忠より加藤貞泰に与えられました。

これは、慶長十九年（元和元年）の大坂の陣に軍功があったからです。

そして、同年七月二十五日、貞泰は、伯耆国米子（鳥取県）を出発しました。引き連れた家臣の人数は、百三十二人におよぶものでした。

同年八月五日、その大船団は、長浜に到着しました。そこで、上灘村の清兵衛をはじめ二十三人の庄屋たちが城主を出迎えしました。道案内役には、大洲町年寄・大和屋千左衛門が務めました。そして、この夜は、近くの宿に泊まり、翌六日、貞泰は陸路を馬で大洲城に入りました。その時、貞泰は三十八歳でした。

そのころの交通予想図（小川村→米子→大洲→小川村）



藤樹先生もいっしょに

貞泰が大洲に着任した時、供として従った家臣達の中に、祖父に伴われた当時十歳の中江藤樹がいました。

藤樹は、慶長十三年（一六〇八年）、近江国小川村（現在の滋賀県高島郡安曇川町）に生まれました。藤樹の父の吉次は祖父の後を継がず百姓をしていますが、藤樹は、九歳の時、米子藩に仕えていた祖父の吉長の懇請によって、武士として養育されました。

十歳の時、貞泰が大洲へ国がえとなったので、祖父母と共に大洲へ移ることになりました。そしてその年の冬、祖父は、大洲藩の風早郡（現在の北条

市）の奉行になりました。十一歳の時、藤樹は、初めて「大学」（心を正しくし、よい政治をすることを書いた本）を讀みました。

人として生まれたものは、誰でも自分の行いを正しくすることが根本である。それができてこそ、人間らしい人間といえる。

そして藤樹は、この教えのとおり身をおさめて、立派な人間になろうと決意しました。藤樹が、後に近江聖人とあおがれるようになったのは、これが、出発点だったようです。

報告 銅像移転完了



二の丸に移転された中江藤樹像

藤樹先生の銅像が本丸から二の丸へ移転しました。これを期に、また、新たな気

持ちで、近江聖人と仰がれた藤樹先生の教えを勉強してみたいかがでしょうか。

大洲藩領域図



大洲藩領の推移

寛永十年（一六三三年）一月に、幕府は諸国に巡見使（視察をする役人）を派遣しました。その査察結果に基づいて、翌十一年に將軍家光は、改めて諸大名に朱印状を交付しました。

この目録によると、大洲藩六万石の内訳は、次のように指定されていきました。

- 喜多郡、浮穴郡の内 四万五千石
- 風早郡の内 八千石
- （現在の北条市）
- 桑村郡の内 六千四百石
- （現在の周桑郡の一部）
- 飛地として振津国川辺郡の内 六百石

（この飛地は、米子時代からのもので、現在の兵庫県伊丹市の一部）

その後、寛永十一年八月、松山藩主であった藩生忠知は、改易により領地は没収されました。幕府は、大洲藩の第二代藩主加藤泰興に、松山城の在番を二回命じました。

この間に、泰興は、風早郡・桑村郡の飛地領は大洲藩にとつては不便であるという理由で、それと松山領のうちの自領に近接する土地との交換を幕府に願い出て、許可を受けました。この交換は、江戸において事務的に地図の上で行われ、翌十二年夏までに、処理も完了しました。その時の領地の変更は、次のよう

なものでした。

大洲領となった土地

- 伊予郡十七村
- 一万四百四十石一斗六升
- 浮穴郡二十村
- 三千三十二石五斗八升五合
- 松山領となった土地
- 風早郡（内陸部）四十三村余
- 七千六百七十七石三斗九升一合
- （大洲領島方の七村は旧のまま）
- 桑村郡十四村
- 六千四百一十一石一斗一升四合

これにより、新たに大洲領となった伊予郡・浮穴郡の土地は「替地」と呼ばれました。その後文化十四年（一八一七年）一月二十八日に「郡中」と読み替えるように御触れが出されました。

古写真再募集

かわら版第二号で、古写真の募集を呼びかけましたところ、市内常磐町の岡福二郎さんと大洲の栗田四郎さんより貴重な資料の提供等がありました。ご協力誠にありがとうございました。市では、引き続き取り壊された大洲城の櫓やお堀の古写真を募集しています。もしも、このような写真がありましたら、大洲市総務部総務財政課 ☎21111（内線328）までご連絡ください。



よみがえ **カラ一版** 今甦る 大洲城 天守閣



かわる版
復元大洲城

第 5 号

平成 9 年 1 月 1 日

発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話 0893-24-2111

古写真のカラー化

このたび市では、明治時代に写された大洲城天守閣の白黒写真（古写真）を、カラー写真に復元してみました。

上のカラー写真が、最新のコンピュータグラフィックスを利用して復元したものです。具体的には、まず、原稿となる白黒写真を高解像度のイメージスキャナを使用して、画像をコンピュータに読み込ませます。次に、読み込んだ画像を、コンピュータで〇・〇〇一五ミリという微小の点に分解します。そして、その点のひとつひとつを発色させて、カラー写真へと復元していくのです。

「大洲」の由来は？

皆さんが常日頃から親しんで使っている「大洲」という地名は、いつ頃から生まれたのでしょうか？

その答えには、意外にもお城が関係しているのです。

幕府は、武家諸法度の公布以来、お城や石垣の補修を行うには、すべて絵図などを添えて願い出て、その認可を受ける必要がありました。

すでに、貞泰の時代に城内の長屋と塀が破損したので、一度許されて補修をしていました。

治世が、泰興の時代になって、今度は、石垣が崩れたので、万治元年（一六五八年）その石垣の築直しを願い出しました。すると、これに対する幕府の認可書には、次のようなことが書かれていたのです。

大洲の城石垣八箇所崩れ候について築直したきの由、絵図のとおりその意を得候。元のごとく音言あるべく候。恐々謹言。

このように泰興の時代になって、公式文書としては初めて、

「大洲」という地名が使われ始めた。

では、いったい、誰が一番最初に「大洲」という地名を使ったのでしょうか？

この答えは、今後、大洲城の歴史を研究することによって、発見できるかもしれません。

日本という国名は？

六〇七年、聖徳太子は、中国の隋という国に、使い（遣隋使）を派遣しました。そのときの使いだっただ小野妹子が持参した国書（国が正式に出した手紙）に、

日出づる処の天子
書を、日没する処の
天子に致す 恙無や

（意味）「太陽が登る国の帝が、太陽が沈む国の皇帝に手紙を送ります。お元氣ですか」と、自分たちの国を「日が登るもとの国（日のもと＝日本）より」としました。

これが、国名としての「日本」が使われた最初です。

特集

旗・印

戦国時代の戦場は、武将たちにとって一大パフォーマンスの場でした。

戦いぶりによって恩賞が決まるので、武将たちは精いっぱい目立とうとして、さまざまな工夫をしました。旗・指物・馬印はその小道具の一つです。

旗は、たとえば、源氏の白旗、平家の赤旗といわれるように、すでに源平争乱の時代からありました。

これは、敵・味方の識別を分かりやすくするためです。この旗の持つ役割が、基本的には戦国時代にも受け継がれ、武将ごとに独特な旗を作り出しました。

武田信玄の「風林火山」の旗や上杉謙信の「毘」の旗などは有名です。

指物は、武将たち一人ひとりが背中にさす、小ぶりの旗をいいます。これは、特に、馬に乗ったときなど勇壮に見えたことから好まれました。

馬印は旗ではなく、近世の火消しが使った繻と同じようなものです。大将の馬の側に立てたことからその名前がつけまし

た。豊臣秀吉の千生、頼軍の馬印は特に有名です。

今回は、このような旗を中心の特集します。

国旗日の丸



旗の縦は、横の3分の2、赤い丸の直径は、縦の長さの5分の3

日の丸は、武田信玄や上杉謙信などの戦国時代の武将も、旗印として使っていました。

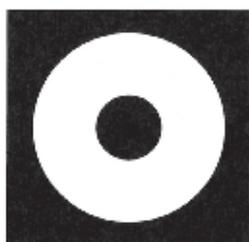
また、豊臣秀吉や伊達政宗も日の丸の旗を船にかかげさせていました。日本の国旗として、今の寸法



東海道大名行列の図

に決まったのは、明治三年（一八七〇年）になってからです。

大洲藩旗印



外円の直径は内円の直径の3倍

へビの目に似ているデザインなので蛇の目紋と呼ばれていました。

古くは弦巻紋といわれたように、腰に付ける弓の弦を巻き付ける革や織製の器具を圖案化したものです。

大洲市章



外円の直径は内円の直径の2倍

大洲市章は、市制四十周年を記念して平成六年七月一日に制定しました。

大洲藩主加藤家の家紋「蛇の目」を基に圖案化したもので、青色は清らかな流川の流れと人々の知的で澄んだ心を表しています。

シンボルマーク

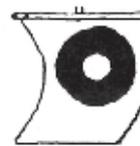
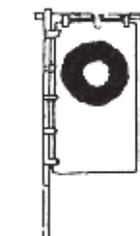


流川の流

平成六年九月一日に、市が市制四十周年を迎えるのを記念して、平成六年三月三十一日に制定しました。

デザインは、大洲（OZU）の「O」をモチーフに、市が二十一世紀に向かって発展する姿を表現しています。

船印



馬印



(主家の紋を染抜いた)半てん

旗



かわら版 復元大洲城

第6号

平成9年2月1日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話 0893-24-2111

大洲城の歴史

- 1 -

大洲城は、古くは比志城、地蔵嶽城、大津城とも呼ばれていました。今回は、この大洲城の歴史について、誕生から戦国時代の初頭までを振り返ってみることにします。



城山風景

比志城の戦い

大洲城の歴史は古く、源氏と平家の戦いの時代まで遡ります。時は元暦二年(一一八五年)今から約八百年前、平家方についた阿波国(徳島県)の豪族・田口則良は三千騎余りの兵を率いて、伊予国に攻めてきました。これに対して、風早郡(北条市)に本拠を置く伊予国の豪族・河野通信は、伯父の宿良通書を出撃させ、自らは比志城にたてこもり防備を堅めました。阿波の則良は、大軍を率いて通書の陣を包囲しました。通書は力をつくして防戦しまし

たが、多勢に無勢。ついに正月二十二日陣に火を放って一族家人五十人余りの人といっしょに自害しました。

この戦いに勝利を治めた則良は、その勢いで同二十五日比志城にまで攻め寄せました。

この時、守りについた比志城の兵士は少なかつたにもかかわらず、命がけて戦いました。五昼夜にわたる激戦の後、戦いに疲れはて、矢もうちつくした則良方の兵士は、あきらめて比志城の囲みを解いて、引きはじめました。

これに対し、通信は、その機をのがさず、自ら城を出て先頭にあち、五十余町(現在の約五キロメートル)も追撃し、平氏の兵をうちやぶりました。

則良はなんとこのがれ、讃岐(香川県)まで逃げ帰りましたが、この時に通信方があげた敵国の首の数は一千余りであったと伝えられています。

こうして通信は、伊予の平家方を平定して、湖・讃岐の味方になり、平家滅亡の一翼を担いました。(予章記)

この時戦場となった比志城が後の大洲城の前身であったと考えられています。

宇都宮氏の支配圏

室町期支配領域図



地蔵嶽城の築城

比志城の戦いから約五十年が経過した鎌倉時代の末期、元徳二年(一一三〇年)三月、宇都宮昌房は伊予国の守護職に任命されて、喜多郡を治めることになりました。

翌元弘元年、昌房は当地に人困し、領内の地蔵嶽に城を築きました。

この城が、地蔵嶽城です。以後、宇都宮氏代々の居城となり、その支配が約二百三十年間続きました。

戦国時代の大洲

戦国争乱期を迎えて、八代・宇都宮昌綱の時代になると、中国の毛利氏、道後の河野氏、宇和の西園寺氏、土佐の長宗我部氏、一条氏などと、相互に入り乱れて戦いはじまりました。

摂津氏との戦い

天文九年(一五四〇年)、元城・今城・天神山城の城主で、元城を主城としていた摂津親興と萩ノ森の城主・宇都宮昌綱との間に戦いがありました。

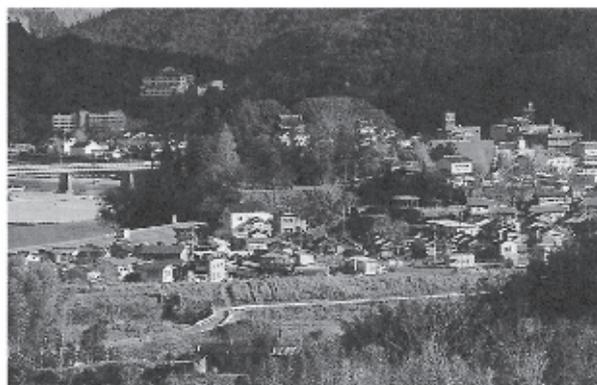
八代・宇都宮昌綱は、弟の房綱を助けるため、兵五百騎を率いて、親興を討ちやぶりました。しかし、逆に親興の子・親宣らに夜昼時まで追撃され、大将の宇都宮蔵人ら四十人余りが討たれたので、地蔵嶽城まで退却しました。

かわら版 復元大洲城

第7号
平成9年3月1日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話0893-24-2111

大洲城の歴史

-2-



地蔵嶽(大洲)城

前回に引き続き、大洲城の歴史について振り返ってみます。
今回は、百年ほど続いた戦国時代の中で、城を中心としたような戦いが繰り返されたのか。
皆さんと一緒に一五〇〇年頃の当地方に戻ってみたいと思います。

飛鳥城の戦い

弘治二年(一五五六
年)、大津(大洲)の武士
が、隣国である西園寺
領の境に侵入しました。
その時、狩に出てい
て城にいなかった西園
寺公高は、使者からの
急な知らせを聞いて、
すぐに戦いの準備を整
えました。
これを聞いた地蔵嶽
(大洲)城主宇都宮豊
綱は、その一族である
灘城主の津々木谷武綱

や大野直之らに命令し、東多田(宇和町の太子瀬戸付近)の飛鳥城を攻めさせました。

これに対し、飛鳥城の城代上甲光康からの知らせを聞いた弱冠十九才の公高は、若さの血気も手伝って、具足もつけず狩をする身なりのまま出陣し、東多田まで軍を進めました。そして、自ら得意の槍をふるって敵陣に攻め入り、大いに奮戦しましたが、ついには刀つき戦死しました。また、上甲光康も戦死しました。

この知らせを聞いた公高の父実光は大いに怒って、直隸の諸将を率いて戦いを助けました。土居清宗、今城能光の両将は、先陣をきそい、宇都宮豊を打ち破りました。

そして、清宗は、不動介為友らに兵六百騎余りを与え、宇都宮氏の居城地蔵嶽城まで攻めさせ、大いにこれを破りました。これを知った道後の河野通直は、自ら出張してきて、両家を和睦させました。(『津治記評林』等)

河野氏との戦い

永禄元年(一五五八年)、宇都宮豊綱は道後の湯築城主・河野通直と戦いました。
通直は、毛利元就の女を妻としていた関係で、中国の毛利に援軍を求めました。

戦国時代の勢力分布図

茶字…守護大名→戦国大名に転化した者
黒字…守護代・国人など→戦国大名に転化した者



資料：日本史図説



戦国時代の古城跡一覧表(その1)

かわら版復元大洲城第6号で掲載しました「戦国時代の古城跡分布図」で、城の位置を確認しながらご覧ください。

資料：昭和62年愛媛県教育委員会発行『愛媛県中世城館跡』

五郎		高山	阿蔵		大洲					地区			
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	地図番号
小笹城	岡崎城	玉川城	源氏が森	尾中城	八幡城	神楽山	法華寺山	大禪寺山	浮舟城	裁判所山	岡城	大洲城	
不明	岡崎紀伊守	宇都宮正綱	不明	大津賀石見守	永田日向守	兵頭主計守	不明	不明	不明	不明	不明	宇都宮・藤江守 菅田三郎門太夫 戸田民部少輔 藤堂和未守 脇坂中務少輔 加藤左近大夫	
<p>市内の中心、飯川の河岸に建てられた平城で、別の名を比志城、地藏嶽城、大津城ともいう。近世城郭としての大洲城は、慶長氏時代に完成したといわれている。</p> <p>江戸時代「太郎宮」(神社)が勧請(神仏の分霊を他の地にも祭ること)されたり、戦後の宅地化で消滅した。</p> <p>【大洲秘録】 市営住宅・大洲簡易裁判所・大洲高校に挟まれて城跡は明確でない。「古城跡」</p> <p>大洲市浮舟にあり。「大洲隨筆・古城址記」</p> <p>飯山根にあり。共に善長寺遺成時に消滅した。【古城址記】</p> <p>東山根にあり。滅した。【古城址記】</p> <p>志保町にあり、近世には寺院が、明治初期には大洲神社が建てられた。</p> <p>阿蔵武田にあり、大野直之がこれを攻める。「古城跡・古城址記・米良文書・旧記」</p> <p>長宗我部氏に亡ぼされ、後に阿蔵村の庄屋となる。「大洲城址記・温故録・古城址記」</p> <p>高山の成畑にあり、城跡近くに馬場がある。</p> <p>五郎玉川と阿蔵只越の境にあり、笹ヶ森城ともいう。正綱は後に上土谷(豊茂)の笠岡城に移る。</p> <p>五郎二区にあり。「大洲旧記・温故録・古城址記」</p> <p>五郎の山頂上須成との境にあり、堀切二本を残す。「古城址記」</p>													

前久米	平野	徳森	市木	山口	五郎	豊後
26	25	24	23	22	21	20
花瀬城	権現山 烽火台 錦が森城	血が森城	御代の城	高森城	徳森城	市木城
鎌田甚六	土岐伯耆守	不明	大蔵	梶谷伊豆守	徳森次郎兵衛	不助
<p>北只にあり、錦が森城とともに地蔵嶽城との関係が大である。</p> <p>北只にあり、土岐の城ともいう。宇都宮氏の枝城で、大野直之がこれによって河野氏と戦う。「大洲旧記・大洲城址記」</p> <p>北只にあり、豊の森城ともいう。大洲城の背面防衛の要害で、天正七年大野直之は河野方と激しく戦う。「大洲旧記」</p> <p>五郎二区谷河内にあり。「古城址記」</p> <p>五郎清水にあり、氏知れず。「大洲城址記・大洲旧記・温故録」</p> <p>山口にあり、城の森、森城ともいう。</p> <p>【温故録】 代々中野氏の居城で、永禄年間大野利直の子直則(市木左馬助)が中野氏を追って居城とする。「大洲旧記・大洲秘録・大洲隨筆・古城址記」</p> <p>道路建設により北平分消滅した。</p> <p>市木の山頂にあり、井口跡があった。本城は城館名が断定し難く、元居の城、里の城のいずれかともいう。</p> <p>天正六年、中国上月城を攻め奮戦する。</p> <p>【大洲旧記】「温故録・古城址記」</p> <p>平地にあり梶谷城ともいう。要害堅固な山城。天正四年大野直之に奪われるが、同六年には梶谷三兄弟が奪還した。</p> <p>【大洲旧記・大洲秘録・梶谷文書】 鎌の田にあり「城主名のりしれず」とあり。高森城の枝城という。</p> <p>野田にあり、南方殿遠見の城と「宇和旧記」にあり。</p>						



長宗我部元親の侵攻



長宗我部元親

皆さんご存じの織田信長が、桶狭間の戦いで、今川義元の大軍を破った水禄三年（一五六〇年）に、土佐国（高知県）では、長宗我部元親が二十一歳で、初陣を飾っていました。そして、そのわずか七年後には、当地方にまで勢力を伸ばしていたのです。果たして大津（大洲）の運命はいかに……。

さっそく振り返ってみることにしましょう。

かわら版 復元大洲城

第 8 号

平成 9 年 4 月 1 日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲 690-1
電話 0893-24-2111

大洲城の歴史

- 3 -

第一回来襲

永禄十年（一五六七年）、土佐国の長宗我部元親は、四国平定の野望を企てて、大軍を率いて、大津に侵入してきました。

これに対して、地蔵嶽（大洲）城の宇都宮豊綱は、土佐の大軍を迎えうつには、おぼつかないと考え、急いで追後の湯築城主・河野通直に助けを求めました。

しかし、ちょうどこの時、通直の手勢も少なかったため、大津の急難を救うことはできませんでした。

豊綱は、家臣・大野直之と相談して、矢野行盛の弟の行吉を花瀬城（北口）に陣どらせ、長宗我部軍の来襲にそなえました。

花瀬城落城

やがて、土佐の大軍は花瀬城を攻撃し、この戦いでどうとう行吉らは戦死して、城は攻め落とされました。

地蔵嶽城主降伏

そして、豊綱のいる本城の地蔵嶽城にも攻め寄せてきました。豊綱も死力を尽して防戦しましたが、ついには、力尽き降伏しました。

菅田の 矢野勢大奮戦



松の城跡

松の城の戦い

それから、長宗我部の軍は、腋川をさかのぼり大竹の松の城の攻めにかかりました。

この城は、腋川を北にひかえた急傾斜の要害で、城主・矢野行盛は、土佐の大軍をなやました。

数日間攻めても、どうしても落ちないので、長宗我部の軍は、城南の井手（水を引くために川をせきとめた所）の堀を切って、城兵の飲み水を絶つ持久戦

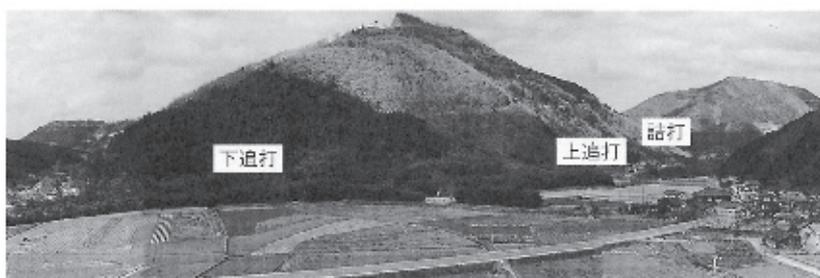
に持ち込みました。

城内では、飲み水を絶たれて一日と苦しさが増してきました。そこで城兵は、少しでも多くの水があるように見せかけるため、米に灰をまぜて、庭に水を打つように見せかけたり、城の塀の上から落としたりして見ました。

すると長宗我部の軍は、遠くからその様子を見て、松の城にはまだたくさん水がある。戦法を変えていこうと考え直しました。

※裏面へつづく

大洲城の歴史



根太山風景



矢野若狭守墓地参道入口



大圓寺



若狭様のお墓参りをする矢野一族

戦法変更

長宗我部の軍は、今度は、城の包圍を解いて退いたら城兵は必ず追って出てくるであろうと

長宗我部の軍は、追われれば是早に逃げ退きました。すると

かかった矢野勢は、進退きわまらなくて、右往左往逃げ回りました。

これが、今の上追打・下追打

考え、これを討つ計画を立てました。そして、城外の井手が谷に伏兵を置いて、白昼わざと騒いで退却しました。

矢野の軍勢は、なおもこれを追いつ、討ちとろうとしました。この時、かねてよりかくれていた伏兵が、にわかに立ち上がって来ました。矢野の軍勢は、後の伏兵に立ち向かおうとする、前の敵兵が取って返し、我先にと切りかかってきました。

敵の軍勢は一人も逃がすなど追いかけて、敷川沿いに上へ下へと走り回りました。



松の城跡(大竹神社)

なお、この戦いで土佐国の一多兼定は、元親と相談の上、地蔵堂の守りとして、波川清宗に兵千五百騎余りを与え帰陣しました。 (『大洲日記』等)

で、ついに追い詰められたところを詰打という『大洲日記』に述べられています。また、この松の城主には幼児がいて、落城のとき、同族に頼んで逃げのび、若宮さまといって養育したと伝えられています。そして現在も、松の城主を「若狭様」といって同族が集まり、毎年四月八日に大圓寺で法要が営まれています。

大洲城天守閣を建てたのは 藤堂高虎か脇坂安治か

かわら版
復元大洲城

第9号
平成9年5月1日
発行 大洲市
総務部 総務財政課
大洲市大洲690-1
電話0893-24-2111

史談会例会報告

近世大洲城の成立(上)と題した研究発表が、去る二月八日博物館で行われました。
これは、大洲史談会の会員が毎年数回、自己の研究成果として発表しているものです。
今回は、会員の宮尾克彦さん(50)が約一時間半にわたり、発表されましたので紹介します。



例会風景

要旨

近世大洲城の天守閣(四層四階)を建てたのは、いったい誰だったのでしょうか？
現在、各研究者の説には二つの流れが存在しているようです。

一つは「藤堂高虎築城説」であり、主に郷土史家、城郭史家の人たちが唱えています。
これに対し、建築史家からは「脇坂安治築城説」が唱えられています。

それでは、今回は歴代城主像を中心に再検討を行うことにします。

くわしい内容については、博物館に小冊子(無料)がありますのでご利用ください。ここでは紙面の都合上、ポイントのみ紹介します。

小早川氏

天正十三年(一五八五年)、小早川氏を中心とする毛利軍は秀吉の命令を受け、伊予国に進軍し、制圧。これにより伊予の中世は終りを告げた。

施設は「大洲城を存続、曾根城は取り壊し。瀬、大蔵、祖母井の三城は一城に統合」など。

戸田氏

天正十五年(一五八七年)、小早川氏の九州転封に伴い、戸田

勝隆が大洲城に入城。

天下人となった秀吉の下で、勝隆の立場を推察できるものとして、「聚楽第」の図がある。この図中勝隆の屋敷は、聚楽第外郭の一角を占めており、秀吉又は秀次の側近的な性格を持っていたことが伺われる。

藤堂氏

文祿四年(一五九五年)、高虎は当初、大洲城に入城。その後、慶長元年(一五九六年)秋には本拠を板島に移し、現在の宇和島城の普請を開始。

関ヶ原の戦い(一六〇〇年)の後、東軍の将として活躍した高虎は、東軍において加増され、新しく今治城を築いてそこに移る。

慶長十三年(一六〇八年)、藤堂氏は、二十二万九百石余りを与えられ伊勢(三重県)の津に移る。大洲は翌年の脇坂氏入城まで引き続き藤堂氏により管理される。

脇坂氏

慶長十四年(一六〇九年)、淡路の洲本より、脇坂安治が二万石の加増を受け、五万三千石の領主として大洲城へ入城。

安治は、関ヶ原の戦いにおいて藤堂高虎の誘いにより、途中で東軍へ寝返り木領(洲本)を安堵されている。それ以後、高

虎とは密接な関係をもつ。

大阪夏の陣による豊臣氏滅亡直前、安治は隠居し、息子安元が大洲城主となり、元和三年信州飯田(長野県)へ転封。安元は将軍家光と和歌を通じて親しく、幕府中枢部との関係が深かったといわれている。寛文年間、脇坂氏は山陽道の重要拠点、播州竜野(兵庫県)に転封となり幕末まで続く。(江戸時代後半の藩主安元は、老中等要職を歴任し、徳川幕府の重臣として活躍する。)

感想

以上、この時期における大洲城の歴代城主達が当時の天下の動靜に深く関わっていたことに今更ながら驚きを禁じえない。そしてこれら中央政權の意志が大洲城の成立過程に反映されているのであろうことは安易に想像される。
(次回の発表は、平成十年一月の予定です。)

会員募集

「大洲の歴史」に興味のある方はぜひ御参加ください。
大洲史談会では、現在会員を募集しています。お申し込みは大洲史談会事務局(大洲市立博物館内)TEL24-4107まで。お待ちしております。



戦国時代の古城跡一覧表(その2)

かわら版復元大洲城第6号で掲載しました「戦国時代の古城跡分布図」で、城の位置を確認しながらご覧ください。

資料：昭和62年愛媛県教育委員会発行『愛媛県中世城館跡』

菅		田			南		久	米		池	地区		
39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	
池田城	金丸城	里の城	菅田城	龍王城	松の城	池上城 (松森城)	松の森城	古屋敷	亀が森城	新座掘城	尾崎城	今川城	古城名
池田伊予守	城戸太郎左衛門	不 明	菅山綱宗	岡宮内宗全	矢野若狭守行定	住田主税	松浦豊前守	不 明	宇都宮朝綱	不 明	不 明	不 明	城主名
<p>北只にあり。『宇和旧記』</p> <p>黒木にあり。</p> <p>黒木にあり。</p> <p>黒木村にあり、鎌倉時代以降宇都宮氏の居城。『宇和旧記・伊予古蹟志』</p> <p>野左楽にあり。農地造成により消滅。『古城跡記』</p> <p>松尾にあり、西園寺氏の旧臣松浦氏下城の後寺尾姓に改め、松尾村庄屋となる。稲積にあり、城の森・住田城ともいう。下城の後桑野村(稲積村)の庄屋となる。大竹にあり。郭が八箇所にもたがる大規模なものである。永祿のころ若狭守行定、その子行盛の居城。後子孫、梅川・菅田・大竹の庄屋となる。『大洲旧記・大洲秘録・大洲隨筆』</p> <p>森山城主宮永美作守家老、岡宮内宗全の居城。天正十一年、少彦名命の社殿を造営する。『大洲秘録・大洲領古城記』</p> <p>菅田下東にあり、兵部大輔綱宗の後、大野直之・有友藏人進止本居城。有友氏後に菅田村庄屋となる。『古城跡・城郭大系・乃美有友文書・大洲秘録』</p> <p>菅田中東にあり、菅田城主の居所と思われる。『大洲城址・大洲旧記・古城跡記』</p> <p>城戸氏は得能氏の一族で、四世紀以来の旧城。『古城跡・大洲城址・大洲領古城記・大洲秘録・温故録』</p> <p>菅田の宇津にあり、石探り場となり消滅。『大洲旧記・大洲秘録・大洲領古城記』</p>													

新谷		蔵			川		大		川		菅		田	地区			
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40
山本城	御台城	奥の城	小蔵の城	古殿城	三重の城	岡崎城	砂連城	條振城	佐礼の城	成礼の城	成能の城	大王城	高とき城	沖の城 (成野城)	宇津城	大野城	藤川城 (富士川城)
袖岡氏	不 明	大野安善守直家	大野二郎太直光	宮永伊賀守													
<p>宇津にあり、城主を宮永藤内蔵ともいう。『大洲旧記・大洲秘録・大洲領古城記』</p> <p>宇津の成見にあり、築城は古く二代武虎に始まるという。春賀の祖母井城を攻め、その子孫、元和のころ庄屋となる。『大洲旧記・大洲領古城記・古城跡記・温故録』</p> <p>宇津の袖木にあり、袖木城ともいう。大洲喜多郡内の豪族大野氏の居城。久万大除城主も同族である。『大洲城址・大野文書』</p> <p>成野沖にあり、宮永直安の弟美作守の居城。『大洲旧記・大洲秘録・大洲城址』</p> <p>成能にあり、栗林に造園され遺構は皆無である。『古城跡・大洲城址』</p> <p>成能の杖の瀬にあり。『大洲旧記・古城跡記・古城跡・大洲城址』</p> <p>森山の畷川河川敷の中にあり、城主の臣岡氏後、森山村の庄屋となる。『大洲領古城記・大洲秘録・大洲隨筆』</p> <p>森山の東にあり。『大洲旧記』</p> <p>根元地区にあり。『大洲旧記・古城跡・大洲城址』</p> <p>丸山地区にあり、旗振り場か。『古城跡』</p> <p>日の平地区にあり。</p> <p>根元地区にあり。</p> <p>木谷にあり。</p> <p>東沖にあり。『大洲旧記・古城跡・大洲領古城記』</p> <p>小石にあり。『古城跡』</p> <p>長谷にあり。『古城跡』</p> <p>上組にあり。『古城跡記』</p> <p>袖岡元城ともいう。『温故録・古城跡記』</p>																	



大洲城天守閣の模型が完成



▲北北東から天守閣(右)と台所櫓(左)を見る

かわる版
復元大洲城

第10号

平成9年6月1日

発行大洲市

企画商工部商工観光課

大洲市大洲690-1

電話0893-24-2111

お披露目式を開催

大洲城天守閣の外観模型が完成し、三月十八日に市役所口ピーでお披露目式を開催しました。

この模型は、現存する台所櫓と高欄櫓(いずれも重要文化財)に四層四階の天守閣を加え、両方の櫓に通じる多間櫓(渡り櫓)を配したものです。三十分の一の縮尺で往時の姿を再現しました。市制施行五十周年を迎える平成十六年の春、大洲城跡本丸にこの雄姿が現れることを目指しています。

お披露目式では、耕田市長が「市のシンボルとなる大洲城天守閣の模型を市民の皆さんに見ていただき、今後の復元作業に協力してもらいたい」とあいさつ。続いて、久保市議会議員長をはじめ天守閣復元委員会の役員五人が除幕をして、模型の完成を祝いました。



▶除幕の様子

で、天守閣の高さは本丸地面から約六十センチ、石垣の高さは約二十センチ。合わせて約八十センチの大きさで、実際の高さは約二十四メートルにもおよびます。

大洲城天守閣の特徴は？
除幕後、この模型を製作した竹林舎建築研究所(東京)の代



▶宮上茂隆さんによる天守閣の説明

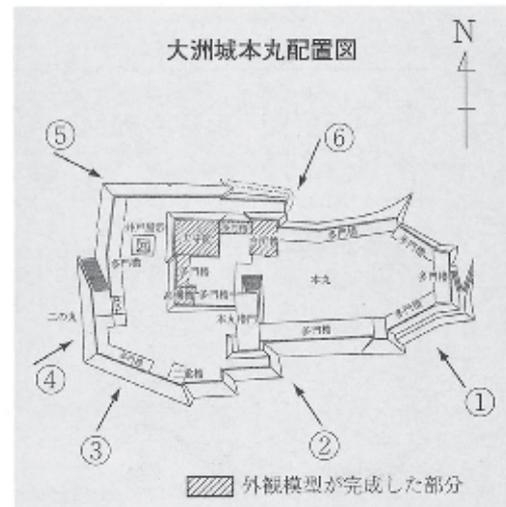
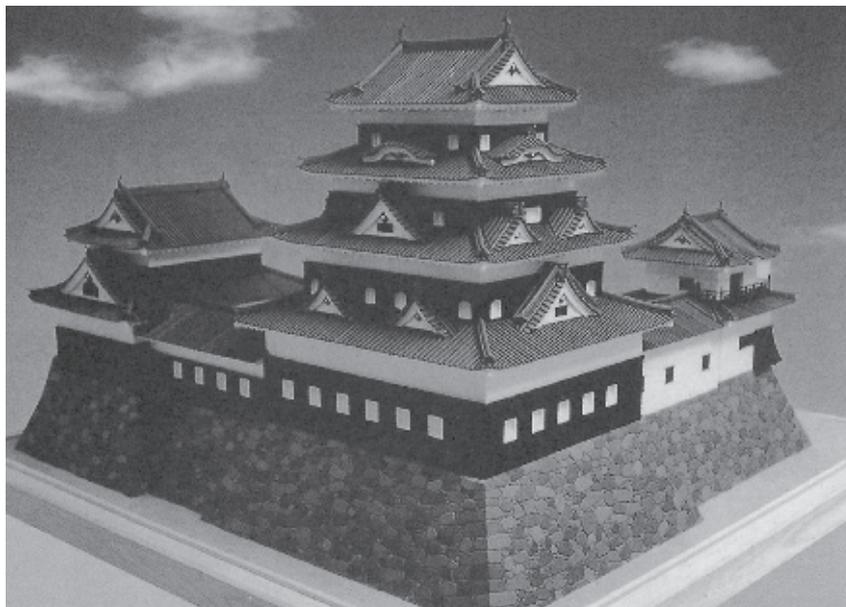
表である宮上茂隆さん(大洲城復元委員会顧問)が、天守閣の特徴を説明しました。

そもそも「天守」と呼ぶ建築の起源は、信長の建てた岐阜城で、大洲城天守とほぼ同規模で類似した形だった。外壁は、窓の高さまでが黒色の下見板張り、壁上部から軒裏までは白漆喰塗籠め、黒と白が上下方向に交互に重なる方法も岐阜城天守と同じ。二階の窓に「火灯窓」を使っているのが大洲城の特徴。岐阜城では、火灯窓が最上階のみ使われているが、二階に連続



▲二階部分に連続して配置された火灯(かとう)窓

的に配置されているのは、秀吉時代に建てられた近江大津城天守と同じ。
要するに大洲城天守は、原形である信長の岐阜城天守を基本に新たな要素も加えて構想されたものであるということ宮上さんは力説しました。



100年の時を越え
往時の雄姿が現れる

④ 西面西から見るから見る



⑤ 北西から見る

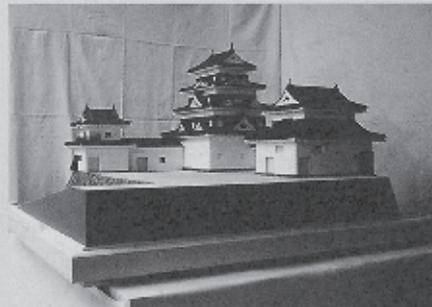


⑥ 北東から見る



大洲城天守閣

① 東面東から見る



② 南面西から見る



③ 南面西から見る



かわる版 復元大洲城

第11号
平成9年7月1日
発行大洲市
企画商工部商工観光課
大洲市大洲690-1
電話0893-24-2111

大洲城の歴史

—4—

第六号・七号・八号に引き続き大洲城の歴史について振り返ります。戦国時代の当地方は、北に河野・毛利の勢力、南に一条・長宗我部の勢力にはさまれ、激しい戦いが繰り返されました。やがて秀吉による四国平定が行われ、戦乱の時代も終局を迎えます。戦いのない統治のシンボルとして、大津城に天守閣が出現するのです。

再び河野氏との戦い

永禄十一年(二五六八)、大津(大洲)の宇都宮豊綱が長宗我部元親に降伏したことを聞いた道後の河野通直は、急いで毛利元就に報告し、援軍を求めました。これを受けた元就は、小早川隆景・吉川元春に兵数万騎をよび、渡海の準備を急がせました。

その間、先発の河野軍は、地蔵ヶ嶽城を包囲して、三昼夜にわたり激しく攻めたてました。しかし、土佐の援兵千騎余りを従えた城の守備は堅く、攻めあぐんでいました。

二月二十四日、毛利軍は、仁久(長浜町)に上陸し、中国の備後、安芸、伯耆、出雲、石見、周防、長門、備中から集決した



▲戦国時代に幾多の戦乱が繰り返された大洲城。(手前：南院櫓、左：高欄櫓、右：台助櫓、天守閣は高欄櫓の後方に出現することになります。)

軍勢は三万騎にもなりました。毛利軍は、まず、大洲城に攻め込み城主下須成行宗をはじめ籠城していた三百人余りの兵士を討ち取りました。わずかに難をのがれた残兵が山づたいに大津へと逃げ込みました。(兵燹正著「水禄以前の大洲城主について」)同日、河野軍も上須成の向井城を攻め落とし、兵五百人余りを討ち取りました。(「隆徳天皇日記」)

こうして二城を攻略した毛利・河野連合軍は、ただちに地蔵ヶ嶽城を攻めず、兵を鳥坂城(宇和町)に進めました。そこで一条、長宗我部、宇都宮連合軍と戦ってこれを撃破しました。(「宇和日記」)三月に入っても毛利・河野連合軍は、大津周辺の城を次々に攻略し、本城近くの鶴ヶ森城にたてこもる大野直之を激戦の後に破りました。

一方、長宗我部方では宇都宮の支城が次々に攻め落とされ、大津あやうしの知らせを聞き、軍勢一万騎余りを率いて柿原(五十崎町)に陣を張りました。

これに対し毛利・河野方では、一万二千余騎が対陣して、互いに小競合を繰り返していました。長宗我部の援軍を待ちわびていた宇都宮・大野などの地蔵ヶ嶽城は、懸命の防戦にもかかわらず、五月十八日に力つきて河野の軍門に降りました。(「萩藩閩閩録」)

毛利方の小早川隆景は、宇都宮豊綱を捕え備後(広島県)三原に流しました。(「吉川家譜文書」)この後も地蔵ヶ嶽城は、毛利・河野方、長宗我部方の勢力の間にありました。城主の宇都宮氏・大野氏は、自分たちの存亡をかけて、朝に結び夕に離反し、文字どおり争乱を繰り返していったのです。

天下統一の流れの中で

やがて、秀吉の四国侵攻により、天正十三年(二五八五)に小早川隆景が当地方を平定しました。隆景は、道後湯月城の築城を行い、大津には子の小早川藤四郎秀包を住まわせました。

小早川が天正十五年(二五八七)に九州に転封になった後、戸田勝隆が宇和・喜多十六万石に封ぜられ、大津を居城としました。文禄三年(二五九四)に出兵していた朝鮮の唐島で病死したと記されています。

次に大津城主となったのは、文禄四年(二五九五)までの七カ月間に池田高祐(二万二千石)であるという史料がありますが詳しいことは分かっていません。築城の名將として知られる藤堂高虎が七万石の蔵入代官を命ぜられ大津に来たのは、文禄四年(二五九五)のことです。慶長二年(二五九七)には朝鮮へ

出兵し、のちに日本に儒学を伝えることになる学者姜沆(姜沆)を含む千人余りの朝鮮半島の人々を大津へ連れ帰りました。高虎は、板島(宇和島)、今治にも城を築き、慶長十三年(二六〇八)に伊勢へ移封となりました。

その後、慶長十四年(二六〇九)に脇坂安治が淡路洲本から喜多郡浮穴風早三郡に五万三千五百石を封じられ、大津の城に入りしました。脇坂は、庄屋体制などを始め治政上の体制を整え、城郭としての町割りを完成したといわれています。脇坂は、元和三年(二六一七)に信州飯田へ転封となりました。

同年八月、米子から加藤貞泰が大津六万石城主として入城しました。この後隆景置居まで加藤家の治世が続いたのです。

さて、天守・小天守を持つ大津城は、いつの頃に出現したのでしょうか。「かわら版」九号でも紹介したとおり、藤堂説、脇坂説が唱えられ決定的な史料がないのが実状です。しかしながら、大津城の天守閣は、日々戦乱に明け暮れた時期を過ぎ、日本が近世国家への統一へむかう歴史の中で、治世を行う大名のシンボルとして誕生したようです。その時、大洲の地から戦は消えていました。ある意味で、天守閣は平和のシンボルだったのです。

戦国時代の古城跡一覧表 (その3)

かわら版復元大洲城第6号で掲載した「戦国時代の古城跡分布図」で、城の位置を確認しながらご覧ください。

資料：昭和62年愛媛県教育委員会発行『愛媛県中世城館跡』

粟津	三 善				田 処 柳 沢				新 谷				地区				
74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	番号
水沼城 (城の台)	後藤館跡	祖母井城	沢山城	立野城	向井城	高森城	(城の台) 薄木城	(岡の城) 尾崎東内蔵	是城	陣の森城	東の城	西の城	正木の城	元木城	中木城	和田城	貞行城
水沼治部大輔	後藤新兵衛	祖母井之重	不 明	矢野新兵衛	服部氏	佐田主殿	田処神左衛門	尾崎東内蔵	尾崎藤四郎	不 明	平井出雲守	藤沢勘解由	不 明	不 明	不 明	大塚氏?	貞之氏
定行城ともいう。東の台、西の台に分かれ山城としては大規模で空堀もあり、眺望よし。 和田にあり、城山ともいう「温故録・古城砦記」 和田にあり、「温故録」 新谷の山口にあり。 喜多山にあり。 喜多山にあり。「大洲旧記」 喜多山にあり。平井氏後に庄屋となり断絶し、久保氏その後をつぐ。「大洲旧記」 喜多山河内にあり、西の城の出城か。「大洲旧記」 柳沢本郷にあり、藤四郎御を愛し柳沢村の名起こるといふ。「大洲領古城記」 田処小屋にあり、天正年間長宗我部の軍に攻められ落城すといふ。「大洲旧記」 田処にあり、右に同じ。 田処にあり、右に同じ。 春賀にあり、建之城、権城ともいう。祖母井城の枝城。昭和四十一年五十年代の畷川堤防建設に際し消滅した。「大洲秘録・温故録・古城砦記」 春賀にあり、祖母井城の出城か。「大洲秘録・温故録・古城砦記」 春賀の和田にあり、代々祖母井氏が居城し攻防戦をくりかえす。三月二十六日は祖母井神社の祭礼。「大洲旧記」 大洲秘録・大洲隨筆・温故録・古城砦記 東宇山にあり、祖母井氏の家老の館跡。墓地、鉄塔建設により破壊が著しい。 八多喜にあり天王城ともいう。代々水沼氏の居城。下城後藤堂氏に仕えて伊																	

上 須 戒	粟 津				粟 津				地区	
84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	番号
向居城	桜が城	保安城	篠尾城	松葉城	堀越城	白木城	(古城) 三好城	灘の城	信尾城	古城名
向居安芸守	城戸美作守	不 明	篠尾備後守	不 明	不 明	白木修理允	三好左衛門尉	津々木谷氏	延尾修理大夫	城主名
勢に移り住む者もある。「古城跡・大洲城砦址・米良文書・水沼文書・大野芳夫氏文書」 八多喜の清水にあり、清水城、延尾城ともいう。天正十一年河野氏に攻められる。「古城砦記・米良文書・萩藩関録」 米津にあり、代々津々木谷氏の居城。石畳と空堀がある。眼下の畷川に断崖で臨み、十四世紀以降の旧城址。米津城ともいう。「古城跡・大洲城砦址・西園寺文書・大洲旧記・大洲秘録」 米津にあり、津々木谷氏家老格三好氏が居城とする。 手成広岡にあり、白杵城とも書く。灘の城の枝城。「古城跡・米良文書・水沼文書・大洲秘録・大洲旧記」 手成にあり。「古城跡・大洲城砦址」 手成にあり。「古城砦記」 手成にあり、津々木谷氏一族篠尾氏が代々居城とする。「古城跡・米良文書・大洲城砦址」 手成にあり。「古城砦記」 城戸通綱の代に宝蔵寺を再建する。(城戸系図による)後に向居氏の居城となると「大洲旧記」にあり。「古城跡・大洲城砦址・上須戒郷土誌」 向居氏代々の居城、桜が城とともに戦国時に攻防をくりかえす。下城後上須戒の庄屋となる。「大洲旧記・大洲秘録・大洲隨筆・温故録・上須戒郷土誌」										

「かわら版復元大洲城」は、次回号から広報おおずの中に掲載いたします。

かわら版 復元大洲城

第 12 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両櫓を絶ぶ多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎02111（内線222）

大洲城復元に思うこと

寺尾 幸記さん（新谷）



大洲市は、昭和五十九年に天守閣の再建について報告書を作成していましたが、今回市制施行五十周年を目指し、天守閣の復元を計画しています。私は、昨年青年会議所の理事長という立場で、その復元委員に委嘱され、種々のご意見を聞くことができました。その結果、天守閣の復元に賛同しました。

現在、青年会議所では、城郭を持つ全国の青年会議所の組織「全国城下町連絡協議会」に加盟して、城と市民とのかかわりや城の意義などについて十数年間研究を行っています。全国的に見ても、ほとんどの城下町で同じような問題が生じているようです。市民生活のシンボルである城郭は、高層の構造物に埋もれようとしていて、歴史の風雪に耐えてきた建物群がしたい

に姿を消し、文化遺産である地名は捨て去られようとしています。地域の特徴ある産業に支えられた豊かな生活の実現は、きわめて苦難な道をたどりつつあります。城下町特有の景観や地名を子供たちを含む市民の多様な運動で再評価をして、日々の生活に生かしていくことが大切です。

城の石垣、堀の水に映える緑、小路のたえずまはるは、技術革新、高速交通化、高度情報化時代と矛盾しあうものではありません。四百年以上の城下町の歴史で培われた市民の文化と、地域産業の新しい展開にとっても、かけ

がいのない遺産であり価値となっていけるものです。これは、全国の城をもつそれぞれの都市で直面している問題であり、二十一世紀を目前にして、人間の日々の営みを中心とした城のあるまちづくりの基本的考え方だと認識しています。

このような考えのもと、大洲城跡にせひとも天守閣を復元して、二十一世紀での特色のあるまちづくりを展開するべきだと考えています。

この復元事業を進めるうえで大切なことは、市民のみならず天守閣をつくりあげ、それを守っていくことです。残念ながら、現状では、住民に対して復元の具体的な事柄があまり伝わってこないようです。さらに興味を持っている皆さんは少ないように思えます。復元事業は始ったばかりですが、具体的な事項を住民にいち早く知らせ、市民皆さんで議論を行える場所を設けるべきだと考えます。こういった組織ができあがり、またその議論の過程で、当市の新しい文化の創造が行われていくのではないのでしょうか。



▶平成九年に宮城県白石市で開催された「全国城下町シンポ」に参加したメンバー（右から寺尾氏・上石氏・久保氏）

かわら版 復元大洲城

第 13 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄回廊を結ぶ多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まらづくり対策係 電話2111（内線222）

大洲城復元を夢見て

白石 成子さん（柚木）



ある研修会で辨田市長が、「大洲市の展望」と題して講演をされました。その中で、「大洲城の復元」について強調されました。それまでも幾度か住民の間で天守閣の復元の話が聞かれてはいました。

私は、鉄筋でお城を建てることには反対でした。鉄筋によるものは、今治に立派なお城が再建されています。今さら大洲にちっぽけなお城を建てるでも……。そんな気持ちを私は持っていました。市長は、「木造で復元する日本でも数少ない四層四階の天守閣になる」と話されたのです。これには私も大賛成でした。



▶いもたき初集會場で来場者に鍋をふるまう白石さん。旬を愛する会は、初集會をはじめ大洲のまちづくりにも多大に貢献しています。

た道、おおず水煉瓦館、臥龍山荘、そして肱川の流れにそびえ立つ大洲城天守閣が必要だと思えます。

ある日の夕食時「私、お城を建てるよ」との話しに、主人はばかにしたような顔で「なに城を建てる、プラモデルで?」、すかさず私、「何を言っているの、私は大洲城を建てるのよ!」と宣言しました。

した。今では愛媛のいもたきとなりつつある「元祖大洲のいもたき」を、全国の皆さんに知っていただきたいと、「ゆうバック」で送ることを思いつきました。その収益金の一部をまちづくりのための大洲城天守閣復元に使いたいと思いついたのです。

お城のすばらしさを知るために、城の専門書を買求め、「西の旅」の方を聞いて大洲城のページを急いでめくってみました。「大洲城―肱川に迫り出す急崖の上にある、小さいながら複雑、巧妙な縄張りの城。早くから河港として栄えた地であり、築城の歴史は古く、城をめぐる攻防も激しかった。」と書いてあります。

小さいながらも、日本にも数少ない四層四階建ての大洲城天守閣の復元を、市制施行五十周年を目指して、市民みんなの力で、行動で、必ず実現させようではありませんか。

私も微力ながら女性たちのまちづくりを夢みて、汗と涙と、そして喜びを、お城の柱一本にでも押し込めたいと願ってこれからの日々の活動を頑張りたいと思います。

かわら版 復元大洲城

第 14 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目標として、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄西櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。尚工観光課まちづくり対策係 ☎2111（内線222）

大洲の文化と大洲城

中川 義博さん（大洲）



「教育と文化の街」これが我が街、大洲市に冠詞としてついている言葉である。

あるとき、ふと疑問を持った。教育はともかく、何をもって文化の街と言うのかと。

大洲市の歴史をひもとくと、長い藩政時代に、もう武道以上に学問を尊ぶ思想があり、儒学、陽明学と流れを受け継ぎ、中江藤樹に代表される偉人を数多く輩出してきた。現代にもその教えは受け継がれ、大洲市民独特の気質を醸し出している。

昨今、大洲城天守閣の復元が話題になっているが、大洲の文化を語るとき、この大洲城の存在が不可欠の要素となるものと思っている。ただ単に天守閣復

元というハード面だけでなく、大洲市の文化をつくり出した先人の足跡を知ることができ、市民が大洲市の文化をより具体的に学習できうる環境を平行してつくり出すべきである。

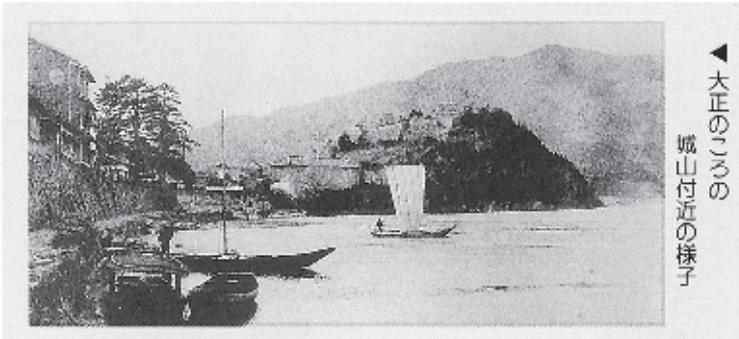
現在、大洲市のまちづくりとして、膝南地区の臥龍山荘を中心に、明治・大正文化の保存などを市民レベルで話し合いが行われているが、大洲城復元に関しても全市民的に議論を行うべきである。まずはもつと城山を身近に感じて親しみ、大洲城復元について議論を戦わせたい。復元することのメリット、デメリットや文化学習としての利用方法、大洲市民のシンボルとしてのとらえ方などなどみんなで考え合うことは、多方面に広がる。

近隣市町村を見わたしても、歴史的建造物として天守閣を復元できるチャンスを持っているのは、我が街のみであり、城郭の再現、膝南の歴史的まちづくりと続けば、さらに他の街にない個性ある大洲市が構築でき、大洲市民として誇りえるまちづくりが進むと確信する。

私たちの意識の中にある、単に「大洲城天守閣があったらいい

いなあ」という思いが、「大洲城天守閣が必要なのだ」という意志に変わって初めて、真に文化の香る街として自信を持って自分の街を語り合え、大洲市ならではの文化の華を咲かせることのできる「まち」に成長していくのではないだろうか。

▲大正のころの城山付近の様子



かわら版 復元大洲城

第 15 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。高工観光課まちづくり対策係 ☎042111（内線222）

「私とまちづくり、私と大洲城」

武内八重子さん（八多喜町）



「伊予の小京都大洲」これは、私が旅先で大洲のことを紹介するときに使うことばです。わが町大洲は、江戸時代からゆつたりと流れる脇川を中心に六万石の城下町として栄えてきました。以来、時の流れはいくつもの小京都情緒をこの地に誕生させました。春は川岸のあちらこちらで咲く菜の花、夏は満天の星空に打ち上げられる花火どうかい、秋は河原でのいもたきなどなど移り変わる季節によって小京都の表情も変わります。また、最近始まった人力車に乗って、おはなはん通りや赤煉瓦館などの脇川の町並みを巡ってみると、そこには人々の生活が息づき、ほかの観光地にはない魅力を感じることが出来ます。さうこう感じ

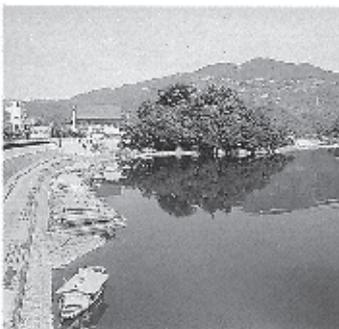
しているころ、人力車は臥龍山荘に到着し、建物や庭の美しさに目をみはり、山川の眺めに日常の煩わしさを忘れてしまうほどうっとりとしてしまうのです。一方、文化面でも、日本の隣明学祖である中江藤樹をはじめ、儒学をわが国に伝えたといわれる学者姜沆、明治維新の国学の重鎮矢野玄道などの哲学・思想家をはじめ、近代の日本創造の原動力となった人々が数多く誕生しています。こういった、歴史や風土に大洲ならではの文化が存在し、伊予の小京都と称される条件がほぼ整っているのではないのでしょうか。

ほぼ整っていると称したのには理由があります。大洲の観光マップを見たとき、「伊予の小京都大洲」にはもう一つ条件がそろっていないのです。それは、城下町としての中心になる天守閣です。今、城山には二つの櫓が残っていますが、それらは木々に覆われ、場所によっては姿も見えません。聞くところによると、大洲城の天守閣は四層四階で松山城よりも高かったということです。この立派な天守閣が完成してこそ城下町としての

「伊予の小京都大洲」の観光マップが完成するのではないのでしょうか。

全国各地で、ソフト面でのまちづくり・村おこし運動がざんざんに行われています。このような時期に、イベントではなくハード面での建物を造るといふことは、その流れに逆行することかも知れません。しかし、昔あった城を復元して、市民の新しい心のよりどころを造りあげることは、市制施行五十周年という節目からしても有意義なことではないのでしょうか。

私は二十一世紀を目前に控え、将来の大洲市に天守閣は必要と考えます。市民一人ひとりが、これからの大洲のまちづくりについて真剣に語り合わなければならぬと思います。



かわら版 復元大洲城

第 16 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両櫓を起が多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎7111（内線222）

大洲の文化・大洲のこころ 「大洲城の復元を」

猪川伸一郎さん（東大洲）



脛川のゆったりとした流れの中で生きてきた大洲。川を境に地方拠点都市事業や、高速道路建設などで、日々目まぐるしく変化して行く脛北と、古き良き大洲の名残りが、ずいしよに見られる脛南という、まったく異質の顔を持つ大洲。私は、そんな大洲が好きです。最近テレビの天気予報のバックとか、朝のNHKのニュースなどに、たびたび大洲の美しい四季折々の風景が映し出され、まるで水墨画のような風情、情緒があり、テレビを見ている人が、行って見たいなと思わせる魅力のある町だと思っています。

元の話が持ち上がって来ました。と言っても前から、よく耳にしていた事で、つい数年前も、建築基準法の関係で、コンクリートでの復元が決定されかかっていたとき、コンクリートの城なんていらないと猛反対したのを覚えています。そして、そのときもいつものように将来の夢として終りました。

しかし今回は、市制施行五十周年を日指して復元したい、それも木造でということ、非常に現実味を帯びてきました。しかし、一口に大洲城復元といっても、莫大な費用がかかります。大洲の現状を見ますと、公共下水道に代表される、インフラ整備の遅れはだれもが認めるどころどころ、天守閣よりも、そちらが優先されるのは当然だと思えます。そこで市民の皆さんに寄付をお願いすることになったのだろうと思われませんが、市民の反応は、非常に鈍く感じられます。「ないよりはあった方がいいがそんな大金をかけてまで……」という消極的な意見や「天守閣なんていらぬ」と言った趣意もある中で、全市民をあげての、議論、討論が必要では

ないでしょうか。そして、全市民の協力の結果、天守閣復元が実現したときには、まちがいなく市民に愛され、親しまれる大洲城になるだろうと思います。また、復元の主目的が、観光ではないにしろ、大洲の顔として、観光の目玉になることもまちがいのないところだろうと思いません。ぜひとも、天守閣復元という大事業を、市民みんなの力で完成させ、二十一世紀を担う、大洲の子供たちにプレゼントしようでは、ありませんか。

大洲の文化として
大洲のこころとして



▶木造による復元事業が進められている大洲城天守閣（中央）と台所櫓（左）、高欄櫓（右）



▲木造による本格的な復元が行われた掛川城天守閣

かわら版 復元大洲城

第 17 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをあつちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まで
づくり対策係 ☎21111（内線222）

かわら版「復元大洲城」では、五回にわたって市民の皆さんの大洲城天守閣復元についてのご意見を掲載してきました。そのほとんどの皆さんが、復元に向けて市民あげての議論や討論が必要だと指摘されています。そこで、これから数回にわたり、当市での取り組みの参考とするために、木造で天守閣を復元した自治体の事例をご紹介します。

わたしのまちに

お城ができる

静岡県掛川市のレポート

昭和五十四年、全国に先がけて「生涯学習都市宣言」を行った掛川市は、恒人で、グループで、地域ぐるみで学び続ける都市づくりを展開しています。掛川市は、東海道新幹線の駅と京名高速のインターチェンジを住民運動により実現しました。特に新幹線の建設には、一人一日百円を目標に市民による募金運動を展開しました。

このような状況のもと、掛川城天守閣の復元事業が始まったのは、昭和六十三年のことでした。市内の篤志家からの多額の寄付をきっかけに、木造による本格的な復元事業が始まったのです。平成六年度までに九億六千二百万円を超える寄付金が集まりました。また、平成元年度までに、天守閣建設の実施設計の委託、翌年には工事請負契約の締結を行い、同年八月三十日に起工し、平成六年四月に竣工式を迎えたのです。

日本で初めての木造による天守閣の復元には、伝統工法の再

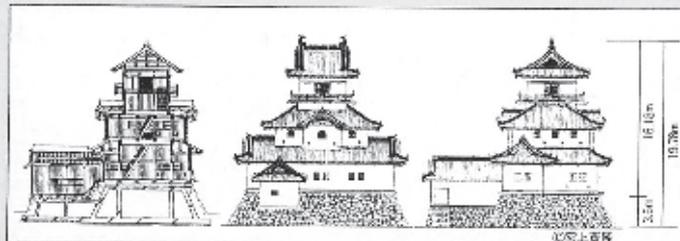
現のために建築基準法や消防法など各分野でクリアしなければならぬ問題がありました。現在では、この掛川城天守閣の復元をきっかけに、木造で建築する事例が見受けられるようになりました。

完成した掛川城には、初年度に五十万人の人が入場しました。「わたしたちのまちにお城ができる」と題して始まった掛川城天守閣復元事業は、実に八千四百二十件を超える寄付が寄せられたことからもうかがえるように、市民総ぐるみの城づくりであったようです。

掛川城の歴史

掛川城は、戦国時代の文明年間（一四六九〜一八六）駿河守護大名今川義忠が遠江支配の拠点として、重臣朝比奈泰熙に築かせたことに始まります。天正十八年（一五九〇）全国平定を達成した豊臣秀吉は、徳川家康の旧領地に秀吉配下の大名を配置し、掛川城には山内一豊が入りました。一豊は、城の改築や城下の整備を行うとともに、掛川城に初めて天守閣をつくりました。江戸時代に入ると、徳川親藩や譜代大名が相次いで城主となりました。嘉永七年（一八五四）大地震により天守閣など大半が損壊を受け、一部を除き再建されることなく明治維新を迎え明治二年（一八六九）に廃城となりました。

掛川城天守閣立面図



掛川城天守閣の概要

瓦葺き、深根三重、内部四階、外部は白漆喰塗り縮め。内部の壁は板敷。四階のみ貼付付け壁で、格天井。一階窓は外側漆喰塗り片引き戸。二階は外側漆喰塗り片引き戸。四階は舞長戸引き分け。

棟高 一六・一八メートル
床面積

- 一階 一三八・六二平方メートル
- 付櫓 三一・〇五平方メートル
- 二階 八三・六三平方メートル
- 三階 二五・八三平方メートル
- 四階 二五・八三平方メートル
- 合計 三〇四・九六平方メートル

かわら版 復元大洲城

第 18 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現行する台所・高欄櫓を結ぶ多開櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎2111（内線222）

現代の法律に合わせた城づくり

宮城県白石市のレポート

宮城県白石市は、仙台市から南西へ約四十キロのところにあります。後三年の役（一〇八八年）で戦功をあげた刈田氏が築城したのが始まりで、関ヶ原の戦いのころ伊達家の支配下に入るまで幾多の武將が入城しました。江戸時代の初期、幕府から「元和の一國一城令」が出され、全国でいくつもの城が廃城となるなかで、仙台藩は仙台城と白石城の二城が許され、片倉氏の居城となりました。やがて明治維新を迎え戊辰戦争が始まると、維新政府軍に対して「奥羽越三十一列藩同盟」がこの城で結ばれ、その公議府が置かれまし



た。会津若松城での白虎隊に代表されるように、各地で官軍との激しい戦いが行われ、列藩同盟の本拠地となった白石城の破壊は、特に大規模なものでした。この白石城に天守閣を復元しようという運動が全市的に始まったのは、昭和六十三年のことでした。公園整備基本構想検討委員会が設けられ、史料をもとに天守閣を復元するという基本方針が出されました。

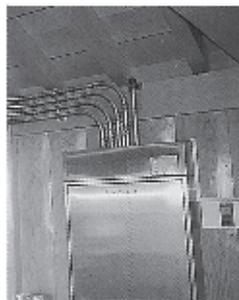
復元とは、「もとの状態に戻すこと」であり、白石市では、可能な限り史実に忠実に以前の天守閣復元に取り組んだのです。そのために、木造による建築となりました。この場合、建築基準法二十一一条が大きな障害となりました。高さが十三メートルまたは軒の高さが九メートルを超える建物は、強度や防火の面で技術的基準に適合しない限り建築ができません。

そこで、白石市では、同法の三十八条による建築を目指しました。これは、建設大臣がこの法律で求めているものと同等以上の効力があると認められた場合は、前述の二十一一条の適用を除外するというものです。白石市は、

▼平成7年に完成した白石城天守閣



▼内部の防火用設備



天守閣の構造が同法の基準を満たすことを示すデータなどを作成し、この三十八条による認可を受けました。

このようにして建築基準法に適合した白石城天守閣は、現代の法律のために手を加えた部分をあえて視覚的に隠さず強調しています。そのことが、城を訪れた人々に安心感を与えているようにも見受けられます。これから復元を行う大洲城のお手本となる城普請ではないでしょうか。

かわら版 復元大洲城

第 19 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄向櫓を結ぶ多層櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 電話2111（内線222）

豊富な史料をもとに

復元された天守閣

福島県白河市のレポート

福島県白河市は、古代から東北地方への関門として知られる「白河の関」で有名なところです。JR東北本線白河駅のホームに立つと、その北隣に真新しい三階櫓の姿を窺うことができます。これが小峰城天守閣です。小峰城は、寛永四年（一六二七）に丹羽長重が十万石の城主となり、それまでの城郭を四年の歳月をかけて大改築したものです。その後、七家二十一人の大名の居城となりました。幕末の慶応三年（一八六七）には幕領となり、翌年五月の戊辰戦争で激しい戦いの末に落城しました。

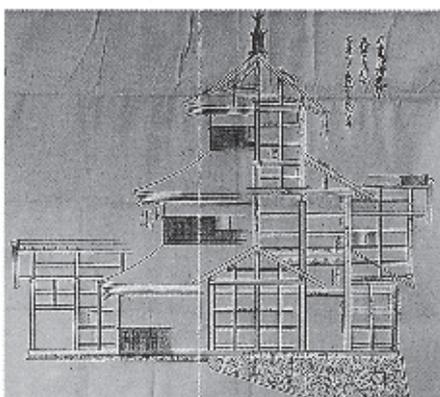


小峰城天守閣の復元作業にあたっては、史料の調査・収集をはじめ、「正保城絵図」、「川越候所伝之図」などの古図や災害時の記録などの文獻、古文書類の検討及び考証から始まりました。そして、より正確な復元図を作成するためには、天守閣跡の発掘調査が必要でした。その結果、天守閣の礎石が完全な姿で確認され、「川越候所伝之図」などの図面とほぼ一致することが判明し、古図の正確さが証明されました。こうした基礎研究を基に復元された小峰城は、城郭研究家からもすぐれた復元事例



▶平成二年に完成した福島県白河市小峰城天守閣

であると評されています。大洲城天守閣も、江戸時代の古地図や天守閣木組みの雛形、明治時代の写真などが今に伝えられ、それらは復元のための貴重な資料となっています。これらの資料を調査・研究するとともに天守閣跡地の発掘調査を行い、遺構の確認をする必要があります。こういった基礎研究をもとに、史実に忠実な大洲城天守閣の復元をめざしていかなければなりません。大洲城に関する写真や資料をお持ちの人は、ぜひご連絡ください。



▶小峰城の享保年間の改修を記録した「川越候所伝之図」

かわら版 復元大洲城

第 20 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両櫓を結ぶ多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などを所持する人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 電話 2111（内線222）

かわら版「復元大洲城」では、三回にわたり木造で天守閣を復元した自治体の紹介をしました。いずれの城でも、史実に基づいた天守閣の復元をするために、専門的な基礎研究を行ってきました。現在、大洲市では大洲城跡をどのように保存し、どのように整備していくのかを検討しているところです。そのため、大洲城についての史料を調査していますが、建築中家・宮上茂隆氏による史料研究の一部を次回にわたりご紹介します。

数多くの歴史資料に

恵まれていた大洲城

宮上茂隆氏によると、大洲城は日本でも有数の復元資料に恵まれた城であるようです。その種類は、江戸時代の古絵図、文献、明治時代の古写真のほか、江戸時代以前の造りと見られる天守雛形などがあります。

このなかで、宮上氏が最も注目するのは、天守雛形です。（現在市立博物館蔵）製作時期



▲大洲市立博物館にある大洲城天守雛形（中野良造氏寄贈）

は不詳ですが、江戸時代以前のものであることは確実のようです。この天守雛形は、中野良造さんから寄贈されたもので、大洲藩作事方棟梁であった中野家に伝っていたものです。

宮上氏は、この天守雛形を次のように分析しています。

▼雛形は、実測値から、実寸一間（六尺五寸）を二寸に縮小して製作されたと考えられる。（今の縮尺に直すと三十二・五分の一に相当する）

▼柱・梁などの部材は実物より五割増し程度太めであるから、二寸を一分とする縮小であったとみられる。（縮尺二十分の一に相当する）作りやすさを考慮した結果であろう。

▼雛形は、窓の上下に通る内法貫・腰貫の高さの実測寸法から、一センチが一尺にあたりとみられ、梁下まではたしかに平面の縮尺と同じ比率で縮小したと考えられる。しかし、梁の部材を太めにつくった結果、梁下から上の階の床までの高さが実際より大きくつくられ、それが階高を実際より高くつくる結果になったと考えられる。その点を考慮して初めて正しい階高が復元できる。

……………つづく

宮上茂隆氏 一九四〇年、東京都に生まれる。東京大学工学部建築科卒業。大学院、助手を経て現在、竹林舎建築研究所上席工学博士。日本建築史の研究と寺院、城郭などの設計に携わる。主な著書・共著に『法隆寺』『大坂城』『模範薬師寺東塔』『安土城』『江戸城』など。大洲城天守閣復元委員会の顧問として活躍していただいている。

かわら版 復元大洲城

第 21 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両構を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。高工 観光課 まちづくり対策係 ☎2111（内線222）

大洲城史料 天守雛形 Vol.2

先月号から建築史家宮上茂隆氏による史料の解説を紹介しています。今月も、市立博物館にある大洲城天守閣の雛形の続きをご紹介します。

▼階段は、今は失われているが元あった位置を梁に残る痕跡から解明できる。

▼梁の部材も、元取り付いていた位置に釘が残っていたりして一部の梁材が失われたことも分かるが、復元は可能である。

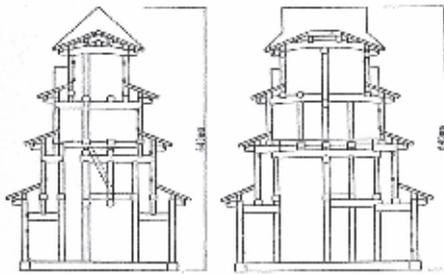
▼各階の柱位置、設計寸法の基準になる重木の枝割りは、実測値から一間に五枚と考えられる。

▼各階の過渡は、一、二階で四・五五尺（三・五枝）、二、三階で三・九〇尺（三枝）、三、四階で三・二五尺（一・五枝）というように復元できる。

▼雛形一階の隅柱の次の柱の位置は、多聞との出入口にあたることで省略されるが、当初は存在したとみられ、土台に柱のホソ穴が残る。また、その柱脇の柱間は一間より狭いため窓は他の窓より幅が狭

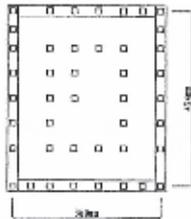
くなるはずだが、古写真にみる窓は同一の大きさになっている。つまり、柱の位置が雛形と実物では矛盾する。従来この雛形は、他の城の模型の例にみられるように修理の際に作製されたものであろうとされてきたが、建立時当初の計画を示している可能性を検討する必要がある。というのは、この他にも以下に述べるように古写真との矛盾がみられ、建築時に変更されたことが想定されるからである。

……つづく

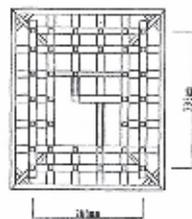


東行側面図

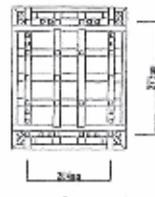
西行側面図



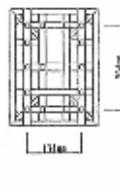
一階平面図



二階平面図



三階平面図



四階平面図

かわら版 復元大洲城

第 22 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目標として、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両橋を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎032111（内線222）

大洲城史料 天守雛形 ひながた Vol.3

今月号も市立博物館蔵の雛形の紹介をします。

▼古写真では、一、二、三の各重に破風があるが、雛形では、初層・二重の屋根には掘破風が無く、それらを取り付けていた痕もまったく見られない。三重屋根には四方に掘破風があるが、よくみると柱に取り付けた垂木部分だけが当初、前に出た部分には後に付け加えたとみられる。雛形では破風を省略したのだとみられてきたが、その解釈は正しいか問



▶大洲城の古材などでつくられたといわれる彦根城。二、三階に火灯窓がある。

題である。古写真では二階の窓は火灯窓になっていて、雛形のように破風がないほうが火灯窓は連続して美しい。実際その例は、近江大津城天守として存在した（現存彦根城天守はその大津城天守の古材でつくられたものである）。構造の中心としての通柱が平面中央より北寄りに存在するのが、この天守の特徴のひとつであるが、中心柱の材は一本でなく、上下二本に分かれている。その下の方の柱に載る大梁は断面円形だが、その上に直交する梁材には大きい積長断面の材のための仕口が作られている。大梁は四間なければ構造上十分でないのが、途中で切られている点（雛形断面図参照／広報五月号十二ページ）も注目され、雛形は設計変更があったことを形として止めているとみられる。これからも、修理の際に作られたものというより、建築当初のものである（ないしは移築の際のものである）可能性が大きい。

▼雛形の示すところでは、中心柱の北西部分の二階の床を設

けず、吹き抜けのような空間を作っている。これは本天守の特徴のひとつに挙げられるが、中心柱を見せる意図があったことであろう。信長の岐阜城山頂に建設した天守は、三重の層塔式で、一・二階の中心に通柱があり、また一階には、中二階が存在して吹き抜けのような空間をつくっていた。大洲の天守との関係が注目される。

以上述べたように、本雛形は、大洲の天守の規模、主要構架の大要が示されているもので、天守復元の重要な資料であるといえる。各地の城の中には、もっと精密な天守雛形が残っているものもあるが、大洲城の場合、古写真があるので、それらは互いに補い合い、天守を復元するうえで実に貴重な資料となる。従来の雛形による復元案は、前述したように高さ方向の推定にも、柱間の推定、階段の位置や間取りの推定などに関しても誤りを含む。製作時期の確定などは今後の課題となる。

かわら版 復元大洲城

第 23 号

大洲市は、市制施行五十四年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 電話2111（内線222）

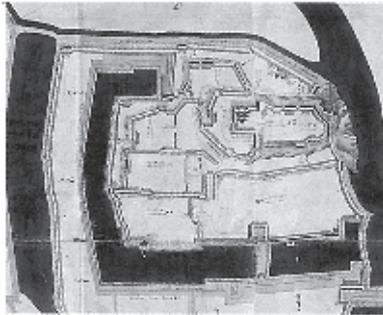
大洲城史料 絵図

建築史家・宮上茂隆氏による大洲城についての史料の解説を紹介しています。今月は、江戸時代に描かれた大洲城の絵図について説明します。

「伊予国大洲之絵図」

（国立公文書館内閣文庫蔵）

この絵図は、幕府が正保年間（一六四四―四八）に各藩に命じて提出させたものである。いわゆる正保城図の一枚として大洲城図がある。門・櫓・塀は姿図として描かれている。曲輪の規模を示す数値、石垣の高さや長さ、主要進路なども記入している。加藤家蔵の絵図より古い。両者に色々々な相違点がある。

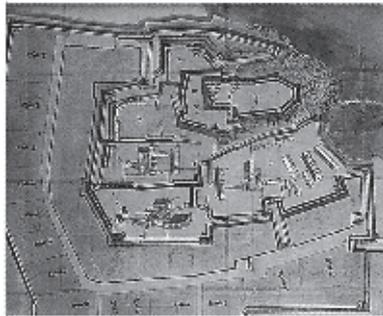


▲伊予国大洲之絵図

ある。

石垣は、本丸南面の下半が土手で上部のみ石垣となっている。二の丸西曲輪の南面下段、その西側の帯曲輪の西面も石垣がなく土手になっている。

櫓は、本丸の高欄櫓と二の丸大手曲輪の南東のみが二重に描かれ、他はすべて一重になっている。しかし後から描かれた図では、平屋の門になっている二の丸北西の穴門が櫓門になっている。また、本丸大手門は、後の図では櫓門だが、ここでは二重櫓門に描かれている。さらに、台所櫓は一重で切妻屋根となっていて現在の二重櫓とは異っている。



▲元禄五年大洲城絵図

も大きな特徴である。後の図、明治の写真、雛形は全て四重であり、当初から変わりなかったと考えられるところから、この図の表現が間違っているとと思われる。四重という天守の規模は、幕府をはばかって三重として描かせたのかもしれない。

「元禄五年（一六九二）大洲城絵図」（大洲市立博物館蔵）

大洲城の三の丸までの範囲を櫓・門・御殿・蔵などを姿図として描いた彩色の絵図である。これは、大洲城の基本図ともいえるべき精度と重要性をもつといえるものである。

この他にも、江戸時代に大洲城を描いた絵図は、数多く残っています。特に加藤家に伝わるものは、市立博物館に保管され、天守の復元のための貴重な資料となるものです。

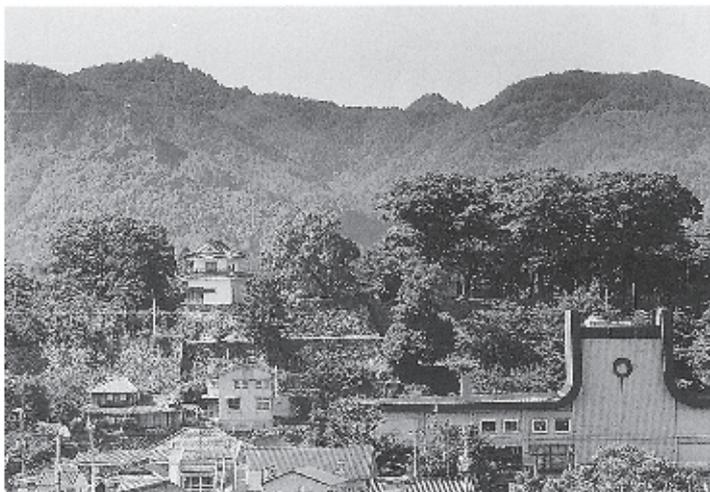
さらに、大洲城天守の外観を伝えるものとして、明治時代になって撮影された写真三点があります。（かわら版復元大洲城第一号で紹介）これらの史料により、大洲城天守閣は、往時の姿を正確に復元できる日本でも数少ない城なのです。

県指定史跡 「大洲城跡」保存整備計画を 策定しました

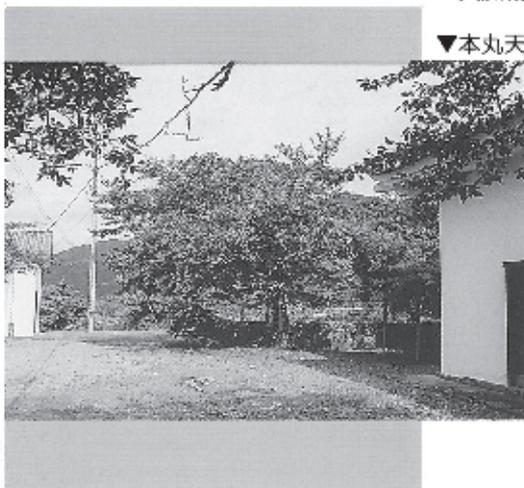
かわら版
復元大洲城

第 24 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに對してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎02111（内線222）



▲南方から
大洲城跡・本丸を望む



▼本丸天守閣付近の現況

大洲市では、貴重な歴史的文化的遺産である県指定史跡「大洲城跡」を適切に保全し、史実を重視した整備を図り、後世へ向けて伝承し活用することにより、歴史と文化のかけ高い地域社会を形成していくことを目指して、保存整備計画を策定しました。

保存整備計画とは

大洲城跡は全体構想のないままに改修整備が繰り返され今日を迎えています。この計画は、当局が大洲城跡を文化財として後世に受け継いでいくために、その価値について示し、今後の城跡の保存整備についての大きな計画として策定したものです。

【短期計画と全体計画】

計画は、全体整備計画と短期整備計画に分かれています。短期計画は、平成十六年を目標年次として定め、主に天守閣とそれに付随する多聞櫓の復元整備を目指しています。

また、全体計画は、社会状況や当市の財源状況などの関係から目標年次を定めず、長期間に

大洲城の歴史と構造

大洲城の歴史と構造については、過去の「かわら版復元大洲城」で詳しく紹介してきました。今回は、その概要を説明します。

大洲城の創築は、元弘元年（一一三三）伊予同守護の宇都宮豊房に遡ります。戦国時代には、松山の河野、宇和の西園寺を始めとする勢力の狭間でかろうじて持ちこたえましたが、戦国時代末期に河野・毛利の連合軍に破れてしまいます。続く織豊期には、中央から派遣された小早川隆景の支配するところとなり、その後この城は、戸田勝隆の十五万石居城として、また藤堂高虎の持ち城とされました。江戸時代になると、隠岐安治が城主となり、その後元和三年（一六一七）に加藤貞泰が入城して明治維新まで続きました。

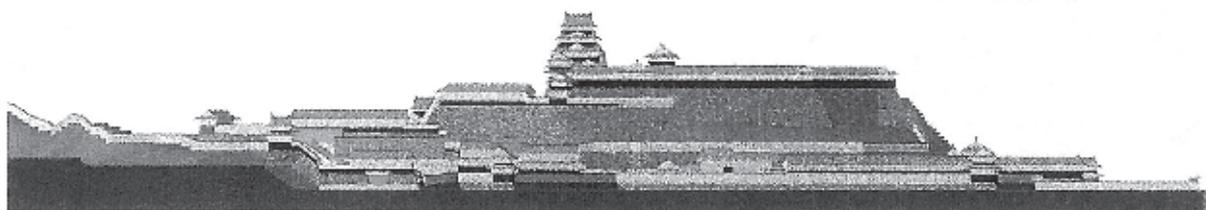
これらの城主の中で、大洲城を近世城郭としてだれが整備したのかは不明です。しかし、文献などにより寛永四年（一六二七）の隠密の記録や加藤家に伝わる絵図により、天守閣や御殿のほか十八・十九の櫓が存在した大規模な城郭であったことが伝えられています。

▼現状市街図に元禄絵図を重ねた平面図

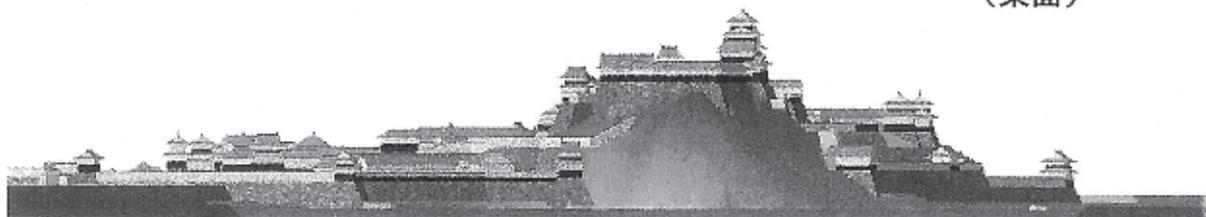
(青色は当時の建物及び堀など)



(南面)



(東面)



▲元禄絵図による大洲城全体立面図

保存整備にあたっての基本方針

【調査・整備・修景の必要性】

大洲城跡を後世に受け継ぐために、今後の城跡の整備に向けて調査を行い、その結果に基づいて総合的見地から各種施設の整備を図り、場合によっては修景をしていく必要があります。

【建物復元】

建造物の復元については、学術調査により判明した事実を基に、忠実な復元を行います。復元する時代は、文献や絵図などの史料が豊富な近世城郭の様子を指標とします。また、復元以前であっても、その遺構の確認ができれば、櫓や門の名称を表示して過去の建造物の紹介を行います。

【公開施設整備】

整備の完了した施設については、積極的な活用を図るため一般への公開を基本とします。また、文化財指定がなされている台所櫓、高欄櫓についても、その保存上、支障がない場合は、適切な措置を講じて公開します。また、来訪者に対して史跡についての啓発や歴史事象の紹介、研究のため、文化施設などの整備を図るとともに、駐車場、休憩所などの施設についても整備していく必要があります。

短期整備計画の概要

大洲城跡の保存整備計画は、長期的な整備となるため、段階を踏みながら保全・整備を進めてまいります。事業を実施するにあたっては、全域が公有地になっている本丸部分から着手し、順次整備の輪を広げていく考えです。

この中で、歴史的価値が高く、維形模型や写真などが存在し、史実に忠実な復元が可能とされ

る天守閣とそれに付随する多聞櫓の復元と施設公開を、平成十六年を目標準年次として定め取組むことにします。

この整備により、本丸に現存する台所櫓、高欄櫓と天守閣が多聞櫓でつながることになり、かつての複連結式の天守閣が再現できることとなります。

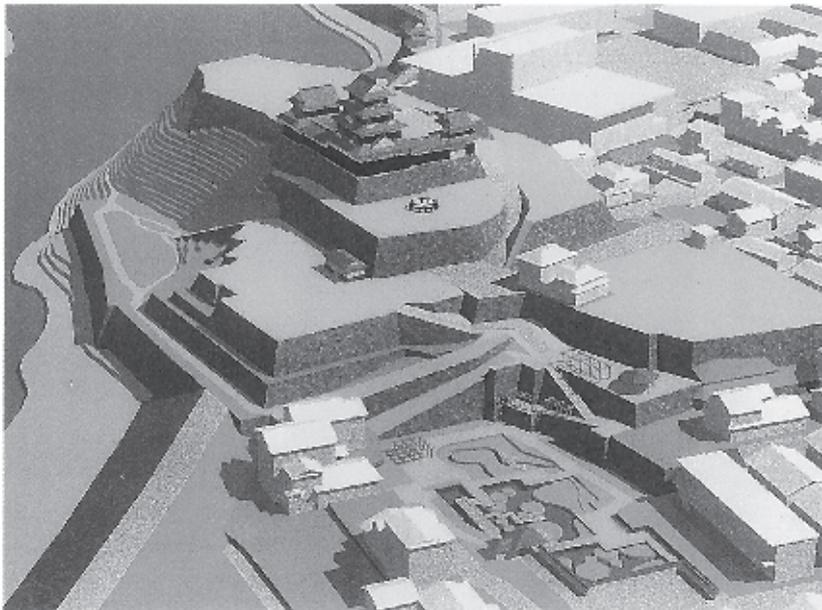
全体整備計画の概要

城跡全体の整備計画は、現状を大規模に整備するため長期間にわたることが予想されることから、特に目標年次を定めず、社会状況や市の財政状況を考慮しながら実施してまいります。

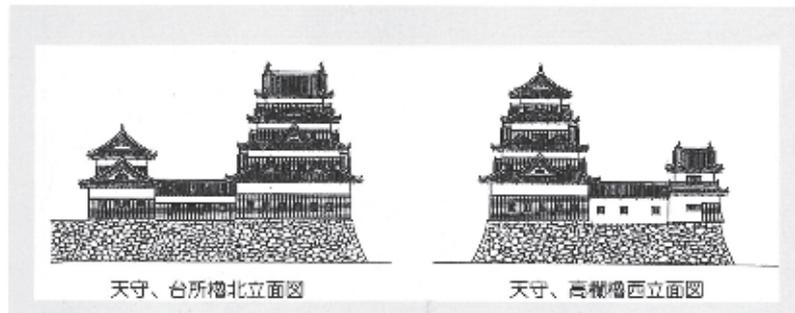
その整備にあたっては、国や県の指導を受けながら、次のような方針で取組めます。

▼歴史的な価値のある文化財などの保存と活用

▼建物・石垣などに支障がない



▲短期整備計画イメージ図



▲短期整備計画の中の天守閣付近立面図

▼範囲での自然環境の保全
▼史実に基づいた建造物などの復元

▼景観の確保
▼市民の憩いの場としての整備

【空間整備計画】

前述の整備方針により、城跡の一体的な整備に取組んでいきますが、城跡の構造や土地利用状況が様々で、周辺からの景観などによりそれぞれの場所での整備内容が異なっています。そこで、それぞれの空間特性を踏まえて整備内容をゾーニングすると次のようになります。

▼復元整備空間

・史実に基づいた建物などの復元と活用

・台所櫓、高欄櫓の保存と有効活用

・石垣に悪影響を及ぼしている樹木の除去 など

▼自然環境保全空間

・動植物の保護

・環境に配慮した遊歩道の整備 など

▼歴史文化施設配置空間

・大洲城を始め郷土資料などを紹介・調査・研究する施設の配置

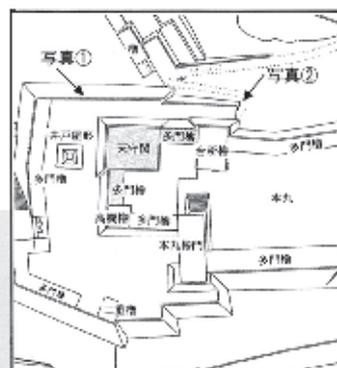
・大洲城下台所（県指定文化財）の保全と有効活用 など

▼公園整備空間

・市民の憩いの場としての広場や緑地の整備

・利用者のための駐車場の整備 など

短期整備計画に伴う天守閣付近の
復元模型（市庁舎ロビーに展示）



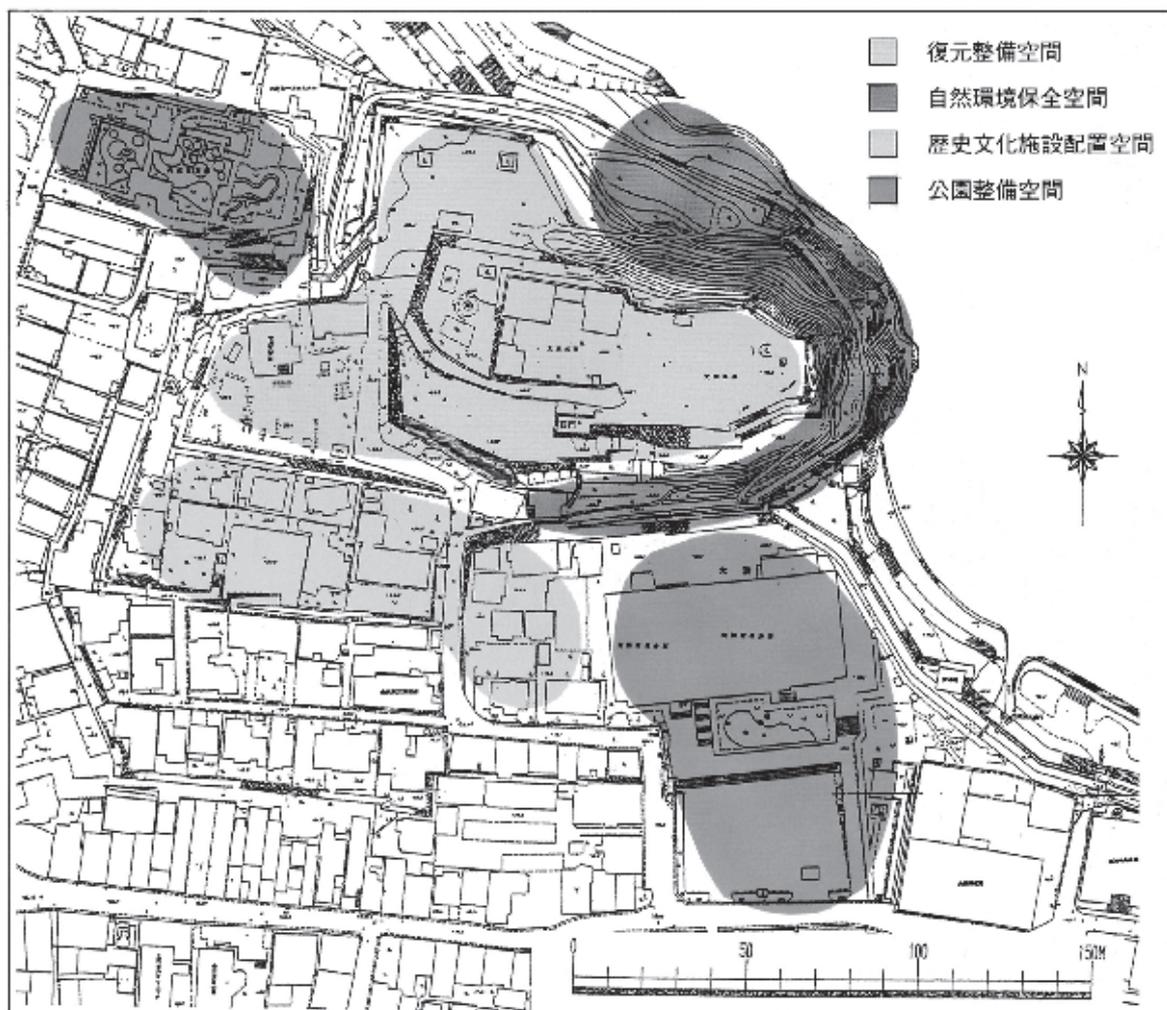
▼写真①



▼写真②



▼大洲城空間整備計画（全体整備計画）



かわら版 復元大洲城

第 26 号

城跡周辺の樹木調査と樹木整備後の予測調査を実施②

前号では、城跡内の樹木の現状について紹介しました。城内には、八十九種、千九百五本の樹木があります。今回は、これら一本ずつを調査して、石垣や景観に影響のある樹木について選定した結果を紹介します。

対象としたのは、二メートル以上の高木で、サラク類を除きました。サクラ類は、石垣に接近して多数植栽されていますが、サクラなど根系植物にとつて石垣付近は生育上好ましくなく、将来石垣に影響を与える可能性があります。そこで、石垣から距離をおいて新しく植栽するなどの方策を取ることとし、今回の対象から省いたものです。

石垣に影響を及ぼしているか そのおそれのある樹木

樹木の根系が城跡の石垣に影響や被害を及ぼすものは、石垣に比較的接近して位置し、かつ高幹の大径木になったものです。今回の調査では、次の樹木が該当になると推測されました。

▼本丸南側 ケヤキ

▼本丸井戸曲輪 ケヤキ・クロガネモチ

▼二の丸北曲輪 センダン・スギ・エノキ・ムクノキなど

城跡の景観を阻害している と想定される樹木

天守閣の位置が本丸西端に位置するため、生い茂る樹木の影響で城の北側から東側にかけては、遠望ができなくなっています。また、逆にその部分は、市街地や周辺の眺望を妨げているため、支障木の伐採などを行って城跡の景観美の保持を図る必要があります。

調査では、次の樹木がその対象となることが分かりました。

▼本丸 ケヤキ・クスノキ・センダン

▼本丸井戸曲輪 スギ・ヒノキ・ケヤキ

▼二の丸西曲輪 ヒマラヤシイタ

▼二の丸北曲輪 ヒムロ・メタセコイア

▼二の丸西帯曲輪から二の丸北曲輪下部の遊歩道 スギ

▼三の丸水の手曲輪 スギ

▼本丸東下斜面 スギ

城跡の内部景観を阻害しているもの及び将来 障害と想定される樹木

城跡の内部から石垣や櫓に景観上障害となると想定される樹木及び将来樹木の生長に伴って城跡の遠望を阻害することが予想される樹木を挙げると次のようなものがあります。

▼生長に伴い城跡の遠望を阻害すると想定されるもの クスノキ・ケヤキ・アラカシ

▼城跡の内部景観上から障害になると想定されるもの クスノキ・カナメモチ・サンゴジュ・キンモクセイ・イロハモミジ・サルスベリ・ザクロ

▼将来石垣に影響を及ぼすと想定されるときもに城跡の遠景にも支障を及ぼしているもの ケヤキ

▼公園としての美観保全上から除去が望ましいもの ケヤキ・ニセアカシア

今回の報告で指定された樹木は、大洲城復元委員会専門委員会での検討を加え、計画的に伐採をしていくこととなります。

今回は、伐採などを実施したあとの生態系予想や伐採後の予想図などを紹介します。

伐採が必要と想定される樹木

番	樹種名	番	樹種名	番	樹種名
1	ケヤキ	185	メタセコイア	329	スギ
2	クスノキ	189	スギ	330	#
4	ケヤキ	231	ヒマラヤシイタ	332	#
5	#	233	ニセアカシア	333	#
8	クスノキ	234	#	334	#
13	カナメモチ	235	#	337	#
19	#	236	#	338	#
27	クスノキ	237	#	339	#
29	サンゴジュ	238	#	345	#
38	センダン	255	スギ	361	#
40	キンモクセイ	256	#	368	ムクノキ
42	イロハモミジ	259	#	375	スギ
43	クスノキ	267	#	395	#
48	サルスベリ	268	#	396	ケヤキ
52	クスノキ	269	#	397	クスノキ
105	ケヤキ	270	#	401	#
108	#	272	#	402	#
111	ザクロ	293	#	404	#
120	ケヤキ	294	エノキ	409	#
124	スギ	296	ムクノキ	420	アラカシ
125	#	306	センダン	455	クロガネモチ
142	ヒノキ	310	スギ		
146	ヒムロ	323	#		



伐採が必要と想定される樹木の位置図

かわら版 復元大洲城

第 27 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現在する台所・高欄橋を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 電話21111（内線2222）

城跡周辺の樹木調査と樹木整備後の予測調査を実施③

前号では、大洲城跡とその周辺に生育している樹木のうち、石頭や景観に影響のあるものを紹介しました。今回は、これらの樹木を伐採したあとの生態系などについて報告します。

現在の樹木の実態

城山は比較的小面積で、このうち、本丸を始めとする平坦地の樹木は、そのほとんどが修景用に植栽された孤立木です。樹木が集団になって生育している樹林と呼べる区域は、三の丸水の手曲輪斜面と本丸下の東斜面だけです。この区域に生立している二以上の樹木の種類は、イロハモミジ、ソメイヨシノ、スギで、全体の約六十%を占めています。このうち、イロハモミジとソメイヨシノは、第二次大戦後に数回にわたって、またスギは、明治時代の末期から大正初期に大部分が植栽されたものと推定されます。

天然生の樹木では、エノキが最も多く、その他の主なものはアラカシ、クスノキ、バクチノ

キが七ノ丸本丸に生育しているだけです。

この区域の築城前後の樹林の有無などは知る術もありませんが、繰り返し伐採が行われたものと推測され、古くても江戸時代末期のころに坂川沿いの川端にあったエノキなどの小径木が現在大木となって残存しているものと考えられます。

これらのことから、三の丸水の手曲輪と本丸下の東斜面の樹木は、本来ならば近くの八幡神社社叢のような常緑広葉樹を主とする樹林が成立するはずですが、しかし、この区域は、植栽木が過半数を占め、また天然生の樹種、本数や大径木が少なく、さらに、普通の自然林では、林内の階層が立体的に高木層・中高木層・低木層・草本層から構成されますが、この大部分は低木層を欠いていることから、植栽木以外の樹木も人手が著しく加わった二次林の断片と見なすことができます。

伐採が自然生態系に与える影響

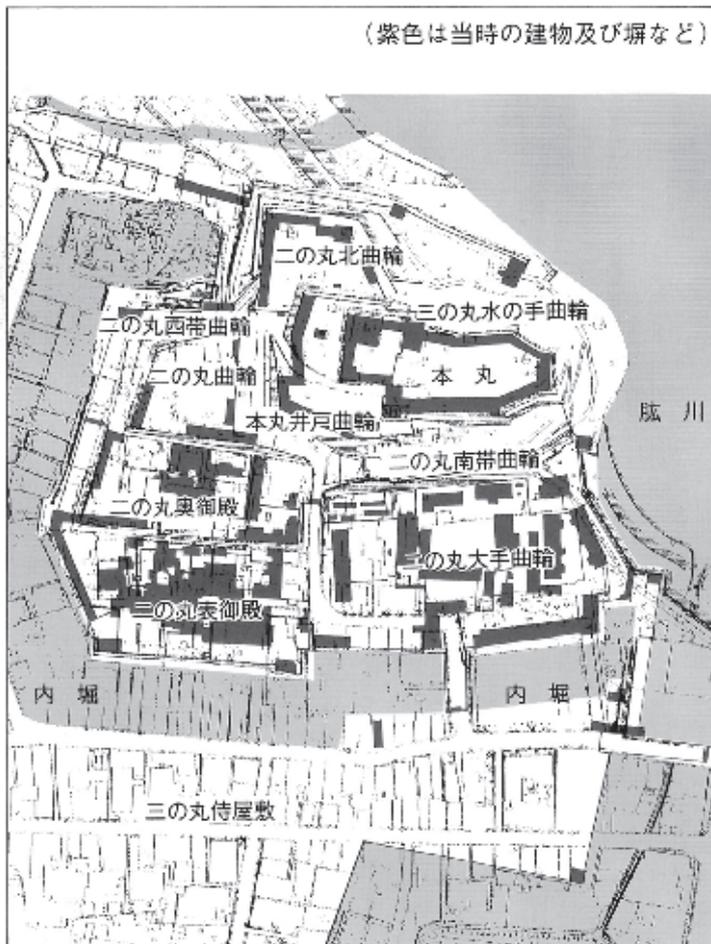
本丸などの平坦地に生育する孤立木の伐採は、本数も少なく、

生態系に与える影響はないものと考えられます。

市街地から城跡の遠望を最も阻害しているのは、三の丸水の手曲輪と本丸下の東斜面の樹林で、伐採が適当と想定されるスギが最も多いのは前者の区域です。この斜面は、主にイロハモミジとソメイヨシノが植栽され、

現状市街図に元禄絵図を重ねた平面図

(紫色は当時の建物及び堀など)



エノキやムクノキの天然生落葉広葉樹が点在し、さらにスギの大径木が混じった針広混交林となつています。

このような著しく自然植生が破壊され改変された樹林内のスギを伐採することによって、どの程度自然生態系に影響が出るものかどうかは明らかではありません。しかしながら、一般的に単純林の場合では、広葉樹林はスギなどの針葉樹林に比べて、鳥類に対して多様度高いことが認められています。これは、鳥類のエサが広葉樹の種子や昆虫に依存すること、および営巣

を主とする生息場所が影響するものと考えられているからです。また、昆虫も針葉樹よりも広葉樹林の方が種類数、個体数とも多くなる傾向が見られます。さらに、小動物についても、昆虫とはほぼ同様の傾向が認められています。

これらのことから、斜面の中、上部の落葉広葉樹林中のスギ多数を伐採しても、樹林内では間伐程度であり、自然生態系を破壊するほどの行為でもなく、先の理由からも自然生態系に与える影響はほとんどないものと推定されます。

写真撮影を行った地点



城跡周辺の樹木調査と樹木整備後の予測調査を実施④

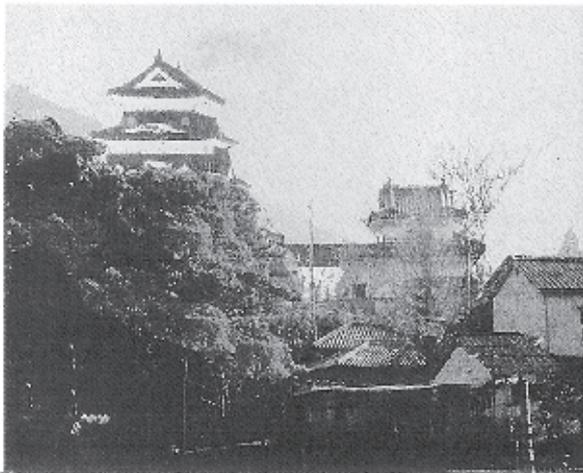
今回の調査では、大洲城跡の樹木の現状について調査をし、石垣や景観に悪影響を及ぼしている木を選定しました。その結果を過去の回にわたって紹介してきました。今月号では、そのまとめとして、悪影響を及ぼしている木を伐採した場合、どういふ景色になるかという予想図を報告します。

この予想図の製作にあたっては、二月中旬（落葉期）、十月上旬（夏期）、十一月下旬（紅葉期）に、城跡からほぼ東西南北方向に固定点を設け、写真撮影を行いました。この撮影した写真の画面から、伐採を想定する樹木を除去し、大洲城の復元模様を入れ込みました。精度的には、まだまだ質の高いところも追求できるのですが、今回の調査内容からすると予想結果を把握するには十分なシミュレーションとなりました。

今回の調査をもとに、大洲城天守閣復元委員会などで城内の樹木の整備について検討をして、計画的に樹木を伐採していくこととなります。

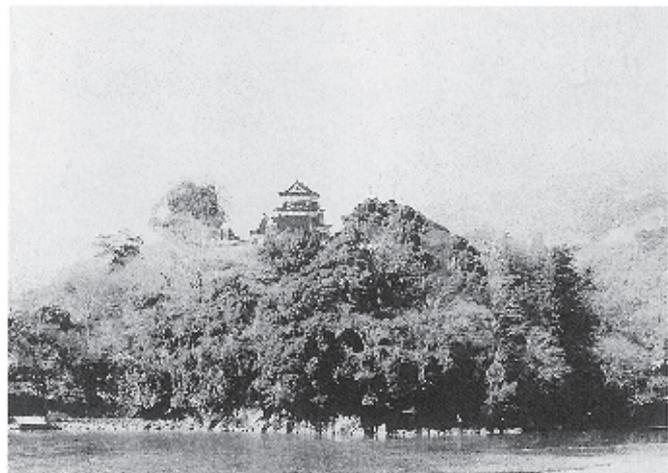


第 28 号



W 久米川堤防からの予想景観(西方向より望む)

N JR 脇川橋りょう付近からの予想景観(北方向より望む)



E 脇川橋中央付近からの予想景観(東方向より望む)

S 大洲高等学校付近からの予想景観(南方向より望む)



かわら版 復元大洲城

第 29 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄西櫓を結ぶ多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお待ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 電話 2111（内線 222）

本丸付近の地質調査を実施

大洲城天守閣復元のための発掘調査、建築物の基礎、石垣の安定性などの基礎資料を得るために、九月上旬から十月にかけて、本丸付近で地質調査を実施しました。調査内容は、ボーリング調査六カ所（本丸天守台付近四カ所・本丸井戸曲輪一カ所・二の丸北曲輪一カ所）で、それぞれのポイントで土質試験も実施しています。

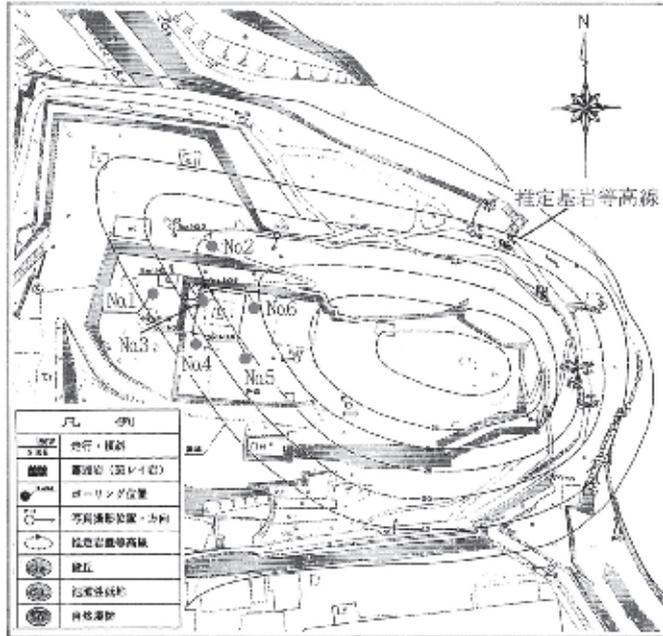
今回から数回に分けて、その調査結果を報告します。

地形・地質の概要

大洲平野は、脈川によって形成された沖積平野ですが、大洲城跡は沖積低地のなかに侵食から取り残された丘陵地となっています。ここは段丘堆積物で覆われていて、富士山北麓の田口、市木、大洲城跡の北方の只越などと同じ段丘面を形成していたものです。

地質的には、御荷餅帯に属し、その構成岩である御荷餅緑色岩類が基盤となっています。この緑色岩類を覆うように段丘層が

ボーリング調査箇所及び推定基岩等高線



分布しているのです。大洲城跡の石垣は、段丘砂礫層の地山を切盛りして造られたものです。城跡は、河岸から高低差三十五メートル、幅二十五メートルで、掘り、周辺部は傾斜角六十五度前後の石垣が築かれています。天守復元予定地は、この北西側にあり、高さ五メートル程度の石垣が北側及び西側に二段にわたって築かれ

ています。天守台西側十五メートル付近に直径三メートルの井戸が掘られ、地面から十六メートル下がったところに水面がありました。ボーリングの着岩情報と当地東側の露出している岩の状況から基岩の分布を予測すると次の図のようになります。基岩頂部は、本丸北東にあり、尾根筋が北西方向に緩やかに傾斜していると想定されます。

かわら版 復元大洲城

第 30 号

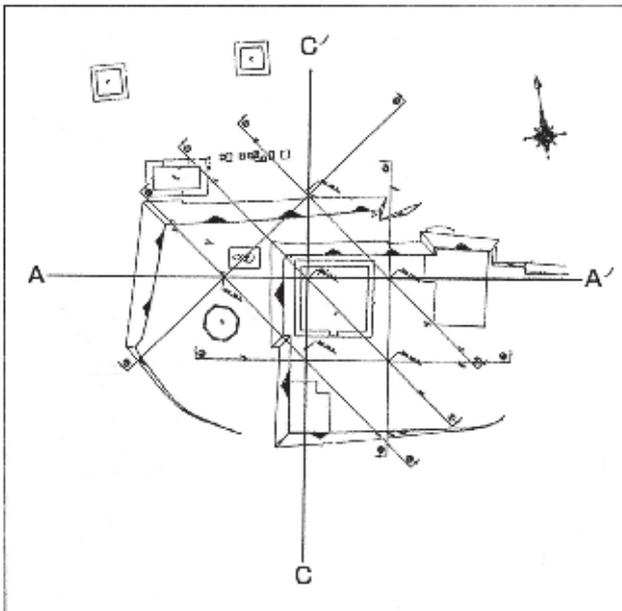
大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まらぶくり対策係 ☎2111（内線222）

ボーリング結果による 地層の区分と状況

今回の地質調査では、本丸付近の六地点でボーリングを実施しました。これにより、地層は次の六層に区分されることが判明しました。

- ▼①盛土層 瓦片などの人工産物が混入する層で、厚さは〇・五～二・五メートルほどあり軟弱な地層。
- ▼②上部砂礫層 この層は天守台のある本丸部分の下方五メートル程度以内であり、本丸井戸曲輪には出現しない。シルト質（砂と粘土との中間の大きさのもの）砂礫が主体となる層で、堅さは不安定な部類に属する。
- ▼③粘性土層 砂礫分を二五％ほど含む層で、〇・五メートルほどの層厚がある。若干不安定な層である。
- ▼④中部砂礫層 本丸井戸曲輪面より深いところに分布し、層厚は三メートルから七メートル程度。細粒分を二二％ほど含む砂礫層で、やや不安定化傾向を不示す。
- ▼⑤下部砂礫層 細粒分を二五％程度含み、堅さを示す数値

ボーリング調査位置図



は深度を増すにつれ高くなり安定化に向かう。

▼⑥墓石層 御荷鉾緑色岩類で構成され、堅さを示す数値が深部ほど良好化傾向にある。これらのボーリング結果を基に地層推定断面図を作成したものが次の図です。このなかで、

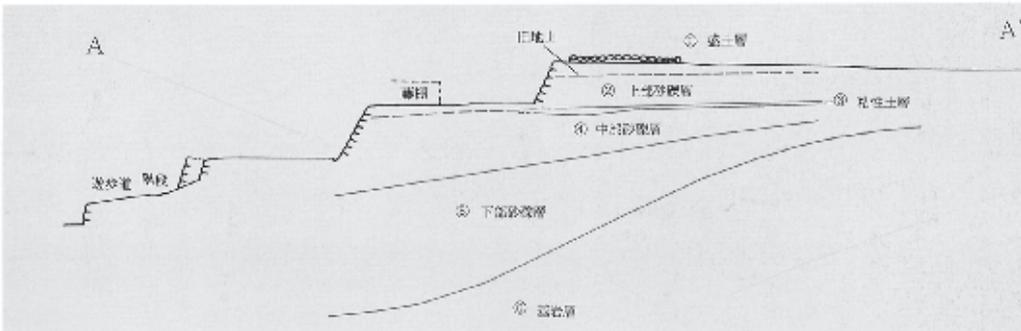
②上部砂礫層の上部に有機質土などがあると、旧地山であると判断され、①盛土層は、石垣の構築など城郭整備として

人為的に埋め込み作業などが行われた可能性が高いものです。この層は、本丸の東西軸では西側の方が厚く、南北軸では南側の方が厚いものと推定されます。したがって、現存する高欄櫓付近の盛土は、約六メートルも及ぶものと推測されます。

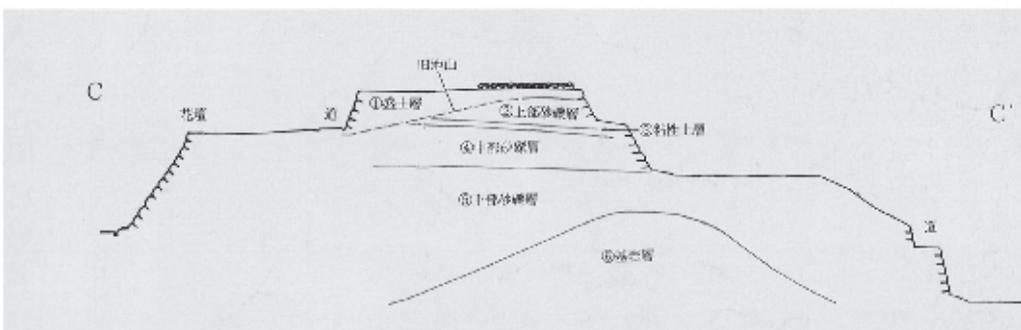
大洲市では、これらの地質調査の結果を発掘調査、石垣調査、建物設計などに反映していく予定です。

地層推定断面図

A-A' 本丸付近東西軸



C-C' 本丸付近南北軸



かわら版 復元大洲城

第 31 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課までつくり対案係 電話2111（内線222）

大洲城跡本丸付近の 発掘調査を実施

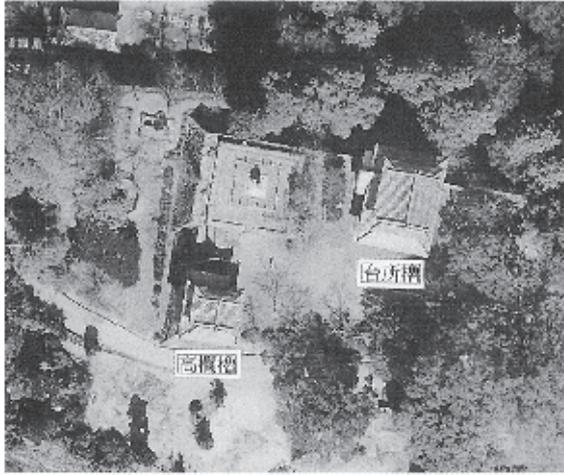
大洲城天守閣復元のための基礎資料を得るため、大洲市教育委員会では二月上旬から今月にかけて、本丸付近で発掘調査を行っています。

調査範囲は、本丸天守閣跡地と多聞櫓跡地約二八〇㎡です。今回行う大洲城跡の発掘は、最初に天守閣跡地に設置されている藤樹像の台座を礎石が残っ

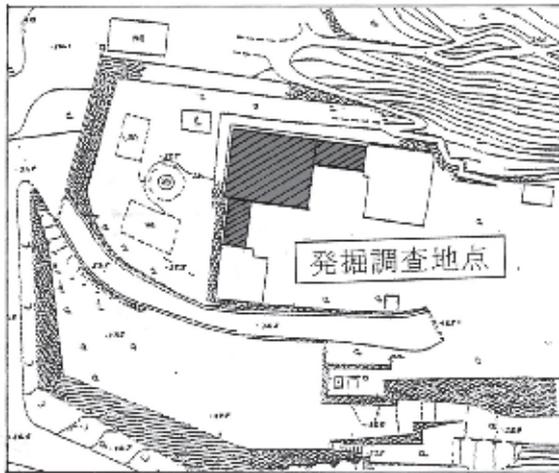
ていないか調べながら撤去し、そのあと、天守閣・多聞櫓跡地全体の土を順番に取り除いて、遺物（瓦・皿などの破片）や遺構（土を掘った穴などの跡）がないか確認しながら、人間の手の入っていない地山層まで掘り進めるものです。出土した遺物や検出された遺構は、詳細に記録保存を行います。

また、発掘作業と同時に、本丸及び二の丸付近の石垣についても測量を行い、詳細な図面を作成しています。この発掘調査により、礎石またはその跡が出てくると、天守閣の大きさを実証する手がかりとなります。さらに、地層とその中に含まれる遺物を調査することにより、いつごろどのような造成工事をして天守台が造られたのか、また、天守閣が建造される前に、何らかの建物が存在していたのかなどが判明するのではないかと期待されます。

▼本丸付近現況写真



▼発掘調査地点見取図



かわら版 復元大洲城

第 32 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目標として、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄両櫓を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎2111（内線222）

ついに解明！

天守閣の撤去時期

大洲城には、いくつもの不思議があります。いつ、だれが建てたのか？なぜ四層四階なのか？地方大名の城なのに外観が江戸城に似ているのはなぜ？本来中央にあるはずの通し柱が北寄りになっているのはなぜ？天守が本丸の西側にあるのはなぜ？いつ天守閣が撤去されたの？この中で、ついにひとつの疑問が解明されました。

大洲城天守閣の撤去時期については、明確な史料がなくて不明とされてきました。大洲市誌では、古い順から明治六年、明治十七・十八年、明治二十年以前、明治二十五年という諸説が掲載され、天守閣を取り壊した時期は、「決定づけるものはまだ発見されていない。」と結んでいます。

平成十年夏、大洲城天守閣の取り壊し記事のコピーが市役所に届きました。送り主は、愛媛県歴史文化博物館学芸員の平井誠さん。平井さんは、学生時代から城郭の研究を続けていて、県立図書館で明治の新聞記事を

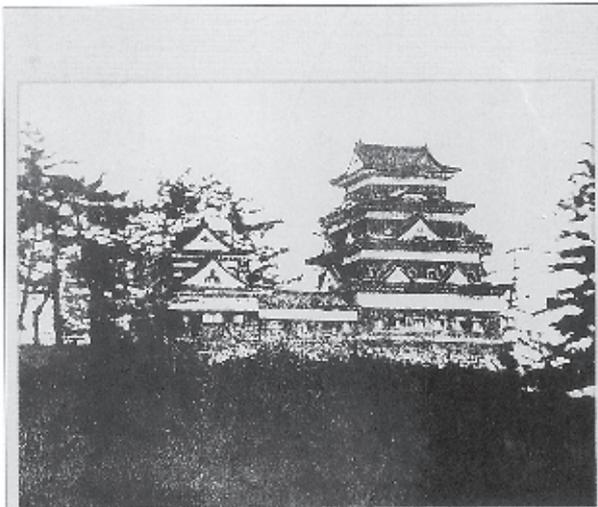
調査していたところ、明治二十一年十月二十三日付けの海南新聞に次のような記事を発見したものです。

・天守閣取除け 大洲の舊（旧）城閣は當時同地香川某の所有する所なるが今度之れを取除くとかにて既に四五日前より互剥ぎ取りに着手したりとか

この記事の発見により、大洲

城天守閣の取り壊し時期は、明治二十一年であることが明確になりました。

今から百十一年前の近代での出来事ですが、人々の記憶からいつの間にか失われていたのです。今回、歴史研究家の粘り強い研究で、大洲城の不思議のひとつが解決しました。これから天守閣の完成予定の平成十六年までに、いくつの疑問が解決できるか楽しみですね。



▲明治10年頃撮影された大洲城天守閣（右）

かわら版 復元大洲城

第 33 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台座・高欄面を結ぶ多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎2111（内線222）



三月二十日(土) 現地説明会を開催

本年二月から行っている大洲城跡本丸付近の発掘調査で、礎石と思われる自然石（以後、礎石）が六個出土しました。大変興味深いものですが、今後調査を進めるためには、これらを取り外す必要があることから、その配置状況などを見ていただくための現地説明会を三月二十日に開催しました。

当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、市内外から多くの城郭ファンが訪れ、調査員の説明に熱心に耳を傾けていました。

出土した礎石について

六個の礎石は、藤樹像台座の中から出土しました。明治四十三年、天守跡に大洲藤樹会により中江藤樹像が建設され、その後、台座は手を加えられることなく現在に至っていました。

今まで台座は、このとき建設されたものと考えられていましたが、モルタルで整形された玉石や敷石を撤去し、表土を剥いだところ、礎石が出土したものです。この測量結果を復元図と重ね合わせると、六個のうち五個がぴったりと符合することが分かりました。

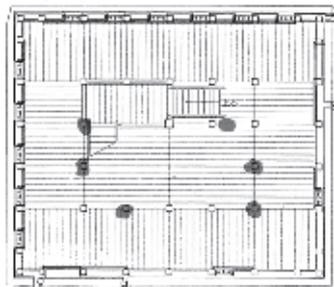
礎石の周囲には、削石や大きめの栗石を配し、その中に栗石を敷き詰めた後、礎石を置いたものと思われ、礎石の抜き取り跡には、解体時のものと思われる瓦が多く含まれており、それと判断することが可能です。台座北側の上部からは、多量の瓦片が出土しています。これは、天守閣解体時に敷川を利用して、大きな木材を搬出したためか、部分的に壊され、その後修復されたものと推測されています。台座のステップに使用され

ていた石は、角をきれいな直角に整形していることや風化の状況から、天守台石垣天端の角石が流用されたものと考えられます。また、台座基礎石組の一部に同様の状況が見られることや、天守の古写真をよく観察すると、天端の一・二段の石が取り外されていることから、天端石などを削って使用し、石組を建設したものであると考えられます。

なお、天守台石垣の天端の一・二段の石が取り外されているというところは、天守台石垣の実際の高さは現在の天端高より、五十一・六十cm程度高かったと推測され、現況の礎石の高さと一致します。

今後は、これら出土した礎石などを記録保存し、地山まで掘り下げていきます。また新しい発見に期待がかけるところです。

▼復元図面における礎石配置図



かわら版 復元大洲城

第 34 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄面橋を結ぶ多開櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などを所持している人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎2111（内線222）

第六回大洲城天守閣復元委員会を開催

第六回大洲城天守閣復元委員会が、四月二十二日に大洲市民会館中ホールで開催されました。この復元委員会は、大洲城天守閣を史実に基づき木造で正確に復元するために平成八年に発足しました。

今回の復元委員会では、前号で紹介した大洲城本丸付近の発掘調査の現地視察を行い、天守閣の礎石位置の確認を行いました。その後、大洲城天守・多開櫓復元工事の基本設計が今年三月に完成したことを受けて、使用木材、募金目標額などについて審議が行われました。

基本設計が完成

天守雛形や絵図など大洲城に関する豊富な史料をもとに、市では大洲城天守・多開櫓復元工事の基本設計を委託していましたが、このたびそれが完成しました。（基本設計をもとにした完成予想図／下）

まず、事務局から復元に使用する木材はヒノキ・スギ・マツの赤身部分のみを使用すること、天守閣と多開櫓の建設工期は約二年半で遅くとも平成十四年四月には着工し、平成十六年の八月には完成すること、そして概算事業費が十三億円に修正になったことなどが説明されました。また、事業費が十三億円に修正されたことで、事務局が募金の目標額を五億円に修正することを提案し、委員会で承認されました。

各専門委員会での活動を検討

今回の委員会では、下部組織である専門委員会での検討事項についても審議されました。「保存管理委員会」では先に

▼基本設計をもとにした完成予想図



実施した樹木調査（かわら版第25・26・27・28号参照）をもとに「樹木整備計画」を策定し、計画的に伐採などの整備をしていきます。また、史跡内の石垣に関しても整備を図っていく必要があり、「石垣整備計画」を策定し、専門的に検討を加えていくこととなります。

「募金委員会」では、前述した目標額五億円での募集方法などを今後検討していくこととなります。

「建設委員会」、「募金委員会」では、基本設計で具体的にになった使用木材についての調達方法、貯木・管理方法について今後詳しく検討していきます。

また、これらの木材を利用したイベント（初釜式、木曳き式など）の実施についても併せて検討していく方針です。

これらの専門委員会は、これから順次開催され、いよいよ大洲城天守閣復元の具体的な、専門的な事業活動が始まります。



▲第6回大洲城天守閣復元委員会

かわら版 復元大洲城

第 35 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄兩構を結ぶ多聞櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まらぶくり対策係 ☎2111（内線222）

故宮上茂隆氏の意志を継いで

これまで大洲市では史実に基づいた天守閣を復元するために、建築史家の宮上茂隆氏を中心に、大洲城についての資料などを調査し、基本設計を行ってまいりました。しかし、その宮上氏が昨年の十一月に突然逝去されました。

▼ 八木先生はこれまで、白石城をはじめ金沢城、山形城、近隣では松山城など数多くの城郭の設計等を手掛けてこられました。大洲城がこれだけは日本一であるというものがあれば、教えてください。

これに天守閣が加われば忘れられない風景となるでしょう。完成後は是非とも敷川に浮かんだ船中から眺めてほしいと思います。▼ 設計に関するのですが、大洲城には天守雛形をはじめ多くの資料が残っていますが、実際に設計に生かすのであれば、こういった資料が重要となってくるのでしょうか。

そのため、後任として、宮上氏とは学生時代からの友人で、また城郭建築の権威である八木清勝氏に今後の大洲城天守閣復元にかかる監修・指導にあたっていただくことになりました。

八木 戦後復元された木造城郭建造物では白石城天守閣が高さ十六・七mで日本一ですが、大洲城天守閣は計画高さ十九・〇三mでこれを超え、また、木造四層の天守閣は戦後初めてです。▼ 大洲を訪れた司馬遼太郎氏が敷川橋を通る際に「私が昭和三十年代のおわりごろ、はじめて大洲旧城を通過したとき、水と山と城が造りあげた景観の美しさに息をわすれる思いがした。」とその著作「街道をゆく」のなかで大洲城跡の風景を表現しましたが、全国の城跡の景観と比較して、どのような感想を持たれましたか。

八木 古写真は立面に関する資料、発掘調査結果及び文献・図面は平面を知る資料、雛形は構造形式を知るための資料としてそれぞれ重要となってきます。なお、これだけ揃っているのは全国でも珍しく、資料としては良好な部類に入ります。▼ 戦後全国的に、城郭を始めそのほかの文化財（建造物）の復元事業が各地で行われてきましたが、その中で城郭（天守・櫓）の復元という点については、それは将来どのような意味を持つてくるのか教えてください。



▲ 八木清勝氏

八木 大洲には、日本の自然が持っている優れた風景が良く残っており、特に流れと緑なす小山（城山）のバランスが良いですね。

八木 まず復元とはいえ、平成の技術で造ることになるので平成の技術を後世に伝えることになり。また、大洲市民に大洲市の成り立ちや歴史のものを



大洲城跡発掘調査 現地の視察

(中央：八木氏)

への関心をもたらし、市民としてのプライドを感じてもらおう一助となります。そして、市民の資産として年々その価値は増し、子々孫々、精神面・経済面・地域交流の面で大いなる遺産を享受することになるでしょう。

いっしょに努力したいと思っています。▼ ありがとうございます。今後とも大洲城天守閣復元にご協力をお願いします。

八木 戦後全国的に、城郭を始めそのほかの文化財（建造物）の復元事業が各地で行われてきましたが、その中で城郭（天守・櫓）の復元という点については、それは将来どのような意味を持つてくるのか教えてください。

八木 世界に誇れる木造建築の文化を世界中の人に知ってもらおうという宮上茂隆先生の意志を引継ぎ、出来る限り良好な天守閣を造り上げるよう、皆様と

八木清勝氏 昭和十七年、大阪府生まれ。東京工業大学建築学科卒業。建築史専攻。現在、有限会社建築文化研究所取締役。山形城・ノ大東大手門、白石城天守閣・本丸大千門など城郭の設計に携わる。主な著書・共著に「よみがえる白石城」・「復元大系日本の城」など。

かわら版 復元大洲城

第 36 号

大洲市は、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）を目指して、大洲城本丸跡に、天守閣と、現存する台所・高欄面櫓を結ぶ多間櫓を復元する事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係 ☎(0211)2111（内線222）

募金活動を本格的に始動します

大洲市では、市の新しいシンボルとなる大洲城天守閣の復元事業を進めています。このたびその基本設計ができあがり、復元のための概算事業費が十三億円と算定されました。これまで二十億円の事業費のうち十五億円を寄付で賄う計画でしたが、今回、これにあわせて、天守閣復元基金の目標額を五億円に修正して、市民の皆さんをはじめ広く募金をお願いすることになりました。



目標額五億円の内訳

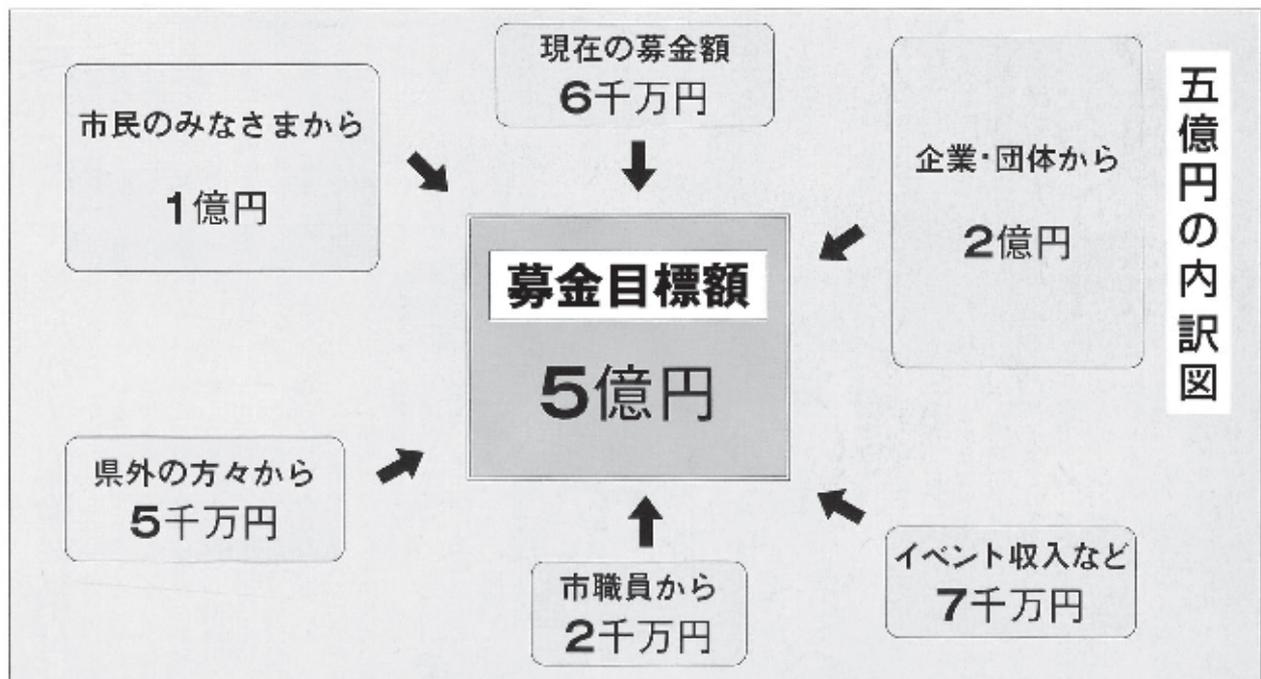
募金目標額五億円の内訳は、各世帯から一億円、企業から二億円、県外在住の大洲出身者から五千万円、今後実施予定のイベント行事から七千万円、大洲市職員から二千万円を各目標額とし、これにこれまで集まった募金約六千万円を加え、合計五億円としています。

募金の受入態勢

募金の受け付けは、現在大洲市役所商工観光課で行っていますが、今後の各世帯の募金については、各行政区の区長さんが受け付けを行います。受付期間は、各年の九月！十一月までの三ヶ月間とし、それ以外の期間は従来通り大洲市役所商工観光課で受け付けを行います。

また、一万円以上の寄付には、藩政時代に実際に使用されていた大洲藩の「藩札」を復元したものを進呈します。さらに、一括で十万円以上の寄付には、「藩札」を「紙ばさみ」に貼付し、「寄付の証」として進呈します。この天守閣募金は電算処理を行い、名簿として永年保存

五億円の内訳図





▲募金箱

いたします。
また、大洲市役所の市民課窓口には「募金箱」を設置します。この募金箱には小額で領収書の不要な募金を受け付けることにしています。
なお、募金箱をご利用の方には記念品を差し上げられませんが、ご注意ください。
また、この寄付金は国及び地方公共団体への寄付金に該当するため、税金の控除対象となります。
▼個人の所得税：総所得金額などの合計額の25%に相当する金額と寄付金の額とのうち、いずれか少ない方の金額から一万円を控除した金額が、その年の寄付金控除額となります。（所得税法78条第2項第1号）
▼個人の住民税：総所得金額などの合計額の25%に相当する金額と寄付金の額とのうち、いずれか少ない方の金額から十万円

大洲城天守閣復元寄付金領収書

下記の金額をお支払いしました。 大洲市役所 収入印紙

合計金額	円	角	分
寄付金	円	角	分
収入印紙	円	角	分

大洲城天守閣復元委員会 収入印紙

▲領収書

振込依頼書

大洲城天守閣復元委員会への寄付金

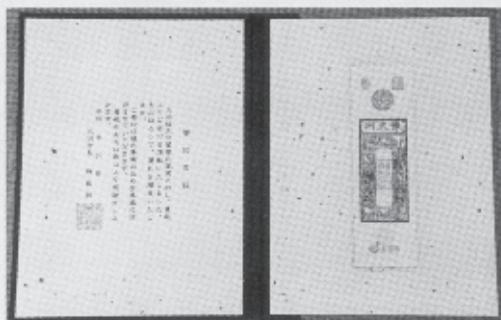
振込先：大洲信用金庫 大洲支店 口座番号：00000000000000000000

振込金額：100,000円

振込人：〇〇〇〇〇〇

振込先住所：大洲市〇〇〇〇

▲振込依頼書



▲一括で10万円以上の寄付に進呈する「寄付の証」



▲記念品の藩札

を控除した金額が、その年の寄付金控除額となります。（地方税法第31条の3第1項第5号の4）
▼法人の場合：該当事業年度の損金の額に算入されます。但し、損金扱いにならない場合がありますので税理士等にご相談ください。（法人税法第37条第3項第1号）
なお、「領収書」は、確定申告時に使用できますので大切に保管してください。
市民の長年の夢であった大洲城天守閣復元のために皆様のご協力をお願いします。

趣意書

皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
日ごろは、当市に對しまして格別のご高配を賜り感謝致しているところでございます。
さて、当市では平成十六年に迎えます市制施行五十周年を目標として、大洲城本丸跡に史実に基づいた木造による天守閣の復元を計画いたしました。
ご存じのように、四層四階の天守を持つ大洲城は、安土桃山期に当地方を支配した藤堂高成、或は徳川幕府成立後に入国した藤坂安治の時代に完成したといわれ、その後、加藤家六万石の居城となったものであります。現存する東方の台所櫓と南方の高欄櫓、いずれも重要文化財とともに複合連続式天守群を構成し、城郭内には大小二十棟を超す櫓が建ち並んでいたといわれています。残念ながら明治時代に入り、その姿は次々と消え去り、天守閣も解体されてしまいました。
爾來、幾度となくその天守閣の復元を求め、高まりましたが、市制施行四十周年にあたる平成六年十月に「大洲城天守閣再建検討委員会」が発足したのであります。平成八年五月、検討を重ねて「同委員会」が発足したの報告があり、市制施行五十周年を目標とする天守閣の復元が可能であるとの報告がなされ、市制施行五十周年である平成十六年を目標として、大洲天守閣の復元を計画いたしました。さらに同年七月には「大洲城天守閣復元委員会」と名称を改め、復元に向けての体制を強化したところであります。
只今、計画をすすめています。復元範囲は、本丸跡の天守閣と現存する台所・高欄の両櫓にわたる多層櫓です。幸いにして当天守閣は、古地図、写真が残っているところから、全国でも正確に復元することができ、数少ない天守閣の一つであります。
当市では、市民の長年の夢であった天守閣の復元を実現し、市のシンボルとしてこれからのまちづくりに向け取り組んでいきたいと願っているところであります。
つきましては四方市民の夢の実現のために、皆様方にご寄付のお願いを申し上げます。
大洲城天守閣の復元につきまして、是非とも御賛同を戴き、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

- 記
- 一、寄付の目標金額 五億円
 - 一、完成予定 平成十六年
 - 一、ご寄付を頂戴した方の芳名は、名簿に記載して永久に保存致します。
 - 一、この寄付は一律ふるさと寄付金控除の対象となります。（金額が一万円を超える場合は所得税控除の対象に、さらに十万円を超える場合は所得税・住民税の控除の対象になります。法人税は全額が損金扱いとなります。ただし、いずれの場合も当該年に限ります。）
 - 一、ご寄付は次の口座にご入金頂ければ幸いです。/口座名：各口座共通「寄付金 大洲市収入役直轄基金（入）フロンティアオズシニエウニエウヤクシエトウカオル」
- 大洲城天守閣復元委員会委員長 井関和彦

かわら版 復元大洲城

第 37 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎2111（内線224）

天守閣復元を夢見て…

大洲史談会理事

久保 博 信 さん



確か十八年前くらいだったと思います。大洲史談会の有志で市内を中心に大洲城天守閣復元の署名運動を行いました。当時は、歴史遺産であり観光資源である大洲城をなんとしても復元したいという気持ちでいっぱいでした。史談会に加入している建築関係者など二十人ほどに声をかけて、昔の人が出来たことだから我々でも出来るといふことで、自らの手で天守閣を復元しようと試みていました。材木についても寄付していただけるといってお話があったので、本格的に実現できるものと思っていました。しかしながら、当時の大洲市は、基盤整備や公共施

設の整備などが不十分で、市の財政的な事情から断念せざるを得ませんでした。

その天守閣がいよいよ平成十六年に完成するという事です。大洲城は明治二十一年に取り除きになりましたので約百年ぶりの復元ということになります。

文化財・観光資源としての大洲城

大洲城天守閣が万が一残されていたならば、国宝となるような文化財であると考えます。その大洲城が史実に復元されるならば、国宝とはならずとも、文化財的な価値は評価されることでしょう。また、現在ある城跡全体も天守閣を中心とした歴史遺産として再評価されるのではないかと思います。私は、大洲城のなかでも特に石垣が素晴らしいと思います。城跡の下方から見上げた石垣は壮観です。天守閣が完成したら、ぜひ皆さんも周辺を散策して、城跡全体の素晴らしさを実感していただきたい。

天守閣の復元は今に伝わる史料の集大成により出来上がるものです。そういった史料を展示

し、大洲城を訪れた人に、その文化財的な価値を知ってもらうためにも、将来は近くに資料館を設置すべきであると考えます。文化財としての大洲城は同時に観光資源にもなり得ます。跋川橋から眺める大洲城の風景、富士山から見下ろしたときの風景、天守閣は観光名所としても絵になると思います。また、臥龍山荘、おはなはん通り周辺から大洲城に向けて歩く観光客の姿、商店街の賑わいが目に浮かびます。

夢の実現に向けて…

いよいよ募金活動が始まるということですので。募金活動の主旨は財源のサポートであります。私はこのことにより「私たちの手で天守閣を復元したのだ」という実感が残り、今後の事業への関心が一層高まってはいいと思います。

私にとって天守閣の復元は、待ちに待った夢であります。夢の実現へ微力ながら力添えできればと思います。

思想は改革して新しく…古き建物は大切にしたいものだと思います。

かわら版 復元大洲城

第 38 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎2111（内線224）

大洲城天守閣の 使用木材

今月号では大洲城天守閣に使用する木材について紹介します。大洲城天守閣には、ヒノキ、スギ、マツを使用します。特に、ヒノキは、法隆寺金堂・五重塔に使用され、千三百年以上の長い年月を堪えぬいたことは有名です。ヒノキは主に柱・土台・床材など主要部分に、スギは棟木・垂木材などに、松は梁材などにそれぞれ使用します。大洲城に使用されていた木材についての正確な資料は残っていませんが、ヒノキ、スギ、マツ以外にツガ、ケヤキなどが使用されていたと考えられます。しかし、残念ながら大洲地方には現在良質のツガなどがほとんどないことから、前述のヒノ



キ、スギ、マツを中心に調達することにしています。

今年の三月に完成した基本設計をもとに、天守閣に使用する木材の本数を算出したところ、約千四百四十本の丸太が必要であることが分かりました。これらの木材は山から搬出した後、約二年間の乾燥期間が必要となります。また、空気が乾燥し、伐採後、虫のつきにくい冬場に調達しなければなりません。したがって、平成十四年度から本体工事を着工するためには、平成十一年度と平成十二年度の二年間で伐採・搬出する必要があります。

募木活動を 開始します

大洲城天守閣の復元に使用する木材を募集します。できるだけ地元の木材を使用し、市民手

づくりの天守閣復元を目指します。このことにより、地元の風土で育った木材を使用することで、耐久性にも優れた天守閣を復元することができます。

天守閣の復元に使用する木材は、耐火性、耐久性を考慮し、木材の赤身部分（丸太の中心部分）のみを使用します。また、用材一本一本が通常の建築物に使用するものよりも大きなものであるため、次に該当するような大径の木材が必要となります。なお、募集する木材はヒノキとスギに限ります。

上のもの
スギ：胸高直径四十センチ以上
上の樹齢が八十年以上
のもの

これらの木材の調達は、大洲市森林組合で行います。また、寄付いただく森林組合で木材の推定金額を算出し、募金と同様の記念品（かわら版「復元大洲城」36号参考）を差し上げます。また、「寄木台帳」を作成し、永年保存します。

大洲城天守閣に使用する木材について、詳しくは大洲市役所商工観光課まで。

かわら版 復元大洲城

第 39 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎2111（内線224）

大洲城跡樹木整備計画を策定しました

樹木整備計画とは？

今回策定した樹木整備計画は、大洲城跡を保存・活用していくために、現在、城跡内でうっそうと繁っている樹木を調査し、城跡の保存・活用に適した環境を創出するため、城跡に悪影響を与えている樹木、景観・眺望を阻害している樹木について、自然生態系に配慮しながら伐採・植栽を行い、計画的に整備を図るものです。

樹木の現況

かわら版第二十五・二十八号で紹介したように樺愛媛地域総合研究所の調査によれば、大洲城跡内に生育する千九百五本の樹木（二m以上の高木）のうち、近世城郭を形成していた樹木はエノキなどしか残っていないことが判明しました。したがって、現存するほとんどの樹木が無秩序に、公園用に植栽されたものです。また、この調査では、城跡の保存・活用に影響を与える樹木（サクラ類を除く）について、

て、次のような項目を設け、伐採の検討を必要とする樹木の指定を行いました。

- ①石垣に影響を及ぼしているか、その恐れのある樹木
 - ②城跡の景観を阻害していると想定される樹木
 - ③城跡の内部景観を阻害しているもの及び将来阻害することが予想される樹木
- その結果、城跡には六十六本の伐採の検討を必要とする樹木が生育していることが判明しました。

伐採樹木の検討・選定

伐採を要する樹木の検討及び選定は、大洲城天守閣復元委員会とその下部組織である大洲城天守閣保存管理専門委員会で行われました。専門委員会では、実際に現地に出向き、該当樹木の一本一本を調査し、伐採の必要性の有無を検討しました。また、さくらまつり用に植栽され、市民に親しまれてきたサクラ類についても、城跡に悪影響を及ぼしているものについて検討を加え、厳選しました。それらの検

討結果をもとに、樺愛媛地域総合研究所が調査した伐採の検討を必要とする樹木の選定項目をさらに細分化し、次のような7つの項目を設け、これらに該当する樹木について伐採を行うことにしました。

- ①石垣に影響を及ぼしているか、及ぼす恐れのある樹木
 - ②大洲城跡を東西南北の四方向から見て枝葉が石垣、天守閣、櫓の景観、遠望を阻害している樹木
 - ③城跡内部からの眺望を阻害している樹木
 - ④城跡の内部景観、美観を阻害している樹木
 - ⑤成長に伴い、将来城跡（天守閣、櫓、石垣）の遠望を阻害する恐れのある樹木
 - ⑥天守閣の復元工事過程において撤去が必要となると思われる樹木
 - ⑦虫害など異常のある樹木
- これらに該当する樹木は合計で二百五本ほどあり、自然生態系になるべく影響を与えないよう、次のように段階的に伐採します。

整備時期

◆第一次整備時期（平成十二年）
平成十一年～十二年間に調達する天守閣の用材として使用できそうな樹木、また平成十三年度に予定している石垣調査・工事に支障をきたす樹木を伐採します。

◆第二次整備時期（平成十三年）
平成十四年度から着工する天守閣本体工事に支障をきたす樹木、また石垣に影響を及ぼす樹木、景観を阻害する樹木で、本体工事に差し支える樹木について伐採します。

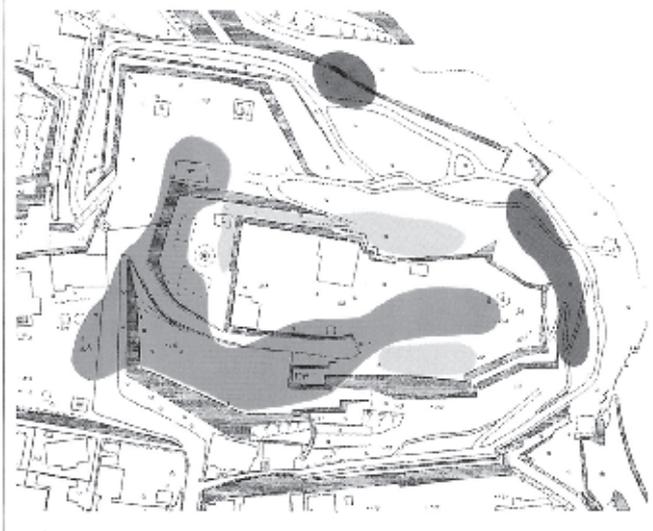
◆第三次整備時期（平成十五年）

第一次、第二次間に伐採しない樹木で遠望を阻害する樹木について、天守閣の遠望を考慮しながら伐採します。

大洲城跡は文化財としての価値が評価されながらも、周辺からの遠景が阻害されていたり、内部景観も雑然としていることから、石垣などの貴重な遺構にじかにふれあう機会が少ないのが現状です。また、平成十六年に天守閣が完成すれば、現状よりも史跡探索の需要が増加することが予想されます。今回の樹木整備を実施することにより、さらに親しめる大洲城跡となるよう努めていきます。

伐採する樹木

- 第1次整備範囲
- 第2次整備範囲
- 第3次整備範囲



かわら版 復元大洲城

第 40 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎2111（内線224）

天守閣復元基金が 七千万円突破！

大洲市では平成六年から「大洲城天守閣復元基金条例」を設置し、皆さんからの募金の受け入れを実施してきました。おかげさまで十月一日をもって、その総額が七千万円を突破しました。

また、七月初旬からこれまで、区長さんを中心に、市内各世帯の皆さんに募金をお願いしてきましたが、十月末日までの間に受け付けした募金の総額は、約七百七十四万円（七百八十六件）でした。これから平成十五年までの間、区長さんを通じて、各世帯からのご寄付をお願いしていくことにしています。

このように、順調に募金活動が進んでいます。皆さんのご厚意に心より感謝申し上げます。

今後は、各企業や団体の皆さんに五年間で二億円を目標に募金をお願いします。また、大洲出身の皆さんにも五年間で五千万円を目指し、お願いをしていくこととなります。このなかで、特に各企業へのご願いは、市長をはじめ、大洲城天守閣復

元委員会の下部組織である募金専門委員会を中心に、市内のみならず、市外、県外の各企業にも幅広く行う予定です。

「瓦」枝運動は、天守閣に使用する瓦の一枚一枚に寄付者のお名前等を書いていただきます。なお、このイベントは、天守閣の復元工事に着工する平成十四年度に計画しています。

大洲市の新しいシンボルとなる大洲城天守閣の復元に、今後ともご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

募金箱を設置しました

大洲城天守閣の募金活動が本格的に始動したことを受けて、市役所一階に募金箱を設置しました。

この募金箱は、江戸時代に大洲藩で実際に使用されていた文書箱をもとに作成したもので、箱の横面に大洲藩の藩印である蛇の目の紋をほどこしてあります。

かわら版第三十六号でも紹介しましたが、募金箱では領収書の必要のない小額の募金を受け付けます。なお、募金箱をご利用の人には記念品を差し上げることができませんのでご注意ください。

これからも定期的に募金情報をお知らせします。大洲城天守閣の寄付に関するお問い合わせは、市役所商工観光課☎2111（内線224）までお願いします。



▲天守閣を東側から見た
明治初期の写真



かわら版 復元大洲城

第 41 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎2111（内線224）

第二回現地説明会を開催 （十一月十四日回）

大洲市教育委員会では、平成十一年二月から大洲城跡の発掘調査を行ってきました。三月には、藤樹像台座の中から天守の礎石などの遺構を検出したことから、第一回目の現地説明会を開催。その後の調査で、復元する天守の遺構より古い時代のものであると思われる遺構や遺物が出たため、十一月十四日（日）、第二回目の説明会を開催し、出土した瓦などの遺物や遺構の状況について公開いたしました。

復元する大洲城 天守閣の遺構について

二月中旬に出土した六個の礎石のほか、天守台基礎石と天守雨落溝が検出されました。天守台基礎石は南北に延びており、北端は現在の石垣の折れ曲がり部と一致し、南端には三角形の石を用いてコーナーとしています。

また、天守雨落溝は、後世の擾乱のために残りは悪かったものの、溝幅を確定できる側石が一枚所ありました。この遺構は、天守閣の軒先の長さを推定できる貴重なもので、今回の発掘調査の大きな成果の一つといえます。

復元する天守以前の 遺物と遺構について

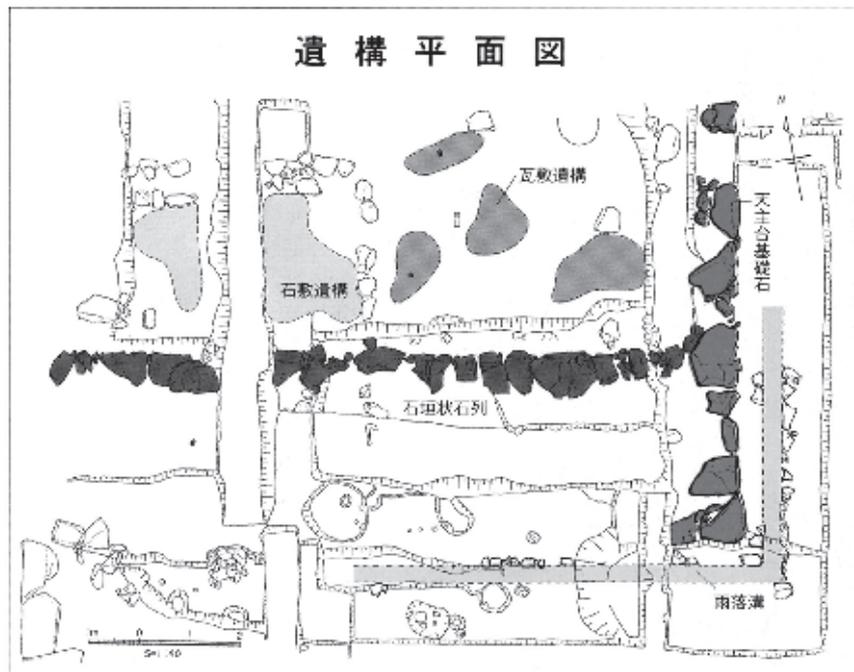
復元する天守の礎石より下の層から、石垣状石列、石敷、瓦敷溝などの遺構が検出されました。石垣状石列は、天守内に東西に延びており、東端では天守台基礎石に切られているため天守台基礎石よりも古い時代のものであると考えられます。遺物としては、唐草紋軒平瓦、三巴紋軒丸瓦、備前焼の鉢が出土しています。石敷遺構は、天守内の中央西

側から検出され、四十cm大の平石が外周を巡り、内側には十cm大の石が敷かれていました。

瓦敷遺構は、石敷遺構より古い層から検出された大量の瓦片で、その中から松野町の河後森城で出土した瓦と同じ形態をもつ天正年間（一五七三―一五九一）ごろの唐草紋軒平瓦や、長野原の上田城などから出土した瓦と同じ形態の菊文瓦が出土しました。

溝状遺構は、調査区の南東隅から検出された溝状の遺構で、底の近くには炭化物を多く含む層があり、十六世紀後半のすり鉢や陶磁器片、上銅皿が出土しました。

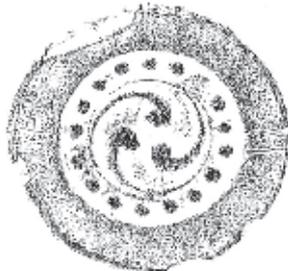
今回の発掘調査で、明治に取り壊された天守台の下に、それより古い時代の建物があつたことがわかりました。その建物は、遺物の調査から十六世紀ごろに建てられたものと思われ、誰かが建てたのか、どのような構造であったかについては、今のところ判明していません。教育委員会では、今後、検出した遺構や遺物について正確な記録保存を行い、報告書を作成したいと考えています。



出土した遺物（拓本）



▲菊紋瓦



▲三巴紋軒丸瓦

かわら版 復元大洲城

第 42 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎21111（内線224）

大洲市では、二十一世紀の当市の新しいシンボルとなる大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。これに伴う世帯募金に際しましては、市の説明不足から誤解が生じ、市民の

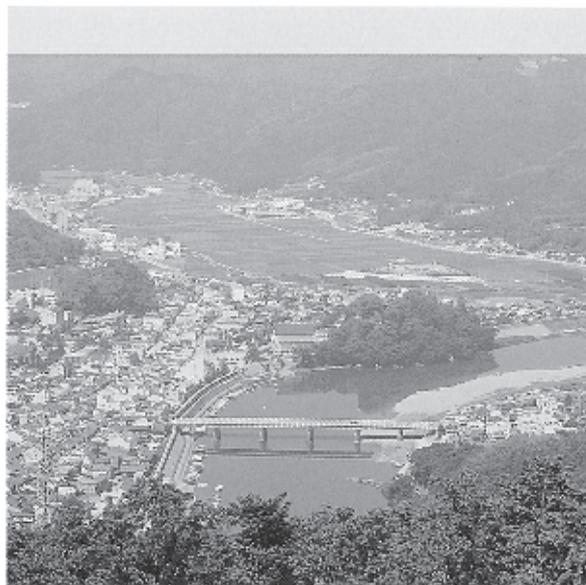
皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。本市では、平成十五年までの間、引き続き募金活動を続けてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

二十一世紀にむけての まちづくり

二十一世紀を目前にして、いよいよ大洲市にも高速道路の開

通が迫っています。こういったなかで、「大洲らしさ」を確立し、市民にも、また、市外の人にも誇りに思えるまちづくりをめざして、大洲市ではいくつも

のプロジェクトを進めています。「大洲らしさ」を確立するひとつの方法として、本市の豊かな歴史性と文化土壌を生かして大洲の個性をアピールすることが大切です。そのために、中世から城が築かれ、江戸時代には城下町として栄え、明治・大正・昭和と製糸業を始めとする産業の中心であった肱南地区のまちづくりを進めています。



▲富士山から眺めた肱南地区。大洲市を代表する景色のひとつ

肱南地区まちづくり計画

この内容は、おおまかに二つに分かれています。まず、肱南

これは、平成の現在まで残された歴史的遺産や文化の華を保存伝承しながら、住民の皆さんの生活環境の向上を図り、新しい商業活動の展開をめざしてもらうために、様々な事業を計画し実施していくというものです。



▲町並み整備が進む内子町八日市の町並み



▲大洲城天守閣復元事業完成予想図

この計画は、肱北・喜多地区とともに、現在策定している「中心市街地活性化基本計画」の中に取り込み、本年度以降に実施していく予定です。

大洲城天守閣復元事業

いまひとつが、「大洲城天守閣復元事業」です。市政施行五十周年である平成十六年の完成をめざすこの事業は、二十一世紀の新しい大洲のシンボルをつくろうというものです。この天守閣の建設により、城下町としての大洲の位置付けがより明確

になり、他のまちとは違う大洲の個性がより鮮烈にアピールできることとなります。

これらのことが実現できれば、文化や観光面での核としての地位が確立し、次世代に誇れるまちができればと考えています。

大洲市では、この大洲城天守閣復元事業のなかで、区長さんを通じて世帯募金のお願ひをしています。平成十五年までのこの活動は、あくまでもこの趣旨にご賛同いただける人にお願ひするものです。なお、昨年末までに区長さんを通じて、お寄せいただいた世帯募金額は、約四千二百万円、そのほか企業・団体等を含めた募金総額は、約一億千六百万円です。

二十一世紀の新しい大洲のシンボルの誕生をめざし、また、「大洲らしさ」の確立をめざしご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

かわら版 復元大洲城

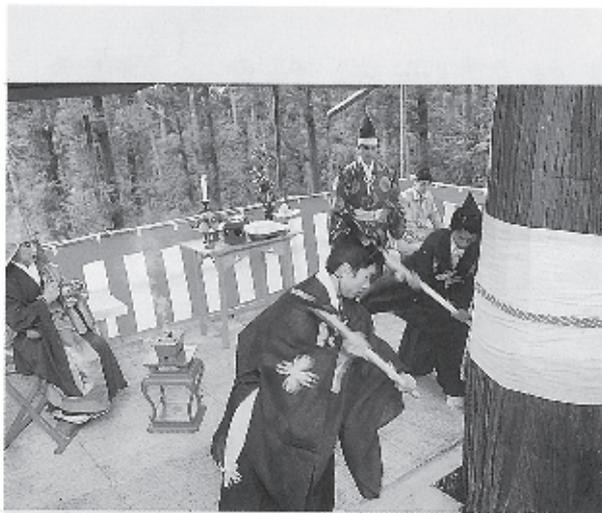
第 43 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎042111（内線224）

古式ゆかしく…

御杣始め式

一月十二日㈫、如法寺の山門前で御杣始め式が開催されました。式典には、大洲城天守閣復元委員を始め、同専門委員、大洲小学校六年生ら約二百人が参列し、事業が無事成功することを祈願しました。



▲大洲市森林組合の職員らによる「斧入れの儀」
発声役（右上）の合図とともに
工匠（中央）が力強く斧を入れる

「御杣始め式」とは、伊勢神宮が遷宮する際に行う儀式で、神殿の建替えなどに必要となる木材を、初めて切り出す場合に行われます。（杣とは、樹木を植えて材木をとる山のこと）このたび、大洲城天守閣に使用する木材（ヒノキ）を大洲藩主加藤家の菩提寺である如法寺から大洲市に寄付をいただきました。これを受けて、大洲城天守閣の使用木材の調達をお願いしている大洲市森林組合の手で、伊勢神宮に習い「御杣始め式」が開催されました。

荘厳な雰囲気なかで…

式当日は、如法寺の山門前にうっすらと霧がかかり、厳かな雰囲気のなかで式典が始まりました。

式典では、政所義之森林組合長が「このたびの御杣始め式が開催できるのも、このように立派な御用木を寄付いただいた如法寺様のおかげです。心より感謝申し上げます。…御杣始め式が次に開催されるのは、天守閣の建替えが必要となる二百年、三百年先になるでしょう。めったにない貴重な機会ですので、

しっかりとご覧ください。」とあいさつ。

その後仏事が、如法寺の藤木家磨住職により執り行われ、参加者の中で、斧入れ・鋸入れを行う代表者が、御用木に焼香をささげました。続いて、梶田市長、井関和彦復元委員長ら九人に加え、大洲小学校六年生の村上優子さんら六人もそれぞれの儀式に参加し、発声役が「えいっ」と威勢よく合図をすると、それに合わせ力強く斧入れ・鋸入れを行いました。また、途中地元の「旬を愛する会」からぜんざいが振る舞われ、式典を一層盛り上げました。



▲大きな音を立てて倒れる御用木

「伐倒の儀」では、大洲市森林組合の技術班により、約二十分間かけて御用木が伐倒されました。御用木がミシミシと大きな音を立てて倒れると、期せずして参加者から盛大な拍手が沸き起こりました。寄付された御用木は、樹齢約二百年、直径七十二㎝、高さ約三千mの大径木でした。

今回、切り出された御用木は、一月下旬まで乾燥し乾燥を行った後、天守閣の柱材として製材・加工していくこととなります。

御用木の寄付を募集しています

大洲市では、天守閣に使用する木材を募集しています。

天守閣に使用する木材は、ヒノキに換算すれば、約千本必要です。このうち、天守閣用の柱材は、約百五十本で、市民手づくりの天守閣の実現のために、できるだけ市内の木材を使用したいと考えています。なお、天守閣には、ヒノキ、スギ、マツの三種の木材を使用します。このうち、天守閣に使用できないマツは、市内にはあまりないため、ヒノキ、スギを募集対象木材としています。さらに、



▲「鋸入れの儀」に参加した大洲小学校6年生

天守閣の防火面、構造面への配慮から、燃えにくく、耐久性のある、木材の中心部分（赤身部分）を使用するため、直径40cm以上の大径木を募集しています。また、天守閣に使用する木材は、最低二年間の乾燥期間が必要であると言われていました。そのため、平成十四年からの本工事に間に合わせるためには、平成十二年の冬までに全ての木材を伐採しなくてはなりません。したがって、寄木の受け付けは平成十二年の夏までとさせていただきます。なお、寄付していただく、大洲市森林組合で、木材の評価額を算出し、それに応じて、寄付金と同様に記念品を進呈します。さらに、評価額が十万円を超える場合には、銅版に刻み顕彰してまいります。

御用木の寄付に対して詳しくは、大洲市役所商工観光課、もしくは大洲市森林組合（☎030-4030）までお問い合わせください。

式典のなかで斧入れの儀、鋸入れの儀に参加した大洲小学校六年生の村上優子さん、中島絵里香さんから感想文が届きましたので紹介します。



大洲小学校6年2組
村上優子さん

私は一月十二日に御杣始め式に参加させていただきました。私は代表でお入れをさせていただきました。おのは重いし、緊張しましたが、めったにでき

ない体験ができてうれしかったです。そして、この後、本当に木が切られたときは、とても感動しました。一本の木を切るのにたくさんの方が必要だなんて知りませんでした。この木が大洲城天守閣に使われるなんて不思議な気がします。このようなめったにない式に出られてとてもうれしかったです。また機会があったら出てみたいです。



大洲小学校6年1組
中島絵里香さん

私たちは六年生は、一月十二日に行われた御杣始め式に参加しました。

私は、のこ入れの儀をすることになりました。大勢のご来賓の方が見ている中でのことはとても緊張し、堂々とできるか心配だったけど、「えいっ、えいっ、えいっ」とちゃんと声を出す。

とができてよかったです。その後、大洲城を復元するとき柱になる木が切られました。切っている間に、「大洲城は四階まであり、松山城より高かった」という説明を聞き、予想以上に立派なのに驚きました。いろいろな説明を聞いている間に、木がたおされました。大洲城復元のための、もう二度とないかもしれないこの式に参加できて、貴重な体験ができたと思っています。はじめは、昔にあった城なんてとあまり興味がなかったけど、完成予定の四年後、平成十六年が楽しみになってきました。

かわら版 復元大洲城

第 44 号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行五十周年を迎える平成十六年（二〇〇四）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。商工観光課まちづくり対策係
☎2111（内線224）

古絵図とパズルでPR

大洲城天守閣のPR商品として、江戸初期の城郭を描く「元禄五年大洲城絵図」と、在りし日の天守閣をしのばせる「大洲城パズル」を作製しました。

今回作製した絵図は、元禄五年（一六九二）加藤家三代藩主泰恒の時代に描かれた市立博物館所有の絵図を原図としています。この絵図には、本丸から三の丸の外堀にかけて、天守・櫓・城門などが姿図として描かれています。なかでも特徴的なのが城門で、開門と閉門の二通りの



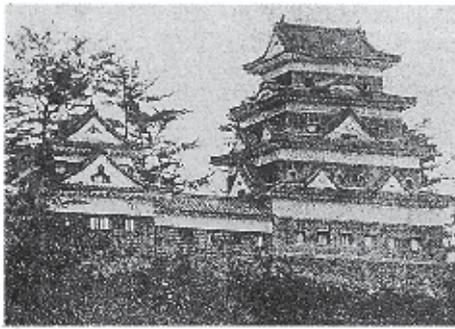
▲元禄五年大洲城絵図

門の様子が描かれています。二の丸の大平門（郵便局前と市民会館西方）、水の手門（城山公園北方）などは開かれた城門であるのに対し、天守入口、二の丸奥御殿などの門は閉じられています。これは、天守閣のあった本丸や二の丸奥御殿などが、通常人の出入りが禁止されていたためではないかといわれています。



▲ジグソーパズル

現在、原図となる絵図は市立博物館に常時展示されており、縦一八三cm×横一八三cmの大きさですが、これをB1サイズ（縦一〇三cm×横七三cm）に縮小し複製しました。ジグソーパズルは、明治初期に敷川緑地公園付近の河原から撮影された古写真に、CG（コンピュータグラフィックス）で色付けをしたものをパズルのデザインとしています。また、大きさは縦三八cm×横五三cm、500ピースで作製しています。いずれの商品も価格は二千元で、市役所商工観光課、市内の各公民館、赤煉瓦館で取り扱っています。詳しくは商工観光課までお問い合わせください。



▲陸川緑地公園付近から撮影された古写真

かわら版 復元大洲城

平成12年3月27日までに
皆様からお寄せいただいた
復元のための募金額は、
140,958,589円です。

第
45
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎2111 (内線222)



▲本丸東側から撮影された古写真

古写真から大洲城のデータを分析するためには、まず撮影位置を確定しなければなりません。そのためには、古写真を撮影した場所と思われる辺りから、実

CGで解析！ 古写真の撮影位置が判明！

今号では大洲城に関する史料のうち、明治初期に対岸の陸川緑地公園付近から撮影された古写真と、本丸東側から撮影された古写真に焦点を当て、大洲城天守閣の高さ・大きさなどを分析するプロセスを検証します。

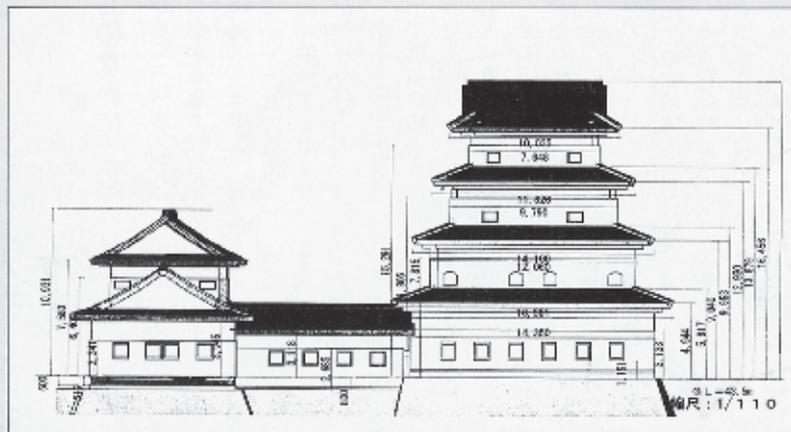
実施設計進行中！ 史料分析を探る！

現在大洲市では大洲城天守閣復元に向け、実施設計を進めています。実施設計では、史実に忠実な天守閣を復元するために、基本設計段階よりも詳細な天守閣のデータ分析を行っています。これらのデータには、今年一月まで実施してきた発掘調査のデータ、また、大洲城に関する史料によるデータなどが反映されます。

古写真から大洲城のデータを分析するためには、まず撮影位置を確定しなければなりません。そのためには、古写真を撮影した場所と思われる辺りから、実際に写真撮影を行います。そして、その写真から現在の天守台石垣・現存する二櫓(台所・高欄)などの位置関係(角度など)を明らかにする作業を行います。この作業で活躍するのがCG(コンピュータグラフィックス)です。現況写真をコンピュータに取り込み、CGで古写真との照合を行うのです。古写真は明治初期に撮影されたということもあり、レンズにひずみのある可能性があることから、それをうまく調整しながら、現況写真と古写真との正確な位置関係・高さ関係の分析を行います。

これにより判明した古写真の撮影位置が図Iです。緑地公園付近からの撮影場所は、天守閣から約二百三十メートル離れた河原で、標高は約十二メートルの地点です。撮影場所A)また、本丸東側からの撮影場所は台所櫓まで約四十三メートルの地点です。(撮影場所B) この撮影位置の確定を経て、さらに天守閣の高さ・大きさを正確に解析します。(図II参照)

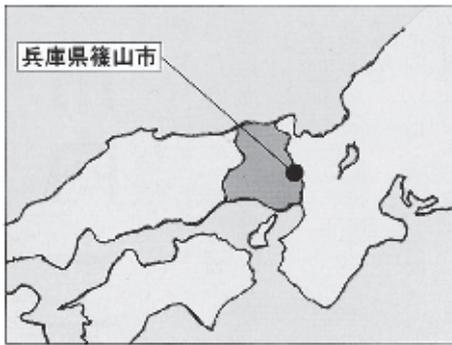
なお、天守閣の最高部の高さは今も詳細な分析作業中ですが、十九・〇三メートル前後の高さになります。これらのCG解析を経て、平成十二年度いっぱい、史実に忠実な天守閣の実施設計を完成させます。



図II



図I



かわら版 復元大洲城

平成12年6月1日まで
に皆様からお寄せいただ
いた復元のための募金額
は、159,301,978円
です。

第
47
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行60周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守を復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

城のある風景 ②

兵庫県篠山市

篠山城の歴史

篠山城は、慶長十四年(一六〇九)篠山盆地の中央部に徳川家康が天下普請で築いた城です。関ヶ原の戦いに勝利した家康は、篠山が京都・大坂から山陰・山陽への要衝であることに注目し、豊臣氏の大坂城と豊臣方の西国大名にらみをかきかせるため築城しました。

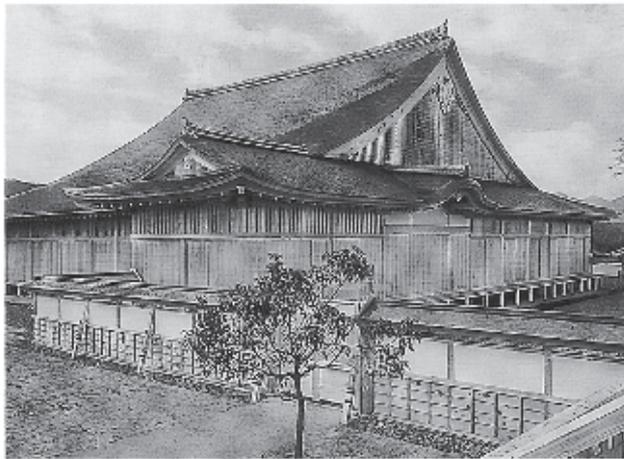
工事は、慶長十四年三月九日に着工され、その年の秋には完成させる突貫工事でした。普請総奉行を姫路城主池田輝政、縄張奉行を築城の名手藤堂高虎がそれぞれ担当し、西国大名二十人を従え築城したと言われています。

この城は、二百六十余年にわたり松平八代、青山家六代の居城となりました。石高は初代には五万石でしたが、文政十年(一八二七)に一万石を増加され、明治四年の廃藩まで六万石でした。明治の廃藩で廃城となり、建造物のほとんどが取り壊されましたが、石垣や外堀などの遺構が原形を残していることから国史跡に指定されています。

天下普請を誇示する大書院
今春、この篠山城に新しい篠山のシンボルとして大書院が復元されました。天守閣を持たな

い篠山城は御殿である大書院で藩の政治が執り行われていました。大書院は、廃藩後も残り、小学校舎や郡公会堂として親しまれていましたが、昭和十九年(一九四四)一月に火災により焼失してしまいました。その後、地元の青年らの起こした復元運動を機に、気運が高まり、当時の篠山町(平成十一年四月一日に篠山町周辺の四町が合体し、篠山市が誕生)が復元事業を進めてきました。

大書院は、棟高十二・八m、屋根は入り母屋造りの平屋建てで、サワラ材のこけら(薄板で替く屋根)十五万五千枚で葺かれています。材料は吉野産のヒノキ・スギなど全て国内産の材が使用されています。また、床

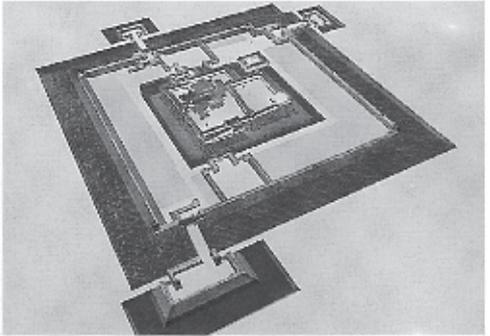


▲大書院 全景

面積は、木造建築としては大変大規模で、七三九・三三㎡もあり、現存するものでは、京都二条城本丸御殿、同二の丸御殿大広間・書院に匹敵します。二条城は将軍が上洛した際の宿所として当てられた第一級のもので、一番の大名の書院としては破格の規模と言えます。

三月二十六日の一般公開初日には、篠山市内外から大勢の人々が訪れ、新市の新しいシンボルとなった建物を誇らしげに見学していました。古い屋並みの残る市街地から城跡を眺めると、大書院の大屋根が漆喰壁の間からぞき、夜ともなるとライトアップされ、天下普請を誇示するかのようには浮かび上がっているのが印象的でした。

半世紀ぶりに復元された大書院は、これまで受け継がれてきた当地方の歴史・文化の基盤として多くの人々に永く親しまれていくことでしょう。



▲篠山城全景 (CGイメージ)



▲一般公開に訪れる人々



▲高くそびえる篠山城石垣

かわら版 復元大洲城

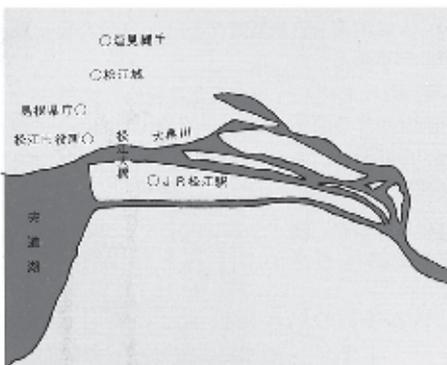
平成12年7月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、159,679,978円です。

第48号

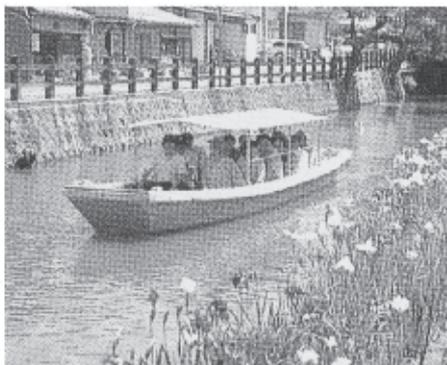
大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222



▲松江城天守閣



▲松江市内地図



▲堀川めぐり

城のある風景 ③

島根県松江市

松江城

松江は古代出雲の中心として早くから開け、奈良時代には国衙(国司の役所)や国分寺が置かれていました。関ヶ原の戦い後、一六一一年には、堀尾吉晴により亀田山と呼ばれる小高い岡に松江城が築かれました。山陰で唯一残る天守閣は、市内のいたるところから眺めることのできる松江のシンボルです。この天守閣は、別名「千鳥城」と呼ばれ、国の重要文化財に指定されています。

高き三十間、五層六階の天守閣は威圧するように大きく、同じころ造られた姫路城の華麗さに比べ、この城は無骨で実戦本位の造りとなっております。黒い下見板張り初層天守閣の名残りをとどめています。

堀川巡り

松江城を囲むすべての堀川は

をどめています。天守閣の内部には、よろい、かぶと、刀など松江藩ゆかりの品が数多く展示されており、出雲十八万六千石の威容を偲ぶことができます。

天守閣の最上階からは、三百六十度にあわたって松江の城下が広がり、四季折々の大山、去還海が一望できます。松江大橋を挟んで北側には堀見縄手などの武家屋敷が残り、松江市の伝統美観保存地区に指定されています。現在は、松江市役所、島根県庁など政治文化の中心地として栄えています。一方、南側は商店、鉄砲方の待屋敷、寺などがあつたところで、現在は経済・商業の中心地として賑わっています。松江には城下町の町割り

が今だに色濃く残されているの

二の丸復元整備

松江城二の丸には、平成十三年春に三つの櫓が復元されます。城郭を整備することで、城下町松江の風情を一層深めようとするものです。

しっとり落ち着いた雰囲気をもつ松江の町並みの情緒は、古くから色濃く残る藩政時代の町割りとその中心となる松江城によって育まれているのです。



▲左から乾小天守、天守、辰巳附櫓、月見櫓

かわら版 復元大洲城

平成12年7月1日まで
に皆様からお寄せいた
いた復元のための募金額
は、161,343,978円
です。

第
49
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

城のある風景 ④

北アルプスに映える黒色五層天守、
長野県松本市

松本城

長野県松本市は、日本のほぼ中央に位置し、西に北アルプス連峰、東に美ヶ原高原など雄大な山々に囲まれ、美しい自然と暮らしやすい気候に恵まれた日本有数の観光地として大変有名です。また、その豊かな自然環境に加え、古い歴史と伝統のあるこの町の中心部には、「国宝松本城」が悠然とそびえます。

松本城は、永正元年(一五〇四)信濃守護小笠原氏の創始とされています。その後、天正十八年(一五九〇)豊臣秀吉は徳川家康を関東に封じ込めると、松本城には石川数正を八万石で送り込み、関東包囲網の一翼を担わせたのです。

天守造営は子の康長によって行われ、文禄三年(一五九四)に、天守、乾小天守、渡櫓の三櫓が造営されました。その後、江戸時代になつて、家康の孫松平直政によって月見櫓と辰巳附櫓が付設され、戦国の武骨さと泰平の優雅さが程よく調和した五櫓の天守群が完成しました。



▲北アルプスを背景に天守、太鼓門が並ぶ

太鼓門の復元

この松本城の二の丸正門として平成十一年三月に、天守閣から遠い山並みまでを望む太鼓門が復元されました。明治に取り壊されて以来百二十八年を経て、往時の堂々とした姿で甦ったのです。総工費約六億二千万円、三年の年月を費やし造られたこの門は、二階建ての本瓦葺きで、高さは一・六五mもある大変大きな門です。

この松本城には、年間七十万人を超す観光客が訪れます。また、二度、三度訪れるリピーターも少なくないと言われます。人々は、国宝松本城の雄姿に目を奪われ、そして雄大な北アルプスの自然美と壮麗な五層天守が放つ建築美とのコントラストに魅了されるのです。



▲石垣体力度調査の様子

かわあ版 復元大洲城

平成12年9月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、162,156,978円です。

第50号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

石垣耐力度調査を 実施します

野面積

石垣技法が本格的に城郭に利用され始めたのは、十六世紀後半に入ってからです。なかでも、信長が安土城の石積みを見習って、穴太衆に任せられたことは、その強固な石積技術を、西国大名に広める契機となりました。

この永祿・天正年間(一五五八～一五九一)に築造された石垣は、穴太衆に代表されるような野面積と呼ばれる手法がほとんどです。野面積は、自然石を加工せず乱雑に積み上げるのですが、石垣の間や裏側に栗石と呼ばれる小石をつめるので雨水のはけが良く、石垣は意外に安定します。また、勾配に反りがなく直線的なのが特徴です。大洲城の石垣も藤堂高虎、脇坂安治が穴太衆と同じ近江出身であ

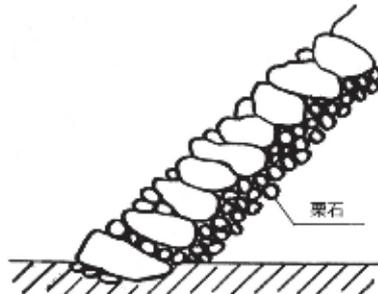


図1 <野面積>



図2 <調査範囲図>

るといふこともあり、この野面積により積まれたのではないかとされています。

石垣耐力度調査

現在ある大洲城天守台石垣は、一六六五年(寛文五年)に二代藩主加藤泰興により築き直されました。それ以来、度重なる震災にも負けず三百二十年余りこの地にあるのです。しかしながら、築造から長い年月を経過した現在、所々で石垣の孕み出しや割れが見受けられます。

こうした石垣は、その耐力度を調査し、崩壊の恐れがある場合には修復することが望まれます。また、石垣の上に建物を復元する場合には、石垣の安全性とともに、建物の基礎としての安定性を確認する必要があります。

従来、このような石垣の構造を容易に解析する手法はありませんでした。しかし、近年の城郭の石垣改修に伴うデータ蓄積や技術の進歩に伴い、石垣の新

しい解析手法が開発されました。それが電磁波調査と呼ばれる手法です。従来は、実際に石垣を一つひとつ剥ぎ取り、内部の裏

込め石(栗石など)の状態を直接により調査しなければなりませんでしたが、この新たな電磁波調査では、表面から電磁波を発生し、石垣に触れることなく調査できます。この調査方法は、元々船舶などで使用されている通常のレーダーの原理を地中に応用したもので、地表から地中に向けて電磁波を放射し、障害物の反射波を受信することで到達時間を測定し、地盤内部の状況を調査するもので、これにより、

石垣の孕みなど表面の変状の把握、根石とその基礎地盤の把握、石垣背面の地盤の把握、栗石の厚さの把握が可能となります。

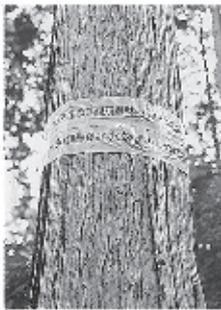
解析

さらに、調査によって得られたデータを利用して、耐震能力を解析します。この解析では、歴史地震や活断層から推定される地震を想定し、地震波を設定します。この地震波で、現状の石垣のまま天守閣を復元した場合と石垣を修復して天守閣を復元した場合の二つのタイプの解析を行います。

この石垣耐力度調査は、八月初旬から実施しており、天守台石垣と本丸井戸曲輪石垣の二カ所を調査します。そして、最終的な解析結果をもとに、石垣を修復するかどうかを決定します。



▲伐採される御用木



▲御用木



▲大洲城使用材と同級の木曾産ヒノキ

かわら版 復元大洲城

平成12年10月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、163,504,978円です。

第51号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城大守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

御用木の調達いよいよ最終段階に!

大洲市では、市民手づくりの天守閣を目指し、用材の寄付を募集してきましたが、その切り出しがいよいよ始まりました。

これまで、大洲市森林組合の協力のもと、木材の寄付をお願いしてきましたところ、皆様のご協力により、平成十二年九月現在で大小五百本近くの寄付が集まりました。

大洲城の御用木には、写真のような「大洲城天守閣御用木」と印刷されたテープが巻かれています。今回、菅田で伐採された御用木は、樹齢が九十年、樹高二十八メートル、直径が四十六cmのヒノキでした。これらの御用木は、しばらくの間、山で葉枯らし乾燥させた後、製材を行い、平成十四年半ばまでの約二年間保管場所で乾燥させます。

この募木活動は、今年の十二月頃まで受け付けをしています。詳しくは大洲市役所商工観光課または、大洲市森林組合までご連絡ください。

国有林からの調達

大洲城天守閣・多聞櫓に使用する木材量は、あらびき寸法で五三〇立方メートルです。このうち地元での調達量は、約四十%の二〇〇立方メートル程度を予定しています。残りの木材は、地元では調達できない大きな木材です。それらは木曾の国有林から調達します。これは、国有林の中で大量の木材を低価格で準備できるところを調査して決定したも

のです。木材には多少の節がありますが、強度的には問題ありません。

木曾のヒノキは、豊臣秀吉の城郭に使用されたことでも有名で、近年では、岩国の錦帯橋に使用されるなど実績もあります。地元調達材は大洲市内で、木曾国有林調達材は木曾地方でそれぞれ保管乾燥を行います。特に地元調達材は、希望者が見学できるよう公開を予定していますのでお楽しみに。

本年度の寄付金を募集します

区長さんを通じ、お願いしております大洲城天守閣復元への寄付金について、本年度の募集を行います。市民の皆様におかれましては、是非ともご賛同いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。



▲天守雛形

かわら版 復元大洲城

平成12年11月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、164,339,978円です。

第52号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

主要な城の高さ

大坂城	四三・九〇m*	大洲城	一九・一五m
名古屋城	三二・〇六m*	高知城	一八・五九m*
熊本城	三二・五七m*	彦根城	一八・二五m*
会津若松城	三一・五一m*	犬山城	一八・一六m*
姫路城	三一・四九m*	和歌山城	一七・三四m*
広島城	一八・七七m*	白石城	一六・七二m
福山城	一八・一〇m*	掛川城	一六・四二m
松本城	一五・三二m*	松山城	一五・九四m*
松江城	一二・四三m*	宇和島城	一五・二四m
岡山城	一一・九九m*	丸亀城	一四・三六m*

(*…新人物往来社「日本城郭大事典」より)

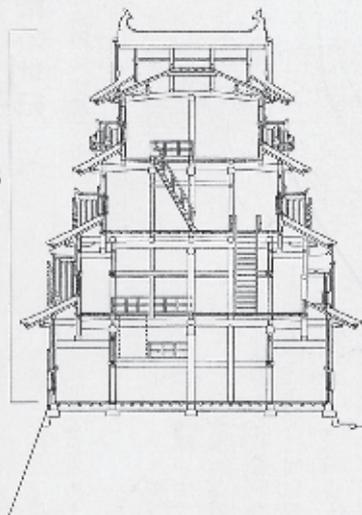
大洲城天守閣の高さ・面積が確定しました!

大洲市では、木造による大洲城天守閣の復元に向け、実施設計を進めています。実施設計では基本設計段階よりも詳細な資料分析を行い、その分析結果を基に設計に反映する作業を進めています。

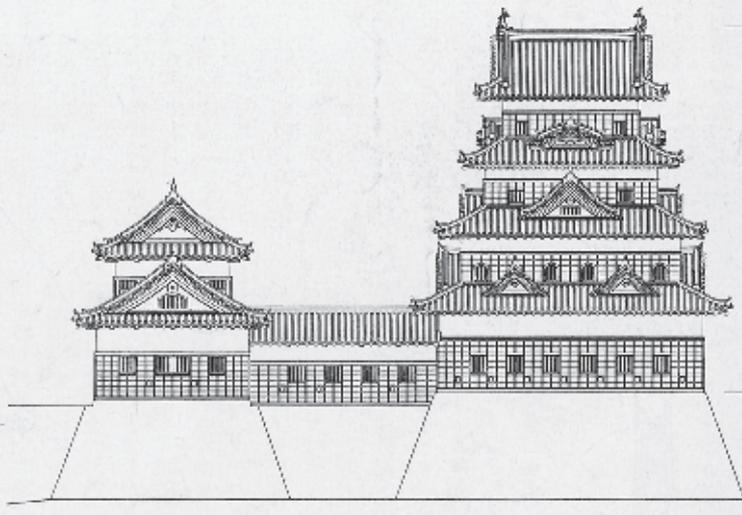
平成10年度から実施した発掘調査では、出土した礎石により、その位置・高さ関係が分かりました。また、雨落ち溝からは、軒の長さが分かりました。(かわら版第41号に掲載)このほか明治時代に撮影された古写真からは、その撮影位置を確定し、現況写真と古写真をコンピュータグラフィックスで照合することで、天守閣の規模が正確に分かりました。(かわら版第45号に掲載)また、天守雛形からは、階段の位置、各階の柱位置などが分かりました。(かわら版第20・21号に掲載)

今回は、このような資料分析を総合した結果、天守閣の高さや面積などが確定しました。復元される天守閣は、軒高十九・一五m(基本設計より十二(四増)、また、延床面積は三五九・九八㎡(一一・四四(四増))となります。下に掲載した北立面図(図1)と天守桁行断面図(図2)は、これらの資料分析の結果を反映した図面です。桁行断面図からは、柱組みや四階までの階段の様子がよく分かります。

この大洲城天守閣が完成すれば戦後に復元された天守閣では日本一の高さとなり、木造四階の天守閣は戦後初めてのものとなります。今後は、観覧客が最上階(四階)まで上がることができるようにするため、建物の防災面・構造面での安全性を確認し、この実施設計を終了します。



▲図2 天守桁行断面図(実施設計)



▲図1 北立面図(実施設計)

かわら版 復元大洲城

平成12年12月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、166,853,255円です。

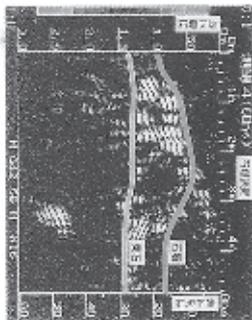


図1 等高線立面図

第53号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行60周年を迎える平成16年(2004)の完成を旨とし、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

図2 裏込栗石の様子



大洲市では、天守台石垣と本丸井戸曲輪石垣の修復方法を確定するため、八月初旬から九月中旬まで石垣耐力調査を実施しました。この調査では、レーザー計測調査、レーダー調査など電磁波による調査と実際に石垣の核を掘削し、核石の状態を把握するトレンチ掘削調査を行いました。今号では、それぞれの調査結果をもとに石垣の耐震性を解析したので紹介します。

レーザー計測では、抜け出しやはらみなど石垣の状態を調査しました。図1にある石垣の立面図は、石垣の後縁を1cm間隔の等高線で図化したもので、石と石の間の黒い部分は間詰め石が抜け出したものと推定できます。

レーダー調査では、石垣の背面地盤の様子を調査しました。石垣の強度には、石垣の控えの長さや裏込め栗石の厚さが重要です。大洲城の場合、図2に示すように、天守台石垣の控え長と裏込め栗石の厚さは、ともに約七十cm程度でした。

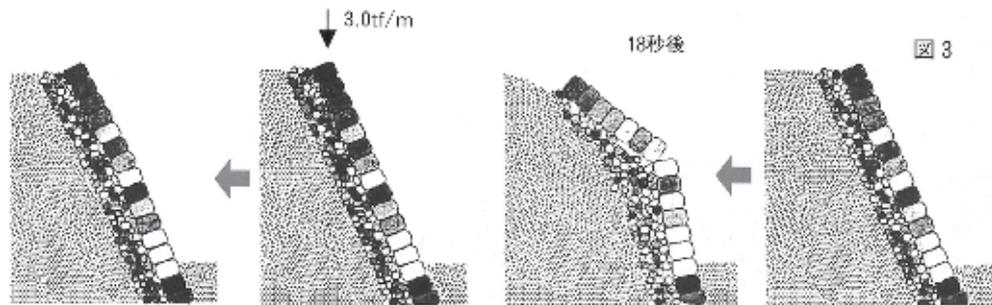
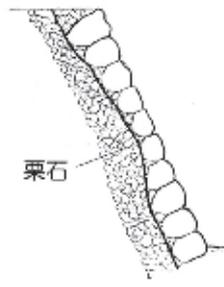
石垣耐力調査が終了、部分的な修復工事を実施します!!

トレンチ掘削調査では「控え出し」と呼ばれる工法が採られていたことが分かりました。この工法は、根石を積み石よりも若干前に出して石垣を安定させる工法で、近辺では丸亀城で同じ工法が採られていることが分かっています。

解析結果

以上のような調査結果をもとに、大洲城の石垣がどの程度の地震に耐え得るか解析したものが図3です。天守台石垣が現在の状態で二百五十ガルの地震(大洲市付近の歴史地震記録により過去最大級の地震で震度六弱程度)を迎えた場合、十八秒後に崩れてしまいますが、天守閣を復元し、石垣にわずかな壁の荷重がかかるると石垣は安定し、崩れません。また、本丸井戸曲輪下の石垣は、はらみが随所に見られ、同規模の地震の場合には、はらみが原因で崩壊する結果となっています。

大洲市では、このような解析結果を十一月二十二日に大洲城天守閣保存管理専門委員会に諮問しました。その結果、天守台石垣は、間詰め石の抜け出して



天守台石垣に天守閣壁の荷重がかかる場合(250ガル)

天守台石垣に天守閣壁の荷重がかからない場合(250ガル)

いる所など部分的な修復を平成十三年度を実施することとしました。また、本丸井戸曲輪下の石垣は、着工時期は未定ですが、平成十六年度の天守閣完成時期の前後を目標に修復する計画としました。



かわら版 復元大洲城

平成13年1月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、172,475,755円です。

第54号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222

発掘調査概要報告書 を発行

大洲市教育委員会では、大洲城跡天守跡地で実施した発掘調査について、概要をまとめた報告書(概報)を発行しました。この報告書は、「遺跡は研究者のものではなく、地域住民のものである」ことを念頭におき、写真や図面を多く掲載して、調査の概要をわかりやすく説明したものです。

概報の内容

発掘調査は、平成十一年二月から平成十二年一月まで、大洲城天守と多聞櫓の跡地(約二七〇㎡)で実施しました。

この発掘調査によって、復元する天守の重要な資料となる遺構を検出しています。

①天守と多聞櫓の基礎石

復元する建物の規模や、位置を判断する資料となります。

②雨落ち溝

軒から落ちる雨だれを受ける溝で、軒の長さを判断する資料となります。

③天守礎石

天守の柱を支えていた石で、建物の位置や高さを判断する資料となります。

また、その遺構の下から、別の建物の遺構と織田・豊臣系の城郭瓦が出土しました。

①巨石列

天守より古い時代のもの

と考えられ、上に建つたものは、櫓か天守の可能性があります。

②城郭瓦

秀吉の居城、あるいは秀吉家臣の居城に使われていた瓦と同じデザインの特徴瓦など、織田・豊臣期の瓦が出土しました。このことにより、ある時期の大洲城が織田・豊臣系城郭であったということも物語っています。



▲菊紋瓦と軒平瓦出土状況

さらに、その下の層から土塀跡と見られる遺構や、土師質土器が出土しました。

復元する天守の遺構より古い時代の遺構は、調査区外に延びており、全容がわからないため今後の調査が期待されます。

なお、調査内容の詳細については記載する本報告書は、天守復元の報告書と一連のものとして平成十六年度以降に発行する予定です。

藤樹先生膝元に隠された意外な事実

平成11年(1999)2月2日から開始した発掘調査は、中江藤樹先生の銅像の石積み基礎(写真1)を取り除く作業から開始しました。

この銅像は、明治43年に本丸の天守跡地に建立され大正14年、昭和27年と3度変わりましたが、銅像周囲の石積み基礎は当時のままでした。以来、今日までその地下は、人の手が加わることなく中江藤樹先生に守られていました。

一致した5個の石

中江藤樹像基礎石を覆う玉石を取り外したところ、約80cm大の石が6個検出されました(写真2)。天守復元図面と石の配置を照らし合わせたところ、6個のうち5個の石が柱位置と一致し(右図)、天守の石であることが判明しました。また、礎石の抜き取り穴も6箇所検出されました。

6個の礎石はいずれも緑泥片岩で、石の裏にはフジツボが付着していました。おそらく長浜周辺の海から脇川を使って舟で運び入れたのでしょう。

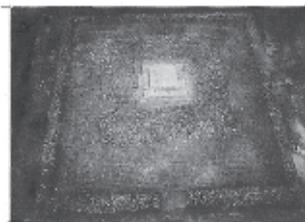


写真1 発掘調査前 一南から一



写真2 礎石検出状況一南から一

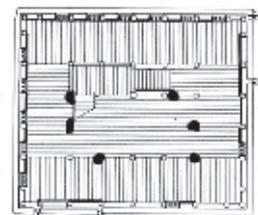


図 復元平面図の柱位置と礎石の配置



▲金沢城石川門

かわら版 復元大洲城

平成13年2月1日まで
に皆様からお寄せいた
いた復元のための募金額
は、175,472,655円
です。

第
55
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222



▲兼六園

金沢城のそばにある兼六園は、水戸の偕楽園、岡山の後楽園と並び日本三名園の一つとして知られています。兼六園という名称は、宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望という、本来兼ね備えることのできない六つの優れた景色を備えているところから

城のある風景 ⑥
加賀百万石の文化が
今に伝わる町
石川県金沢市

北陸最大の都市である金沢は、天正十一年(一五八三)前田利家が金沢城に入城して以来、加賀・能登・越中を合わせた加賀百万石の城下町として繁栄を続けてきました。

金沢城は、市内の中心部に位置し、今も残る約二十八・五ヘクタールもの広大な敷地に、往時の城郭の雄大さを窺い知ることができまふ。城跡内には、石川門と三十間長屋が現存しています。いずれも国の重要文化財に指定され、金沢市のシンボルとしてこれまで大切に保存されてきました。



▲長町武家屋敷跡

付けられました。庭園は、約十ヘクタールの面積を誇り、山あり滝ありと地形は変化に富み、四季折々、訪れる人々の心を和ませます。

また、空襲をまぬがれたこの町には、今でも武家屋敷が残っています。土塀が続き、重厚な門構えの屋敷が並ぶ路地は、藩政時代の面影を色濃く残しています。

金沢には、このような城下町の町並みが残ると同時に、城下町で培われてきた見事な伝統工芸が今に伝わっています。

加賀藩は、元禄期(一六八八―一七〇三)には、人口約十二万人、全国第四位の規模を誇り、幕府に次ぐ富を所有していたと言われています。その安定した財力により、前田家歴代藩主は、優れた職人や芸術家を招き入れました。職人たちは、鑓柱の厚い庇護の下、「加賀友禅」や「金沢漆器」に代表されるような装飾的で優雅な工芸文化を生み出したのです。今日、これらの工芸文化は、後世に受け継がれ、古都金沢の情緒あふれる町並みを演出しています。

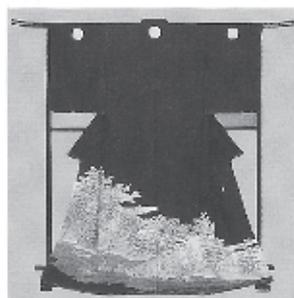
金沢城の整備

金沢城跡は、癸卯置泉後、兵部省の所管となりました。戦後、兵舎は改造され、金沢大学が設立されました。

現在、石川県では、大切な歴史・文化の中核となるこの金沢城跡を整備し、金沢の新しいシンボルを創り上げようとしています。これは、伝統工芸に代表されるような金沢の情緒豊かな文化を後世に継承し、金沢らしさを助長していくというものです。

金沢城址公園整備事業は、平成元年から始まった金沢大学の移転が完了した後、平成八年度から本格的に始動しました。石垣の修復や内堀の再現、歴史的建造物の復元など十年間をかけて平成十七年度まで行われます。

復元される建造物には菱櫓や五十間長屋などがあります。これらは、古写真・古絵図などをもとに、木造により史実に忠実に復元されます。次号以降では、これらの復元事業の様子をお伝えします。



▲加賀友禅



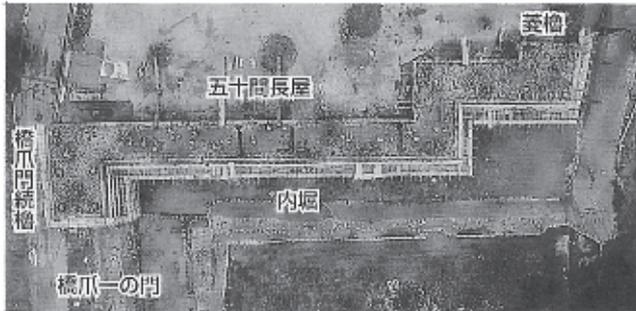
▲菱櫓の屋根工事の様子

かわら版 復元大洲城

平成13年3月1日まで
に皆様からお寄せいた
だいた復元のための募金額
は、176,767,655円
です。

第
56
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人へご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線222



▲発掘調査時の航空写真

城のある風景 ⑥その2
城跡整備により
受け継がれる歴史文化
石川県金沢市

前号では「加賀百万石の文化が今に伝わる町」と題し、金沢城や金沢の町並み、伝統工芸などを紹介しました。今号では、金沢の文化の中核となる金沢城跡の整備についてお伝えします。「金沢城址公園整備事業」は、平成元年から始まった金沢大学の移転が完了した平成八年度から本格的に始動しました。現在は石垣の修復や内堀の再現が完了し、歴史的建造物の復元が行



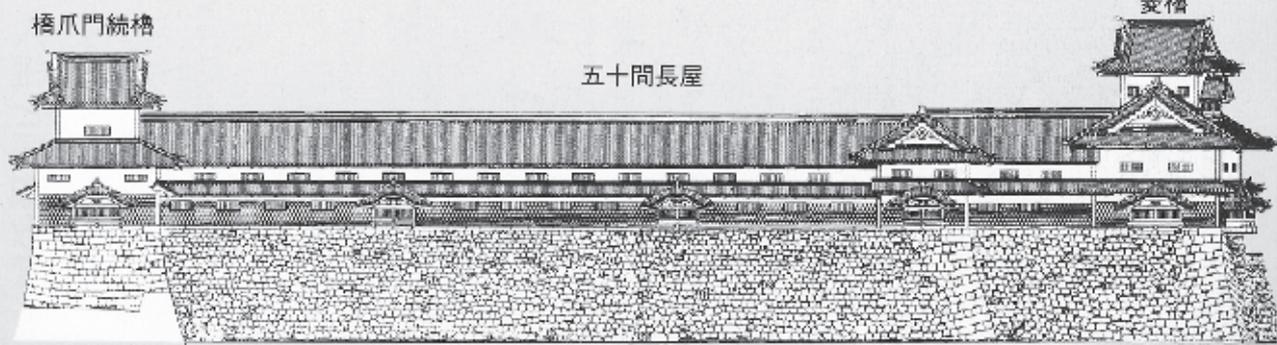
▲明治初期の古写真

われています。
菱櫓等の復元
今回復元される歴史的建造物は、菱櫓、五十間長屋、橋爪門続櫓などです。これらの建造物は明治時代に火災により焼失してしまいましたが、幸いにもそれより前に撮影された古写真が残っており、昔どおりの復元が可能となります。
菱櫓は木造三階建て、高さは一七・三四m、延べ床面積は二五五・三五㎡です。建物が石垣隅の角度(鈍角)に合わせて建てられているため、本組みが菱形を付けられました。そのため、菱櫓に使用する部材は写真のよう

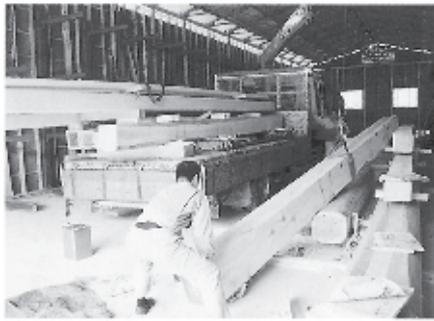
な菱形をしています。
五十間長屋はその名の通り、長さが五十間(約九〇m)もある長屋です。木造二階建て、高さは九・三五m、延べ床面積は一、二八四・九五㎡もあります。橋爪門続櫓は木造三階建て、高さは一四・六九m、延べ床面積は二五三・九三㎡です。
新しい世紀を迎えて
これらの復元工事は、平成十二年八月に上棟式を終えました。現在は、平成十三年九月に開催される「全国都市緑化フェア」の開幕に併せ、工事が進められています。金沢城跡が主会場となり、菱櫓等が一つのパビリオンとして大勢の人々に紹介されます。さらに、平成十四年一月スタートのNHK大河ドラマでは「利家とまつ〜加賀百万石物語〜」が金沢を舞台に放映されます。そのとき金沢城跡は、全国から脚光を浴びることになります。新しい世紀を迎え、全国的に注目される加賀百万石の歴史遺産や情緒あふれる伝統文化は、そこに住む人々にとって一層かけがえのないものとして受け継がれていくことでしょう。



▲菱櫓に使用されている部材



▲復元立面図



▲納材される御用木

かわら版 復元大洲城

平成13年4月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、**188,163,318円**です。

第57号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成13年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線352



▲伐採される木材

また、納材された木材は、各保管場所で検品作業を行います。検品作業では、節の状態や割れ

ます。木曾地方の国有林で調達した木材は、木曾で保管・乾燥を行います。これは、急激な気候の変化による木材の割れやねじれなどを防ぐためで、乾燥期間を終えてから徐々に大洲に運搬します。

納材作業は今年三月から始まり、現在、製材した木材を次々と倉庫内に搬入しています。そして、平成十四年以降に行う木工事の時期まで約二年間乾燥させ、それぞれの部材に加工します。

天守閣に使用する木材は、伐採後、しばらく山で業枯らし乾燥をさせ、あらびき製材を行います。その後、保管倉庫で割れなどを防ぐ処置を行い、乾燥させます。

木材の保管倉庫が完成しました！



▲木曾での検品の様子(柱材)

地元で調達した木材の見学会を秋以降に予定しています。天守閣に使用する木材は、一般の住宅に使用するものと異なり、たいへん大きな木材も使用しています。また、寄付いただいた銘木と呼ばれるような木材も納材しています。めったにない貴重な機会ですのでお楽しみに。

見学会を予定しています

状況などを検査します。検査に合格すれば写真のような合格印を木材に押印します。



▲合格印を押印された木材



▲現在の樹形付近

かわら版 復元大洲城

平成13年5月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、190,201,966円です。

第58号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線352

大洲城あれこれ！ 城郭の玄関口・樹形

近世の大洲城は今から約四百年前の藤堂高虎・臈坂安治の時代に完成したと言われています。二重の堀と駄川という要害を巡らした大洲城は、現在の本丸跡から、東は大洲郵便局、西は旧大洲病院、南は大洲高校付近まで渡る広大な敷地を有していました。さらに、城郭内には大小三十近くの櫓や門が配備されており、それぞれが城郭として与えられた役割を担っていました。

そこで、今月号から不定期で「大洲城あれこれ！」と題し、近世の大洲城がどのような様子であったのか、シリーズでお伝えします。

今月号では、まず大洲城の玄関口である「櫓形と三の丸大手門」について紹介します。

城郭の玄関口は「虎口」と呼ばれ、敵を向かい討つために様々な工夫が凝らされました。そして虎口の最も発展した形態が「櫓形(樹形虎口)」なのです。

大洲城の城郭内に入る「櫓形」は、商人町と船場に近い現在の大洲郵便局付近にありました。大洲城は、現在の芝罌橋付近から南方に外堀を巡らしており、城郭内に入るためには、この外堀を渡らなければなりません。そして、この外堀を渡る

ための土橋を利用して「樹形」が作られたのです。

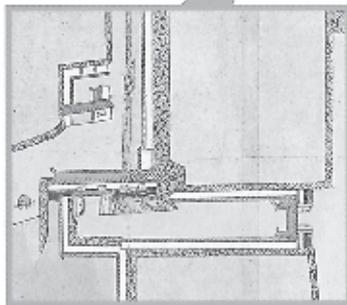
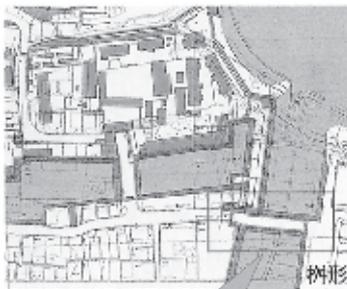
「樹形」は一般的に外側に高麗門(小門)、内側に櫓門(大門)が配置されます。城外の敵を攻撃する際は、櫓門を開き、高麗門を閉じて城兵を入れ、それから櫓門を閉じ、高麗門を開いて敵兵に攻撃を仕掛けるのです。「樹形」とはこのように城兵の数を樹のように計ることができることからその呼び名がついたとも言われています。

また、「樹形」を渡り終えると道筋が右に折れて二階建ての櫓門(三の丸大手門)が建てられています。これは、道筋を折り曲げることで、通過する敵兵の勢いを止め、櫓門と土堀から弓で射やすくするための仕掛けであったと言われています。

このように、「樹形」は出撃の際に城兵を待機させる武者溜りの役割と敵兵の直進侵攻を防ぐ役割を持ち合わせた重要な仕掛けであったのです。

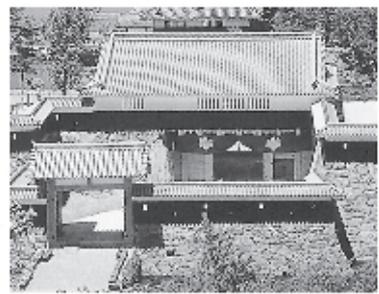
現在、樹形の名称は「櫓形通

▼図1 現在の市街地に元禄絵図を重ねた図



▲図2 「元禄五年大洲城絵図」拡大図

絵図を販売しています！
図2で紹介している元禄五年大洲城絵図は、大洲市役所商工観光課、赤煉瓦館、市内の各公民館にて二千円(税込)で販売しています。詳しくは商工観光課までお問い合わせください。



▲松本城の太鼓門 樹形

り」として残っていますが、これは櫓形に通じる通りとしての意味合いのようです。

大洲城は、このほかにもたくさんの特徴を持ち合わせた興味深い城郭です。今後も随時紹介しますのでお楽しみに！



▲台所櫓

かわら版 復元大洲城

平成13年6月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、190,529,966円です。

第59号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係

☎24-2111 内線352



▲南隅櫓

▼高欄櫓



▲多聞櫓の一部が復元された

大洲城あれこれ! 2 昭和の大修理・大洲城櫓

重要文化財に指定されている大洲城櫓(四棟)は、往時の建築様式や建築技術を知ることのできるたいへん貴重な文化財です。近世の大洲城には、大小二十前後の櫓が配備されていましたが、明治時代以降、次々とその姿は消え去り、今では本丸に台所櫓・高欄櫓、二の丸に葎櫓、三の丸に南隅櫓の四棟を残すのみとなっています。

大洲城櫓は、いずれも昭和三十三年六月十八日に重要文化財の指定を受け、昭和三十年代から四十年代にかけて大規模な解体修理が行われました。これらの修理では、歴史を後世に正しく伝えようと史実に忠実な修理が行われており、その全容は修理報告書に克明に記されています。この四つの大洲城櫓は「元禄

五年大洲城絵図」などから江戸初期には既に建物があつたことが判明しています。しかしながら、暮米になり火災や地震の被害(安政の大地震・西暦一八五七年)を受けたため、四櫓全てが再建されました。その後、明治時代から昭和二十八年にかけてとさおり部分的な修理が行われており、昭和三十三年の重要文化財指定を契機に文化庁の指導のもと、大規模な解体修理が行われました。

解体修理は、文化庁から推薦された工事監督が常駐し、絵図や古写真など、歴史資料に基づき史実に忠実に施工されました。解体前の調査では、建物の外観及び内部、後世に改変された痕跡や仕口など記録写真の撮影が行われました。また、建物全体にわたり実測調査が行われ、曲線部分には原寸の型板が作製されるなど詳細な調査が行われ

▼葎櫓



修理前



▲葎櫓の石垣が
かさ上げされた

ました。さらに、各部材には一つひとつ番号が付され、再用材・取替材・補修材に分類され、新補材を使用する場合には、見隠れ部分に修理年号が烙印されました。

【主な修理の特徴】

台所櫓と高欄櫓の修理では、明治時代以降の部分修理で改変された箇所を元通りに復元する作業が行われました。また、葎櫓と南隅櫓では石垣工事も実施されました。

台所櫓

間仕切の復元：一階内部の間仕切が撤去されていたため、壁貫穴などの痕跡から位置を確定し復元されました。

二階下見板張りの復元：二階の下見板張りが撤去されていたため、古写真や釘跡をもとに復元されました。

多聞櫓の整備：解体時に桁位置などが確認されたことから一階に多聞櫓の一部(一間)が復元されました。

高欄櫓

床高の復元：柱に墨跡が残っており、床高が十三・五四ほど上げられていたことが判明したため、床高が元位置に戻されました。

石垣が使用されていることなどから、本来はなかつたものとして真壁が撤去されました。

多聞櫓の復元：台所櫓と同様に一部が復元されました。

葎櫓
石垣の高上げ：明治時代以降、洪水により櫓が数回浸水していたため、石垣が約3m高上げされました。また、石垣を積み足したことでより櫓位置が西南方向に若干後退しました。

南隅櫓

石垣の修復工事：南面に極端な孕みや崩落石が見られ、崩壊寸前であったため、積み替え工事が行われました。

大洲城櫓は、昔のままの状態をできるだけ保持し、後世に伝えていくため、歴史資料をもとにこれまで修理・保存されてきました。

大洲城天守閣は惜しくも明治二十一年に取り壊されてしまいました。大洲城櫓と同じく古写真や模型模写など数多くの資料に恵まれており、建物そのものが貴重な歴史資料となるよう文化庁や愛媛県教育委員会の指導を受けながら史実に忠実な復元を目指しています。



▲第9回大洲城天守閣復元委員会

かわら版 復元大洲城

平成13年7月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、193,013,966円です。

第60号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

南工期光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲保管倉庫(北只)に集積された木材

第九回大洲城天守閣復元委員会 進捗状況や今後の事業計画を審議

第九回大洲城天守閣復元委員会と建設専門委員会の合同会が六月八日、市役所二階大ホールで開かれました。

今回の復元委員会では、今年二月に実施設計が完了したことを受けて、本体工事の発注となる前に、事業の進捗状況や今後の事業計画について審議されました。本号では、その内容をご紹介します。

本体工事スケジュール

本体工事は六月二十八日に契約が締結され、今年度は天守台石垣の部分的な修復や工事用仮設道路の工事をを行います。また、集積された木材の振り分け作業なども実施します。平成十四年度からは基礎工事に入り、その後、建て方、屋根工事、左官工事、外構工事などを行い、平成十六年七月末に大洲城天守

閣はいよいよ完成を迎えます。

木材の調達状況

天守閣と多聞櫓に使用する木材量は、あらびき後の数量で約四五〇立方材となります。そのうち、地元で調達された量は全体の約四〇%を占めます。また、木材の総部材数は全部で五、八五九点(野地板を除く)あり、そのうち天守閣と多聞櫓に使用する柱材一六二本は全て地元調達材を使用します。さらに、一階から二階への通し柱には、如法寺で開削した「御杣始め式」の松(樹齢二五〇年)を使用します。

九月末頃には地元調達材のお披露目式を開催します。柱材はもちろん、木曾松の大径木なども展示する予定です。

実施設計が完了

今年二月に完了した実施設計では、建築基準法の問題が解決し、観覧者は最上階(四階)まで上がることができる設計となっています。今回の委員会では、この実施設計を担当した竹林建築研究所・木岡敬雄氏か



▲委員会で説明する木岡氏

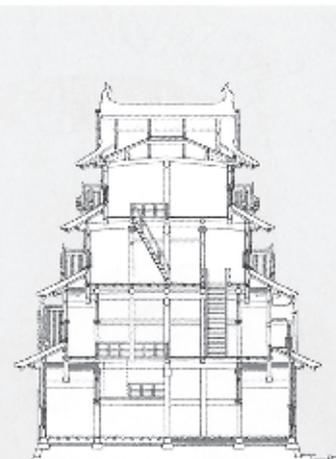
ら設計内容などについて説明がありました。

天守櫓形の特徴

大洲城に関する資料のうち、天守櫓形は天守の構造を知る上でたいへん重要な資料です。(かわら版二〇・二一号で詳しく紹介しています)しかしながら、この天守櫓形には、構造上南北方向に弱いという欠陥があることが多くの専門家によって指摘されています。そのため、今回の実施設計において、この弱点を補うための横架材などを追加していることが報告されました。(図1参照)そのほか、史実がない階段の手摺りが観覧者の安全のため、集成材やステンレス製の支柱を用いて設置す



▲志保城:2,3階に火打窓がある



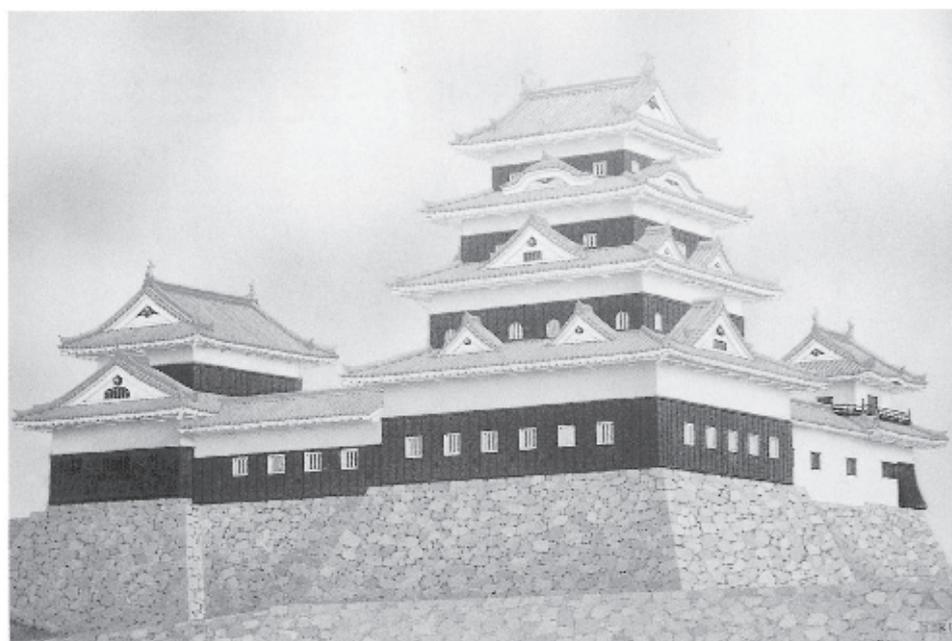
▲図1 天守櫓形断面図
着色した部分に部材を追加している

ることなども説明されました。また、木岡氏から他の城と比較した大洲城の特徴として大洲城の天守は、四重天守というよりは、五重天守級の豪華さを備え、特に破風の配置などが江戸城に酷似していること、また、二階の火打窓の配置は彦根城に見られるように美しく、さらに、通し柱は姫路城が有名であるが、たいへん珍しい手法で、シンボリックな意味合いをもつことなどが述べられました。

大洲城天守閣復元工事は、秋頃からいよいよ工事に着手する予定です。工事に関する情報は、かわら版だけでなく、今後は市の観光ホームページでも随時掲載します。皆さん、お楽しみに。

木岡敬雄氏 昭和三十三年、東京都生まれ。志保城天守閣復元事業推進委員会委員長。現在、竹林建築研究所 総合設計部 主任。川口城天守閣などの設計に携わるほか愛媛県歴史文化博物館の手続機械天守や大洲城などの復元構想の設計、安芸一原大城、福岡城等の復元CG制作の監修に携わる。

URL: www5.ocn.ne.jp/~oozu/



▲復元される大洲城の完成予想図（基本設計）

2012 大洲城天守閣復元 本体工事着工!!

最上階（四階）

からの眺めは最高だ〜っ!



▲明治時代の大洲城（東面）

大洲城天守閣は、戦後復元された木造城郭建造物では、日本一の高さ（一九・一五m）を誇り、日本で初めて木造で復元される四層四階天守です。また、今年二月に終了した実施設計では、建築基準法の問題が解決し（建築基準法適用除外）、観覧者が最上階（四階）まで上がる事ができる設計となっています。

施工業者は、六月二十二日に三層以上の木造城郭建築の経験のある業者など七業者による指名競争入札が行われ、六月二十七日の六月定例市議会で正式に決定しました。

▼施工業者
株式会社岡組四国支店
（香川県高松市）

▼工事費
七億四千五百五十万円
（建築・石垣工事費）

▼工期
平成十三年六月二十八日
平成十六年七月三十日

株式会社岡組は、平成七年に

宮城県白石城天守（三層三階）を復元し、現在は熊本城木中櫓（二層三階）の復元を行っています。

今年度は、部分的な石垣の修復や工事用仮設道路の設置を秋ごろから行い、平成十四年度から本格的な工事（基礎工事・木工事などに着手します。また、木工事や左官工事は、地元で技術が残るよう地元との組合などを通じて実施する計画です。

そのほか、市民の皆さんがこの事業に参加できるように木材のお披露目式や木曳き式（御用材を山車に載せ、市内を練り回す儀式）、瓦一枚運動（瓦一枚々に名前や思いなどを書き込む募金運動）など各種イベントを予定しています。

大洲城天守閣の復元は、市民の夢をのせた平成の大事業です。かつての雄姿そのままに、威風堂々とそびえる大洲城天守閣が大洲市の新しいシンボルとして、大洲市の水面に姿を映す日は、そう遠くはありません。



▲熊本城櫓修復工事の様子



▲平成7年に復元された白石城天守



▲木曾松

かわら版 復元大洲城

平成13年8月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、195,607,446円です。

第61号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲秋田栗

大洲城天守閣募木専門委員会が七月十六日、大洲市総合福祉センターで開かれ、木材のお披露目式の開催期間や内容について審議されました。また、会終了後、木材の調達状況を確認するため、北只の木材保管倉庫を視察しました。

御用木お披露目式

お披露目式は、九月三十日(日)に北只の木材保管倉庫で開催し、その日から一週間程度、一般公開を予定していません。期間中は、地元木材のそれぞれの調達場所や使用予定箇所などを紹介します。また、このほかに、なかなか見ることのできない木曾の国有林の絵材や秋田の栗材を丸太で展示する計画です。そのほか、平成十二年一月に開催した御抽始め式や木曾

お披露目式の開催が決定!!

(九月三十日から一週間)

大洲城天守閣募木専門委員会

でのヘリコプター集材の様子などこれまでの木材調達の様子をビデオで紹介します。めったに見られない貴重な機会です。皆さん、ぜひお越しください。

木材の現況視察

専門委員会では、すでに製材を終え、保管倉庫で乾燥を行っている木材の現況視察を行いました。保管されている木材のなかには、銘木と呼ばれるような立派な材もたくさん納材されています。一、二階の通し柱に使用する如法寺の檜(樹齢二百五十年)は、三十二センチ角で長さ八メートルもあり、なかでもひととき目を引いていました。

現在、地元材の製材作業はピートを迎え、市内三方所の製材所で実施しています。製材を終えると一本ずつボンド塗りなどを行い、割れを防ぐ処置を行います。

また、天守閣に使用する部材は、なるべく克実に近い状態のために背削りを施しません。その



▲募木専門委員会により現況視察。見事な材が並び。

ため、柱材については芯を抜いて乾燥させる芯抜き作業を行います。これは、木材の中心部分を直径約五センチのドリルでくり抜き、中空部分に熱風を通すことで内部の乾燥を促進させるものです。これにより、表面からの割れを防ぎ、水分のムラのない材に仕上がります。この工法は、古来の工法として伝えられており、現代において機械で効率よく実施することが可能となりました。

すべての製材は八月末までに終了させる予定です。その後は保管倉庫で来年の五月頃まで乾燥させ、大工さんの手に引き渡されます。



▲芯抜き作業(視察時)



▲製材の様子



▲木骨調塗材を検品する前川氏(右)

かわら版 復元大洲城

平成13年9月1日まで
に皆様からお寄せいた
だいた復元のための募金額
は、195,681,466円
です。

第
62
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行40周年を迎える平成14年(2003)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城天守閣復元の 法手続き上の経緯

大洲城天守閣を史実に忠実に復元し、観覧者が最上階の四階まで上がるためには、様々な法手続きを行わなければなりません。今言では、これらの問題を解決するために大洲城天守閣復元を強力に支援していただいた前川康建築研究所の前川康氏に諸手続きの経緯を紹介していただきます。

大臣認定の廃止

皆様方は建築物を建てる場合には、建築基準法に基づいた厳しい制限を受けることはご存知のことと思います。

お城の復元も、新たに建てる建物であるので当然この法律の適用を受けますが、法律が定めている規制とおりでは復元ができません。これまで、法の条文に抵触する事項については、復

正確な復元を目指して

元計画が法律で求める性能と同等の安全性を確保していることを示したうえで、特別に建設大臣の認定を受けてきました。しかし、例えば階設の寸法のようにはっきりと数値で決めてある規定に関しては、どうしても代替措置を講じることが出来ません。このため、白石城や金沢城では昔どおりに復元ができない部分が生じたり、近代的な消火設備を設けたりしました。

大洲城も、この大臣認定を取得する方向で復元計画を進めてきました。ところが、肝心の大臣認定の条文が、平成十年六月の法改正で廃止が決まってしまうしました。そこで、改正された条文の解釈やその運用の枠内で、できるだけ史実に忠実な四層四階の木造天守を復元することにしました。

復元は昔どおりにしてこそ価値あるもので、平成十一年十二月、建設省(現国土交通省)建築指導課長に直接相談をいたしました。課長に、大規模な木造建造物を造る技術の継承のためにも復元が必要であることや、昔ながらの本物のお城を復元したいという大洲市の切なる願いを訴えました。

そして法整備を図る専門的な立場から、法解釈上の様々な検討をしてもらいました。一旦は法の枠内で正確な復元をすることは不可能であるとの結論が出ましたが、翌一月には、復元の理由がある建築物は、建築基準法を無理に押しつけるのではなく、文化財建造物と同様に法の枠外として扱うべきだとの見解が示されました。

この見解を受けて愛媛県との協議に入りました。色々調べてみると法の枠外で行った事例は他にもたくさんありました。それらが具体的にどの様な法的解釈や運用を図ったかなどの調査や検討を経た結果、愛媛県の最終的な了解が得られました。

これにより、大洲城の計画も法に準拠しない防災や構造の計画を新たに立案しました。そして、その計画の妥当性を日本建築センターにはかり、防災や構造上の安全性検討委員会の結論が今年の三月末に出されました。それは昔どおりの復元だか

ら階段は急勾配でもやむを得ないし、階高が高い建物なのでスプリンクラーも正常に作動しない恐れがあるため、設置しない方が良いとの結論でした。

この計画の安全性に関する評価や史跡などの現状変更の手続きを踏まえて、愛媛県は六月の建築審査会に法適用の除外の認定をはかり、その同意を得ました。諸手続きが六月二十七日に終わり、やっと大洲城復元計画が実現する運びとなりました。

約三年にもわたる長い間の折衝の結果、当初計画にもまして昔ながらの完全な復元ができるようになりました。このことは、ひとえに大洲の皆様方の努力と関係各位のご協力の賜と感謝いたします。

これから三年先の完成を目指してみんなでがんばりましょう。

(前川康記)

前川 康氏のプロフィール

昭和十七年、静岡県生まれ。東京工業大学建築学科卒業。現在、株式会社前川康建築研究所代表。石川県金沢市(金沢市、平成十三年)、宮城県白石市(白石市、平成七年)の設計協力、東光寺本堂(目黒区、平成七年)、藤原の郷(加藤町、江刺市、平成五年)の設計などに携わる。

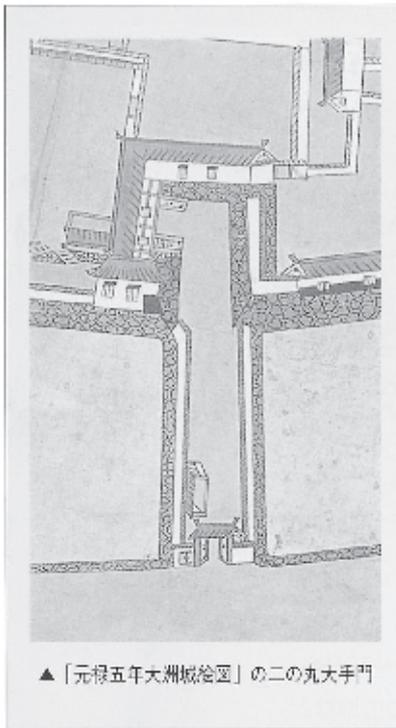
かわら版 復元大洲城

平成13年10月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、199,346,466円です。

第63号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

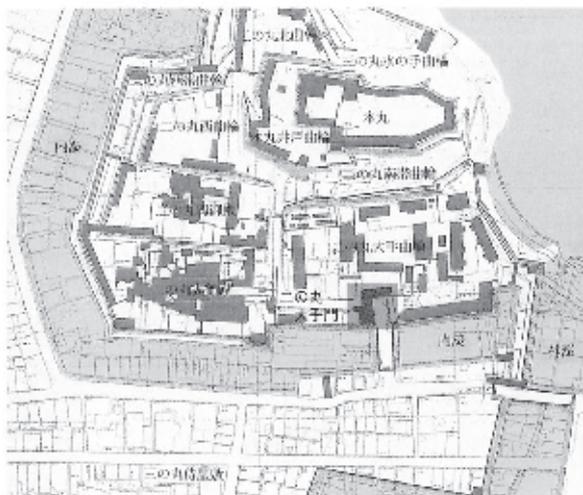
南工務光謙まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲「元禄五年大洲城絵図」の二の丸大手門



▲二の丸大手門の石垣



▲現在の市街地に元禄絵図を重ねた図



▲内堀の推定位置

二の丸大手門は、三の丸大手門と同様に堀を利用して造られた櫓形の先に配置されていました。この位置が、現在の市民会館の事務所付近で、今でも門を支えていた大きな石垣が残っています。

この門は、敵を迎え撃つことを想定してし字型に造られた大きな櫓門で、敵に矢を放つための四つの格子窓がありました。櫓門の南側には、一重の櫓が付属しており、この櫓には石落しが備えてありました。

また、この門は大洲城の他の建物と異なり、下見板を配していません。これは、城郭の玄関を飾る意味で重要な建物であったことから、櫓の部分の柱などを白木の状態で見せ、他の建物よりも高級感を出したものと考えられています。

二の丸大手門

内堀

二の丸大手門へ渡るための土橋がかけられていた堀が大洲城の内堀でした。内堀は、現在の市民会館駐車場を東西に、そして現在の内堀宮油園を北端に南北にめぐらしてありました。

寛永四年(一六二七)、幕府の隠密が四国の城を偵察した記録の「讃岐伊予十佐阿波探案書」によれば「石垣の幅十間(約十八間)ばかり。」「石垣の高き水より上三間(五・四間)ばかり。」と記してあり、その規模が分かります。

また、内堀沿いには、堀からの侵入を防ぐため大小七つの櫓と二つの長屋が配備されており、たいへん堅固な城郭であったことを窺い知ることができます。

大洲城あれこれ！ 3 二の丸大手門と内堀



▲お披露目された木材 マツ(左)とクリ(右)

かわら版 復元大洲城

平成13年11月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、206,329,466円です。

第64号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

御用木お披露目式

九月二十日(日)、北只にある木材保管倉庫で大洲城天守閣に使用する木材のお披露目式を開催しました。式典には、木材提供者を始め、関係者ら約二百人が参加し、地元で調達した木材や樹齢三百年を超える木曾松を見学しました。

お披露目式

式典では、梶田市長が「これまでの材を揃えることができたのは、市民の皆さんのお陰です。建物は、使用する木材の樹齢に比例して長持ちすると言われています。大洲城天守閣も樹齢三百年の松に負けないくらい長持ちさせたいと考えます。」とあいさつ。木材提供者の紹介の後、倉庫内では、木材の切り出しや製材など約二年間の調達の様子をまとめたビデオ「御用木調達物語」が上映されました。

続いて、市の担当職員から通し柱に使用する如法寺のヒノキや基抜き加工を終えた地元産の柱材の特徴や使用箇所などが説明されました。さらに、会場内の特設テントに並べられた秋田産のクリ材、岩手産のマツ材、木曾産のヒノキ材など天守閣に使用する木材の中でもひととき大きく立派な木材が紹介されました。

手斧始めの儀

お披露目式に引き続き、施工業者の労働組により「手斧始め

の儀」がおおそかに執り行われました。「手斧(新)始めの儀」は、木工事を始める前に行う建築儀式の一つで、平安時代に始まったと言われていまう。「墨打ち」と「手斧打ち」の二種類の儀式が古装束を身にまとった棟梁の手により古式にのっとり行われました。



▲「(杵)はつり」の様子



▲「新(ちょうな)がけ」の様子



▲「手斧(ちょうな)始めの儀」での「墨打ち」の様子

大洲城天守閣復元工事は年内に石垣調査・修復工事を終了し、年明けにはいよいよ基礎工事に入ります。



▲現在の二の丸御殿付込（この先に御殿があった）

かわら版 復元大洲城

平成13年11月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、217,896,488円です。

第65号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年（2004）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

高工朝光譯まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城あれこれ！ 4 二の丸御殿

藩主の住居だった御殿

天守や櫓は、平常時には鍵がかけられおり、ほとんど使用されることなく、藩主の権力を象徴する建物でした。そして、藩主は城内に造った殿舎に住居を構えていたのです。

殿舎は、藩主の住居として使用されるだけでなく、善政を行うためにも使用されていたので、役割に応じて数多くの殿舎や付属屋が建ち並んでいました。一般に、これらの建物群を総称して「御殿」と呼びます。本号では、大洲城の御殿である「二の丸御殿」について紹介します。

御殿の役割

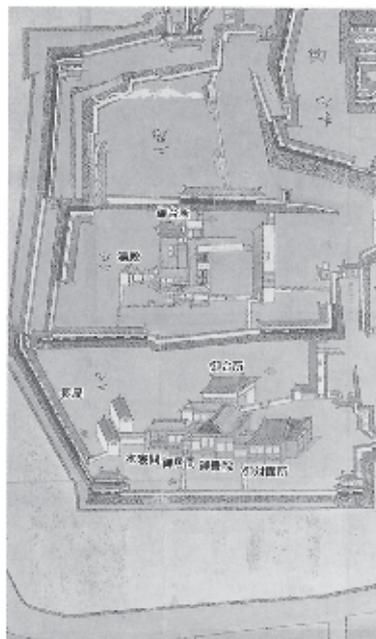
御殿は、普通、表御殿・中奥・奥へと役割別に続きます。表御殿は、謁見のための殿舎群であったので、一般に書院造りで、格調高く豪華な建物でした。建物の配列は、入り口の門を過ぎると最初に玄関があり、その奥に広間、そしてその奥に書院と続きます。藩主は、面会する相手の身分に応じて部屋を変えていたと言われています。中奥は、藩主の生活用の御殿で、書院の奥に続き、居間や寢間、湯殿（風呂場）などがありました。その後方には、奥や長

局と呼ばれる殿舎群が続き、御殿女中が住んでいました。御殿は、藩の大小に応じて規模も異なり、二条城（京都）の御殿のように広大で贅沢な造りのものもあれば、広間や書院が二〜三棟の御殿も少なくありませんでした。

二の丸御殿

元禄五年の絵図に見る大洲城の二の丸御殿は、二の丸大手門のあった現在の市民会館事務所を通り、西に進んだ突き当たりでありました。これを、「二の丸表御殿」と呼んでいます。さらに、突き当たりを北（右）に進むともう一つの御殿「二の丸裏御殿」がありました。

「二の丸表御殿」は、門を過ぎ、玄関に入ると、「御対面所」と呼ばれる広間があり、続いて西側に「御書院」があります。その奥には、「御居間」「御寢間」が続き、二つの土蔵があり、さらに奥には腰板を配した長屋「長局」がありました。また、「御書院」の北には「御台所」がありました。そのほか、元禄絵図では省略されていますが、他の絵図などから、敷地内には「湯殿」など多くの殿舎群が立ち並んでいたことが分かっています。



▲「元禄五年大洲城絵図」の二の丸御殿



▲現在の市街地に元禄絵図を重ねた図

一方、「二の丸裏御殿」の詳細な役割は不明ですが、台所や小広間、湯殿などがあることから表御殿の補助的な建物（別邸）ではなかったかと考えられています。また、元禄絵図において、天守へとつながる本丸入り口の門と同様、御殿入り口の門が閉じられていることから、平常は人の出入りがない建物であったとも考えられます。

明治以降の御殿

明治二年の版籍奉還後、内堀内の城郭は国の所有となり、藩

主の住居は家老であった加藤玄蕃の屋敷跡（現大洲高校敷地内）へと移り、明治四年の廃藩置県後は、さらに江戸（東京）へと移るようになりました。その後、内堀内は国の払い下げにより個人の所有へと変わり、以降次々と城郭は取り除かれていきます。

現在、御殿の遺構は、御殿周辺の石垣と井戸が部分的に残っており、往時の面影を今に伝えています。

かわら版 復元大洲城

平成14年1月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、231,866,488円です。

第66号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲石垣解体の様子。石の搬去はクレーンを用いて行った



▲大きく割れた石
写真中央やや上に直径約15cmの木根が入り込んでいた

五個ほどあり、その中には重量が約七百kgのものもありました。解体した石は大きな石が



▲補修用の錠(かすがい)
錠はステンレス製で10・18cmの2種類のものを5か所に使用

調査は、まず解体前に既面・写真により詳細な記録を取り、一石一石に番号を付けて取り外しました。そして、裏側の栗石部分を調査した後に、解体前の記録を基に元通りに積み直しました。解体した石は大きな石が

この石については、新しい石に取り替えるなどの案もありましたが、大洲城は史実に忠実な復元を目指しているということと、また貴重な文化財を保護したいという考えから、できるだけ

石垣を取り外し、石垣裏側の栗石も取り除いていくと、内側約一・三mの位置に現石垣と並行して延びる別の石垣(内石垣と呼ぶ)が現れました。最大で約一・七mの深さまで掘り下げましたが、内石垣はさらに下へ続いています。

今回の調査においては、栗石部分から瓦の破片などが約百点出土しており、これらについて今後整理を進めていく予定です。平成十一年度の実施した天守部分の発掘調査の成果と併せ、新たな事実が判明するのではないかと期待されます。

石垣のなかに石垣!

今あるものを再利用するという方針が決まりました。補修は、特殊なセメントで接合し、その後さらに補強するために錠で固定しました。錠は鉄製のもので錆びて膨張する恐れがあるため、ステンレス製のものを使用しました。

この内石垣の性格については、現段階では次のようなものが考えられますが、今回の調査では内石垣のごく一部を調査したに過ぎず、はっきりとした答えは出ませんでした。

- 外石垣を築く際に作られた土留めとしての石垣。
- 外石垣が築かれる以前に作られた古い石垣。

天守台石垣の発掘調査を実施

大洲市教育委員会では、平成十三年十月から十一月の約一か月間にわたって、天守台石垣の発掘調査を行いました。これは、石が割れて石垣が崩落する危険性のある箇所についての改修工事に伴う調査です。

大きく割れた石

調査前、割れて外側に大きく飛び出した石が一石あり、これが崩落の危険性があると判断され、今回の改修工事となりました。



▲姿を現した内石垣①(西より)
写真手前が外側の石垣。その奥が今回姿を現した内石垣



▲姿を現した内石垣②(南より)
内石垣が外石垣と並行して伸びている様子

この石の上側の石をクレーンでつり上げて順に取り除いていくと、割れた石が姿を現してきました。よく見ると直径十五cmほどの木の根が石の割れ目に入り込んでおり、この根が石を完全に二つに割って、外側に大きく押し出していました。

今あるものを再利用するという方針が決まりました。補修は、特殊なセメントで接合し、その後さらに補強するために錠で固定しました。錠は鉄製のもので錆びて膨張する恐れがあるため、ステンレス製のものを使用しました。

この内石垣の性格については、現段階では次のようなものが考えられますが、今回の調査では内石垣のごく一部を調査したに過ぎず、はっきりとした答えは出ませんでした。



▲大洲城作業所 外館 寛 所長

かわら版 復元大洲城

平成14年2月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、237,337,488円です。

第67号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

将来の重要文化財をめざして

大洲城天守閣復元事業は、平成十四年二月から、ついに基礎工事に入りました。そこで、今回は、備前組四国支店大洲城作業所の外館寛所長に今後本格的に始まる本工事に向けた抱負と意気込みを語ってもらいました。

▼外館所長のこれまでの城郭建築経験を教えてください。

子供のころは、大工になりました。父の薦めもあり、普通高校の建築学科に入りました。入社してからは、ずっと木造建築には縁がなかったのですが、子供のころから興味のあった古建築に希望を出したところ、平成元年から宮城県の大石市で前舞台建築工事を任せられました。

最初は、何がなんだか分からないので、たくさんの人にいろいろなことを教えていただきました。なかでも、大洲城天守閣の復元にも携わられている八木先生、前川先生にはたいへんお世話になり感謝しています。

その後は、平成四年から同じく白石市で白石城復元工事、平成八年から山形県山形市で国指定重要文化財の旧松徳寺観音堂の解体修理工事、平成十二年から熊本城未申櫓復元工事、平成十三年から、ここ大洲で大洲城天守閣復元工事を任されています。

▼これまで白石城・熊本城の復元を経験されてきて、城郭建築特有の工事の難しさがあれば教えてください。

城郭というものは、土形的に敵



▲宮城県白石市 白石城

の攻撃を受けにくい場所に造られています。また、敵が侵入できないように高い石垣や塹形などを造り、様々な仕掛けがしてあります。このような場所では、人ばかりもろん、工事車両とかなかなか立ち入ることができません。大洲城の場合も、工事車両用の仮設道路を部分的に設置しましたが、本工事の前の準備工事には毎回苦労をします。

次に、風雨を避けるため素屋根が必要だということです。大洲城の素屋根の場合、石垣の下からだと三十メートル位の高さとなり、十一階建ての建物の高さに匹敵します。川風の吹き上げも心配ですが、これに合風が重なったときがとてもし心配です。

三番目に、使用する部材がたいへん大きいということです。城郭に使用する部材は社寺より

もずっと大きいので、取り扱いに神経を使います。

最後に、漆喰塗りなど左官工事が難しいということ。土は奥が深く、技術も問われます。幸いなことに、大洲地方の左官は全国的にも高い評価を受けていますし、実際にそのとおりだと感じています。大洲の場合はこの点では安心していきます。

▼他の城と比較して大洲城特有の難しさがあれば教えてください。

ただでさえ木材には気を使うのですが、大洲城の場合、寄付木材を多用するので、これまでに以上に慎重に取り扱わなければなりません。

また、すぐ隣には重要文化財の櫓があります。お手本がすぐ傍にあるのでプレッシャーです。しかも、今回は、重要文化財と連続しなければなりません。山形で経験した重要文化財の修理工事が役に立てばと思います。

そして、最も大変なのが日本です。初めて四層四階天守閣を復元するということです。これまでの経験だけでは解決しない未知の部分は今後も多々出てくると思います。

▼それでは、大洲城天守閣復元への抱負と意気込みをお聞かせください。

大洲城天守閣は、戦後復元されてきた城郭のなかで初めての四層四階天守閣であり、そのなかでも最高の高さを誇るということです。ですが、最も自慢できるのは、「史実に忠実である」とい

うことだと思っています。これまで入念な資料分析して準備されてきた市民の皆様や設計者の努力に報いることができるよう、さらには、将来、今ある櫓と同じに重要文化財に指定され、大洲の皆さんに誇りに思ってもらえるような工事面でも可能な限り伝統工法を目指したいと考えています。

▼最後に市民のみなさんに一言お願いします。

工事中しばらくの間、お城山への立ち入りをお断りすることになります。見学会を設けるなど、できるだけ復元工事の様子を皆さんにご覧いただきたいと考えています。特に、期途中数回は素屋根のシートを取り払い、高い足場から天守閣を見ていただく機会を設ける予定です。このような角度から天守閣をご覧いただくことは、完成すると二度とないと思います。ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。



▲熊本城 未申櫓の素屋根

最後に、市民の皆さんの期待に応え、全国に誇れる大洲城天守閣が平成十六年に無事完成できるように会社を挙げて頑張ってください。今後ともよろしくお願いたします。



▲城跡で飾られた大洲城

かわら版 復元大洲城

平成14年3月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、244,868,488円です。

第68号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成14年(2002)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に因る写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工課(6課)まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線367

大洲城天守閣復元工事 起工式を迎えました!

平成十四年二月五日、大洲城本丸(天守閣跡地)で地
工業者の主催により大洲城天守閣復元工事の起工式(安
全祈願祭)が行われました。

起工式当日は、天候も穏やか
で、いささか早い春の陽気に包
まれた大洲城では、古い資料を
もとに作られた幟旗が会場を彩
りました。

式には、榊田市長をはじめ市
議会議員、復元委員など約百五
十人が参加しました。

まず、榊田市長がこれまでの
事業の経緯を振り返り、「市民
の皆さんのご協力により、やっ
とここまでたどり着くことがで
きました」とあいさつ。参加し
た市議会議員、復元委員など約
百五十人が、工事の安全を祈願
しました。

地掘き音頭を披露

式の後、蔵川地区の蔵川芸能
保存会の会員による「地掘き音
頭」が披露されました。この音
頭は、蔵川地区に古くから伝わ
るもので、建物の建設をする際
の地固めに唄われていました。
昭和三十八年からは、「蔵川芸
能保存会(餘家道子会長)を組
織し、伝統芸能の保存伝承に努
めています」

この日は、会員約二十人に加
え、榊田市長、清水市議会議員、
井岡復元委員長もこの音頭に参
加しました。高さ約5mのやぐ
らに取り付けられた中央の長柱
を皆で引っ張っては地面に打ち
つけ、地固めを行います。餘家
会長自らが起工式に寄せて作詞
した地掘き唄に合わせ、ドス
ン、ドスンと柱を地面に打ちつ
ける音が城山に響きわたり、式
を一層盛り上げました。

城山への立ち入りを制限します
大洲城天守閣復元工事は、二
月から基礎工事に入るなど本格
的な工事に入っています。平成
十六年までの工事期間中は、安
全確保のため城山への立ち入り
を制限しています。

市民の皆様にはご迷惑をおか
けしますが、ご協力をよろしく
お願いします。

なお、工事期間中、数回の見
学会を予定しています。その際
は、かわら版や市公式ホームペ
ージなどでお知らせしますの
で、ぜひ参加してください。



▲榊田市長による「くわ入れ」



▲蔵川芸能保存会による「地掘き音頭」



▲木曾檜の白太落としの様子

かわら版 復元大洲城

平成14年4月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、275,253,462円です。

第69号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行40周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係

☎24-2111 内線352

松山城の様子



▲松山城太鼓門の柱
新の刀跡が残る。



▲松山城天守最上階(3階)の柱
鼠で美しく仕上げられている。

残念ながら創建当時の大洲城天守閣の材の仕上げについて分かる資料は現在のところ見つかりません。

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

材の加工が始まりました!

材の仕上げを徹底調査

史実に近づけるため

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

松本城の様子



▲松本城天守(1階)の柱
新の刀跡が美しく残る。



▲松本城天守(5階)の柱
柱は全て創建当時のもの。松本城の場合、4階より上階は室内の様子ががらりと変わり、仕上げが見られる。

この調査結果をふまえて、大洲城天守閣は次のような仕上げで検討中です。

大洲城天守閣の仕上げ

この調査結果をふまえて、大洲城天守閣は次のような仕上げで検討中です。

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

このように、大洲城天守閣の復元は、設計面だけでなく工事面においても昔ながらの手法に近づけてようと考えています。

大洲城天守閣の仕上げ

この調査結果をふまえて、大洲城天守閣は次のような仕上げで検討中です。

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

そのため、材の仕上げについても、できるだけ史実に近づけるようと考えています。しかし、

大洲城天守閣は、できるだけ史実に近づけるため、明治時代に撮影された写真や天守雛形、発掘調査結果などすべての資料を設計に反映しています。

木曳き式

うかい開きと同日の6月1日に、大洲城天守閣に使用する木材(木曾檜の丸太など)を台車に載せ市内を引き抜く「木曳き式」を開催します。

平成14年6月1日(日) 午後1時から

【道順】(予定) 大洲まちの駅「あさちや」

→肥前橋→伊予大洲駅→緑地公園

【イベント】午後3時30分頃、ゴール地点の緑地公園で、餅まきや太鼓演奏、打ち上げ花火などイベントを行います。

木曳き式への参加者を募集!

【曳き役】募集人員:20人程度

台車に載せた御用木を直接支える引き役です。力自慢の方々の参加を募集します。

【行列】募集人員:50人程度

台車に取り付けた長い綱を引きます。一般の方々(親子三代など)の参加を募集します。

【申し込み先】大洲城天守閣復元イベント実行委員会事務局(商工観光課内)

☎24-2111(内線352)

【締め切り】平成14年5月15日(水)

めったにない貴重な機会です。皆さんの参加をお待ちしています。

かわら版 復元大洲城

平成14年6月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、290,066,662円です。

第71号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線352



▲台所櫓
一層目に入母屋破風。その下に火灯笼が付けられている。下見板には四角形の鉄砲狭間が備えられている。

大洲城あれこれ！7 「台所櫓」

大洲城本丸には国指定重要文化財の二つの櫓(台所櫓・高櫓)が現存しています。この二つの櫓は、天守とともにL字に建ち並ぶことで複連結式と呼ばれる天守群を構成していました。これは、中央に天守、左右に両櫓を構えることで、脈川を上つてくる敵軍に対し、威圧を与え

るための配置だと考えられています。

台所櫓の歴史

台所櫓は、元禄五年(一六九二)の絵図に描かれており、江戸初期から存在していたことが分かっています。しかし、安政四年(一八五七)の大地震で破

害を受け、現存する台所櫓は、安政六年(一八五九)に再建されたものです。その後は、昭和三十二年六月十八日に重要文化財の指定を受けると、昭和四十四・五五年に文化庁の指導のもと大規模な解体修理が行われました。(詳しくは、かわら版第五十九号に掲載)

台所櫓の構造・規模

台所櫓は、天守閣と多聞櫓で連結しており、木造二層二階建てです。一階は、南北六間×東西四間で、床面積が九十三・五坪。二階は、南北五間×東西三間で、床面積が五十八・四坪で、大洲城の櫓のなかでは最大のものとなります。

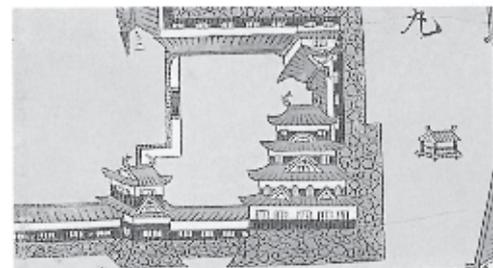
台所櫓の特徴

内部には、その名のとおり台所を思わせる土間があり、東・南・西には煙出し用の格子窓が取り付けられています。また、一階の北側には、崖を登る敵を迎え撃つための鉄砲狭間が備えられています。

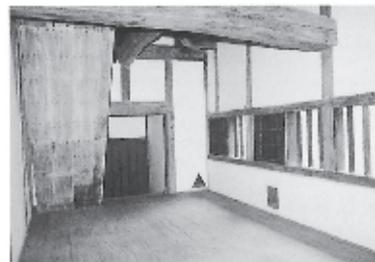
外観は、天守などと同じく下見板張りで、二層(階)の北面には、入母屋破風が取り付けられています。入母屋破風とは、千鳥破風と同じく建物の装飾として取り付けられ、両者とも三



▲台所櫓(左)と天守閣(右)
天守三層目にあるのが唐破風。一層目にあるのが千鳥板風。



▲元禄五年大洲城絵図(市立博物館蔵)
台所櫓、天守、高櫓櫓がL字に建ち、多聞櫓で連結している。(複連結式天守群)



▲台所櫓内部
四角形と三角形の鉄砲狭間が備えられている。



▲台所櫓内部
土間と煙出し用の格子窓がある。

角形の破風ですが、入母屋破風は、屋根の隅にまで三角形の底辺端が到達し、屋根の端の部分で構成しているのが特徴です。大洲城の台所櫓の場合、二層(階)屋根の入母屋破風と入母屋破風が上下に並んでおり、その様子は重層で壮観です。

さらに、入母屋破風の下には火灯笼が配してあります。この火灯笼は、入母屋破風の広がりや考慮したのか天守のものと同じ横長の造りとなっており、櫓に絶妙な美しさを付与しています。

現存する台所櫓からは、江戸時代からの旧材や瓦も再利用されており、その歴史や名残りを十分に感じ取ることが出来ます。しかし、台所櫓の装飾と唐破風や千鳥破風などを付した天守の装飾とが巧みに相まわったとき、その真の雄姿を味わうことができるのかも知れません。



▲樹齢約100年の地元産ヒノキ柱3本を引く児童

かわら版 復元大洲城

第72号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対しての意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線352

平成14年7月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、303,419,662円です。

木曳き式を開催しました!

平成十四年六月一日(土)大洲城天守閣に使用する木材を披露し、木材の加工作業の開始を祝う「木曳き式」を開催しました。



▲木曳き式を披露する木遣りの木遣りたち

式とは、元来伊勢神宮に伝わる儀式で、次第に一般の社寺などでも行われるようになり、近年では静岡県の大洲城や宮城県の白石城などで、同様の式典が行われています。

当日は、辨田市長をはじめ、市議、ミス大洲、地元小学生ら約二五〇人が木曳き式に参加。午後一時半、号砲の合図とともに大洲まちの駅「あさもや」を出発しました。曳いた御用材は、樹齢約三五〇年の木曾松(長さ七メートル、直径七十センチ、重さ二・三トン)と樹齢約百年の地元産三本(長さ六メートル、直径二十七センチ角、重さ一本三五〇キロ)で、いずれも天守閣の一階に使用するものです。行列には木曾松の産地である長野県木曾地方から五人の木遣り(きやり)が参加し、木曾地方に伝わる木曳き唄を披露。参加者はこの唄に合わせて「よいしょ!よいしょ!」と威勢よく掛け声をかけながら、商店街約三・五キロを練り歩きました。ゴール地点の緑地公園では城山と飯川、そして御用材を背景に、和太鼓(弘龍太鼓、栗津祇園太鼓、龍心太鼓)やモダンダンス(モガ・ジャパン)などが行われ、イベントを一段盛り上げました。



▲樹齢約350年の木曾ヒノキを引く参加者

ビッグイベントに感謝 大洲小学校 六年 形山琢磨



木曳き式、それは、僕にとって知らない言葉でした。最初は「木を引くだけ」と思っていたけれど、参加してみてもその意味は、まったく違うことが分かりました。木曳き式の役目とは、木を引くことにより、みんなにおひろめし、大洲の人にもっともつと文化というものが残っていくという大切なことだそうなんです。そして当日、僕は引く木を見てびっくりました。僕の何倍もある木に対して

城づくりの仲間になった気分 喜多小学校 六年 吉田壮士



六月一日、僕は木曳き式に参加しました。この木曳き式とは、大洲まちの駅から、緑地公園までを前面のとおりに木を引いていきます。その目的は大洲城再建を祝うためです。引いた木曾ヒノキは天守閣に使われるそうです。僕たちのふるさと大洲に新しいお城ができるのです。「よし、がんばるぞ」という意気込みで式に臨みました。いせいのよいかけ声が町中にひびきわたります。初めはやる気いっぱいだった僕も、さすが

て不安とやる気が白くなりました。引くとき、つな引きのようにつなを思いっきり引きました。歌に合わせて「ヨイヨイ」とかけ声をかけました。こうやって木を引くことによって、昔にタイムスリップした気がしました。半日歩いて、目的地に着き、じつと運んだ木を見ていると「この木はここに使われるのだから」と思っていました。この木もしっかりと大洲城を支えてくれるのだらうな。もうこのようにビッグイベントの「木曳き式」はないけれど、僕の心の大きな思い出の一つとなりました。ありがとうございました。木曳き式。そして、かがやけ大洲城。

につかれました。周りを見渡すと誰かがしんどそうなんです。僕は最後まであきらめずがんばりました。途中で、両膝が痛くなっていました。僕は木を引いている間、ずつとかけ声を忘れないようにしました。引いているだけで自分が大洲城を造る人の仲間になった気分がしました。いつの日か、この木を使って立派な大洲城が建てるのでしよう。その大洲城は、これから何百年の間、大洲を見守っていていくのだと思います。僕の孫やひ孫がこの大洲城を見上げて「天守閣に使われているヒノキはおじいさんが引いたそうだよ」と話す日が来ることを楽しみにしています。

かわら版 復元大洲城

平成14年8月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、308,431,662円です。

第73号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線352



◆高欄櫓

2階に窓欄、屋根に唐破風を配し、1階には石落としを備えているのが特徴。



勇壮な天守閣、台所櫓とは対照的に、装飾意匠が優美な造りの高欄櫓は、複連結式天守群(天守と台所・玄關櫓)に均整のとれた華やかさを演出しています。

また、南西隅には石落としが備えられています。石落としとは、外壁を部分的に石垣から張り出し、床に穴を開けて石垣をよじ登る敵兵に対し、石を浴びせる仕掛けです。しかし、高欄櫓の石落としの場合、石を落とす幅は狭く実用的でないため、高欄や唐破風と同じように建物の装飾として取り付けられていたと考えられています。このように、高欄櫓は南西からの見栄えを意識した造りになっています。

高欄櫓の構造・規模
高欄櫓は、木造二層二階建、高さは九・一六m(台所櫓は十一・〇六m)です。一階は、南北三間×東西三間で、床面積は三二・五・二五㎡。二階は、南北

二・二間×東西二・二間で、床面積は十九・四㎡です。高欄櫓は台所櫓よりも少し規模の小さい櫓です。
高欄櫓の歴史
高欄櫓は、台所櫓同様、元禄五年(一六九二)の絵図に描かれており、江戸初期から存在していたことが分かっています。しかし、安政四年(一八五七)の大地震で被害を受け、現存する高欄櫓は、万延元年(一八六〇)に再建されたものです。

同様なことは、櫓の二層(二階)部分の屋根に付けられている唐破風(軒唐破風)にも言えます。唐破風は、社寺建築に起源を発する装飾と言われ、軒先の一部を丸く押し上げることで

高欄櫓の特徴は、その名の通り二階に高欄を配しているところにあります。櫓からは城下を一望することができます。眺望を楽しむこともできますが、高欄は普通、豪華で華やかな装飾として建物に取り付けられていたようです。そのためか高欄は外観に配感して主に南面、西面に

取り付けられています。建物は美しさを与えています。また、南西隅には石落としが備えられています。石落としとは、外壁を部分的に石垣から張り出し、床に穴を開けて石垣をよじ登る敵兵に対し、石を浴びせる仕掛けです。しかし、高欄櫓の石落としの場合、石を落とす幅は狭く実用的でないため、高欄や唐破風と同じように建物の装飾として取り付けられていたと考えられています。このように、高欄櫓は南西からの見栄えを意識した造りになっています。

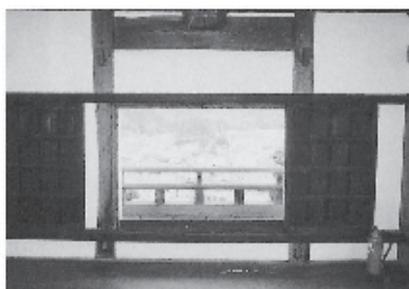
大洲城あれこれ! 8 「高欄櫓」



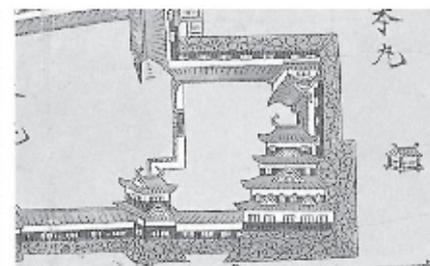
▲明治時代の写真に写る高欄櫓
元禄絵図に描かれている下見板は取りのけられている。



▲松本城月見櫓(左)
建物に高欄を付した現存する櫓の1つ



▲高欄櫓内部
櫓からは城下を一望することができる。



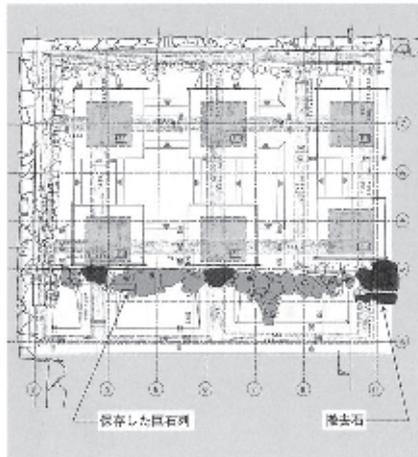
▲元禄五年大洲城絵図(市立博物館蔵)
台所櫓、天守、高欄櫓がL字に建ち、多聞櫓で連結している。(複連結式天守群)



▲手掘りの様子



▲保存した巨石列



▲基礎工事の施工図

大洲城天守閣は、大造四階建てで、高さ十九・一五メートル、重さ四四〇トンもある大規模木造建築物であることから構造上の安全を確保するため、建物を鉄筋コンクリートの基礎で支えます。

基礎には、建物下に直径一・五メートルの基礎杭六本を打ち込みました。打設の際には、機械

大洲城天守閣は、今年五月に完了しましたが、同時に基礎周囲の石積み工事や木工事、素戻根上事を行っています。これらの工事の様子を次号以降で皆さんに報告します。

かわら版 復元大洲城

第74号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策係 ☎24-2111 内線352

平成14年9月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、308,961,462円です。

徹底解剖！ 大洲城天守閣復元工事

基礎工事編

大洲城天守閣復元工事は、平成十三年十月から天守閣下の既存石垣二・六mの部分改修(詳しくはかわら版第六十六号)に入り、平成十四年二月から五月までの四カ月間にわたり基礎工事を行いました。今号では、この基礎工事について詳しく紹介します。

大洲城天守閣は、大造四階建てで、高さ十九・一五メートル、重さ四四〇トンもある大規模木造建築物であることから構造上の安全を確保するため、建物を鉄筋コンクリートの基礎で支えます。

基礎杭の工事

基礎には、建物下に直径一・五メートルの基礎杭六本を打ち込みました。打設の際には、機械

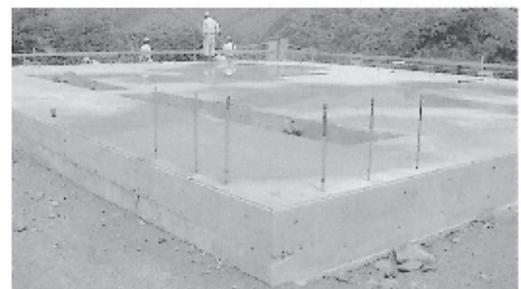
の震動による既存石垣への影響を懸念するため、また遺物が出土する可能性があるため地下六メートルまで手掘りを行いました。この作業は、大洲市教育委員会の立会のもと実施し、その結果、瓦や土器の破片など数十点の遺物が出土しました。六メートル下まで手掘りした後は、一度掘った穴を埋め戻し、アースドリルと呼ばれる機械で一気に若盤まで掘り進めました。六本の杭のうち最も深いところで二十三メートル、浅いところで十七メートルになります。掘った穴を型枠で固定すると、今度は鉄筋を入れて、コンクリートを流し込みました。コンクリートが固まったところで型枠を外し、基礎杭を完成させました。この工

法を現場築造杭と呼びます。

基礎杭の打設が完了すると、今度は基礎杭の上に建物を受けるための基礎梁を築いていきました。基礎梁は、先の発掘調査で出土した遺構を保護するため、これらを利用して配置しました。特に、今回復元する天守閣よりも前の時代に建っていたと思われる建物の基礎石(東西に延びる巨石列)は、後世にその存在が分かるよう基礎梁から露出させて保存しています。



▲基礎杭の打設



▲基礎工事完成

耐用年数に負けないような工夫をしています。

コンクリートに使用する砂は、鉄筋の腐食防止のため、海砂ではなく川砂を使用しています。国内産の川砂は海砂に比べ、採取量が極端に少ないのが特徴です。さらに、コンクリートに使用する水分は四十六・五%で通常の六十%に比べ、非常に少なく、一般のコンクリートの耐用年数が六十年であるのに対し、今回使用するコンクリートはその十倍の六百年の耐用年数となっています。

大洲城天守閣は、創建から二百五十年以上建っています。今回復元する天守閣もこれ以上建っていてほしいと考え、用材のうち構造材は木材の中心部分の赤身と呼ばれる虫害などに強い部分を使用しています。そのため、基礎に使用するコンクリートも、建物の



▲土間工事の様子

かわら版 復元大洲城

平成14年11月1日まで
に皆様からお寄せいた
だいた復元のための募金額
は、327,028,475円
です。

第76号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲立柱式(柱打の儀)

土間たたきの後、土台すえ付けを行います。土台には、樹齢百年を超える秋田産の栗材を使用しています。栗材は乾燥すると広葉樹特有の大きな狂いや

たき込みました。土間工事には、たたき(三和土)と呼ばれる工法を用います。たたきとは、一般に土、石灰、にがり(主成分：塩化マグネシウム)を混ぜて、たたき固める上間工法で、今回は、土に山土とマサ土を使用しました。これまたたたきを敷き詰め、コテでパタンパタンと均一になるようたたき込みました。

大洲城天守閣復元工事は、天守台の石垣工事の後、九月中旬から天守閣内部の土間工事を行いました。

徹底解剖！ 大洲城天守閣復元工事

〈建て方工事編〉

割れが生じるため、原木の状態でも乾燥(木材の内外から温める石焼イモの原理)を行っています。

立柱式

土台のすえ付けが完了すると、建て方に入ります。十月四日、工事現場では建て方の開始に合わせ、大工らによる立柱式が厳かに執り行われました。

立柱式とは、工事が順調に進むことを願い、柱を立て固める儀式です。当日は、大工や設計者など約四十人が参加し、柱を立ち上げました。

天守閣に願いを込めて

大洲城天守閣には通し柱を用います。通し柱をもつ天守閣は姫路城など少数で、大洲城天守



▲建て方工事の様子

見学会を開催します

天守閣復元工事は年内に一、二階の建て方を終了する予定です。そこで、その様子を皆さんに見ていただくため見学会を開催します。

当日は、担当者による案内、重要文化財櫓の公開、大洲城の成り立ちと復元の歩みを映像化した「平成の城普請大洲城天守閣復元」ビデオを放映します。大きな用材が力強く組まれた天守閣は圧巻です。貴重な機会ですのでぜひご参加ください。

◆期日 十二月二十一日(土) 及び二十一日(日)

◆時間 午前十時～午後四時 (午後三時札止め)

◆場所 大洲城本丸

間の特徴の一つです。一、二階の通し柱には、櫓柱始め式で伐採した如法寺の松を使用しています。そこで、如法寺の藤木住職により天守閣の無事完成などを祈願して、この通し柱に墨書をしていただきました。



▲天守1階が52階の通し柱

建て方工事

建て方工事は、十月中旬から一階部分の工事に入りました。スムーズに建て方が進むよう加

現場の様子をライブ中継!

現在、大洲城跡内は工事車両の通行や工事の妨げとなるため城跡内の立ち入りをお断りしています。また、建物を防風雨シートで覆っているため、外部から工事の様子を見ることができません。そこで、十月からインターネットを利用して、復元工事の様子を生中継で皆さんにお届けしています。



▲市公式ホームページの大洲城ライブカメラ

ライブ中継は、一日中行っており、大洲市公式ホームページから見る事ができます。

ホームページではライブ中継のほか、近況の報告、かわら版復元大洲城など大洲城天守閣の情報を掲載していますのでご覧ください。

工場では、あらかじめ木組みの仮組みを行いました。城郭建築特有の大きな木材が次々と組み立ていき、一階の建て方は約一週間で終了しました。建て方工事、十月中旬から二階部分の工事に入ります。



▲作業に使う大工道具

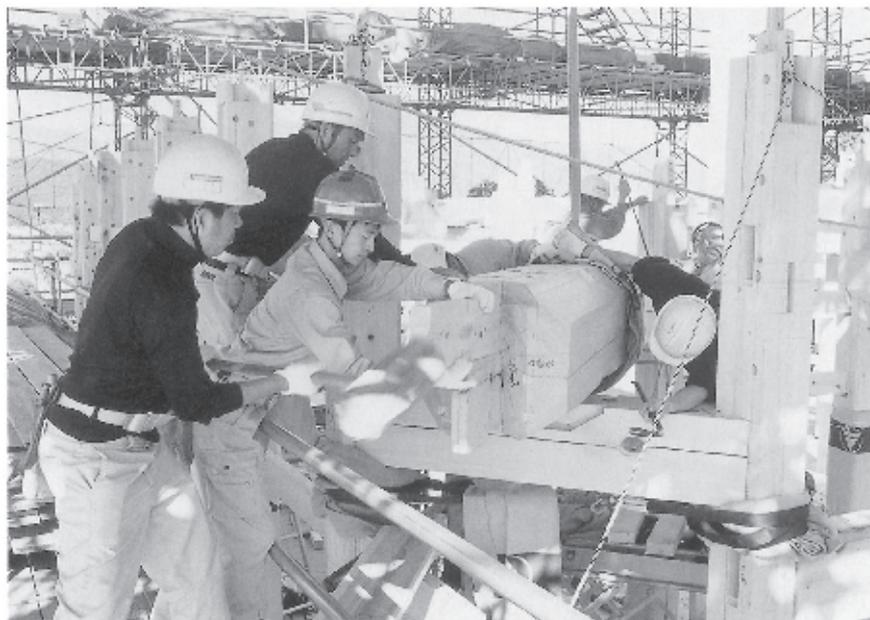
かわら版 復元大洲城

平成14年12月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、328,572,975円です。

第77号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市政施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲富山県井波町の宮大工と地元大洲の技術者たちの見事なチームワーク作業、職人たちが息を合わせ加工した材料を組み立てる

伝統技術を受け継ぐ

その1

大洲城天守閣の復元は、慶長年間(一五九六〜一六一四)に建てられたといわれる建物を現在によりがえらせる事業です。それは、平成の今に当時の技術を再現することにはなりません。木材加工場では、四百年の時空を越え、慶長の技術に現代の技術者が挑んでいます。

宮大工進出の町

富山県井波町

天守閣復元のための大工工事は、「宮大工」と呼ばれる技術者が地元の大工を指導しながら行っています。「宮大工」は、寺社仏閣などの大きな木材を使って建てられる建物を専門に造る技術者で、昔からの伝統技術を身に付けた人々です。

今回の復元事業にあたっては、富山県井波町から五人の大工が大洲に来ています。井波町は、富山県西部福野の南端に位置する人口一万二千の町です。町の中心部には、一三九〇年に本願寺五代門主瑞如上人を本山とする「瑞泉寺」があり、以来、門前町として栄えてきました。この建築に端を発して、大工技術集団や彫刻技術が生まれました。現在でも、確かな伝統技術に裏付けられた技術者は、日本全国の寺社仏閣の建設を手がけています。

宮大工も経験のない

四層四階建

経験豊富な井波の技術者ですが、大洲城天守閣は、彼らも経験したことがない物件です。それは、四層四階という高さ。現代の宮大工が手がける通常の大型木造建物は、おおむね平屋建



▲瑞泉寺本堂



富山県井波町

で、たまに二階建があるくらい。大空間を造り出すことにはなれていますが、縦方向に大きな材料を組み合わせて四階建に造り上げるのは、初めてのことです。それだけに、材料を加工する前の「墨付け」作業には設計者と入念な打合せを行います。もちろん、設計者も四層四階建の木造天守閣は初めてのことで、慶長時代の建物を木造で復元するという日本で初めての仕事に、真剣勝負が続いています。

材料を削り腕を磨く

天守閣で使用する木材のサイズは、約七千点。これらの材料の加工には、昔ながらの道具を用います。サシガネ(指曲)で寸法を測り、墨壺で材料に線を

かわら版 新年特大号

材料を加工して組み立てるまで



▲サンガネで寸法を測る



▲材料に墨付けをする



▲設計者と宮大工が原寸図を製作する



▲台ガンナでの加工



▲ノミでの加工



▲ノコギリでの加工



仕口の仕上がり具合を確認して加工を終了する。各部分の材料がそろうと組み立て作業に移る。

引き、それに合わせてノコギリやノミで加工します。これら全てをいかに正確に加工できるかが腕の良し悪しになるのです。しかも、柱や梁は巨大で、人の力では容易に移動することができません。加工場には、二台のクレーンが天井についていて、材料を移動するたびに行き来しています。

宮大工が材料に墨付けをして加工する部位が決まると、地元の大工が材料の加工に加わりまゝ。基本的には、木造家屋を建てる場合の工程と同じですが、その大きさと量は、尋常ではありません。ひたすら材料を削り正確に仕上げていく、その繰り返しが何カ月にも及びます。同じ屋根の下で、井波と大洲の技術者が材料を削りながら腕を磨いて約半年、次第にチームワークも磨かれてきました。

継手と仕口

大洲城天守閣の正確な復元にあたっては、木組み様型（天守閣雛型）が大きな決め手となりました。この雛型は、柱や梁の位置だけでなく、継手や仕口のことまでも私たちに物語ってくれています。ただ、それらは懇切丁寧に示唆しているのではなく、「かなりの知識をもって推し量るべし」という状態であり、慶長の技術者との知恵比べが必要となってきました。

継手や仕口をつくるには、設計の段階で入念な検討を行って

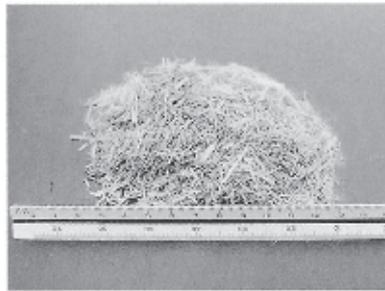
計の段階で入念な検討を行ってありますが、加工においても宮大工の巧みな技を随所に盛り込み、つくり上げていきます。これらの結実した材料を最後に現場で組み立てることにあります。ここでうまくつなげれば、秘められた慶長の匠の技を平成の匠が受け継いだことになるのです。

見事なチームワークで一階の建て方を完了

昨年十月、約半年をかけて加工してきた天守閣一階部分の材料を、いよいよ現場で組み立てることになりました。作業に携わるのは、加工場でノミやノコギリで材料を削ってきた井波と大洲の技術者たち、およそ、二十日間は必要と思われた作業を半分の日数で終了してしまいました。

自分たちが自信を持って送り上げた材料を、万全のチームワークで成し遂げた結果がこれに表れています。

大洲城天守閣の復元事業は、戦後、日本でも初めての四層四階建天守閣を復元する大事業です。この完成のため、色々な人々が色々なところで慶長の技術を復元するため取り組んでいます。過去の技術を追求することにより最先端の技術となって次々とよみがえっています。この技術を後世に受け継いでいくことが私たちに課せられた大切な使命なのです。



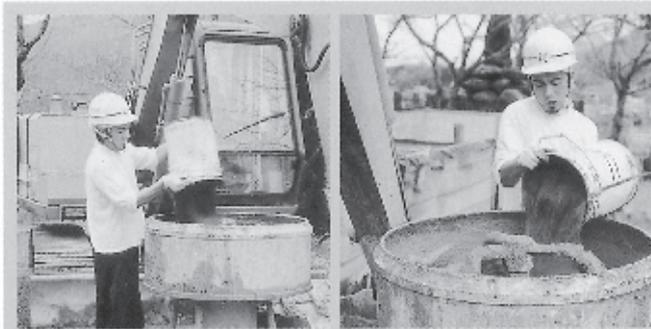
▲中塗り土に入れるモミッサ

かわら版 復元大洲城

平成15年1月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、330,794,277円です。

第78号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▼モミッサ ▲山砂 中塗り土に入れるもの ▲山土 水▼



▲ミキサーでかき混ぜる

伝統技術を受け継ぐ その2

大洲城天守閣の復元は、伝統的建築技術により慶長時代の天守閣を再現するものです。平成十四年十二月、昔ながらの手法で、壁に使う土づくりなどの左官工事が始まりました。

壁土は寝かせることにより固くなる

天守閣の壁工事に使う土は、大洲市、内子町、五十嵐町の境界付近から採取します。この付近の土は実質で、近頃の伝統的建築物を修理する際にも使用されています。

今回準備したのは、荒壁土と

中塗り土の二種類で、使用する半年以上前から土づくりに取り掛かります。

まず、荒壁土は、山土、水、ワラスサを混ぜ、数カ月間水の管理をしながら寝かせます。この間に、ワラスサと土が熟成して土づくりに適した粘りのある土になっていきます。その後さらにワラスサを加え、全体をか

き混ぜて数回繰り返します。半年後にはつなぎの効いた良質の荒壁土が出来上がります。

次に、中塗り土は、荒壁の上の中塗りをする上で、平滑な下地を作りだします。材料は、山土、川砂、水にモミッサを混ぜ、荒壁土と同じように数カ月後にモミッサを入れ、かき混ぜて寝かせます。

このように、大洲城天守閣の現場では、半年以上前から壁に使う土が準備されています。現代の建物造りの現場では、このように昔ながらの土づくりから始める機会が少なくなっています。天守閣復元を契機に、伝統的な土づくりが後世に受け継がれていくのはいいものです。

天守閣の左官工事は、一月から漆喰材料の準備が始まりました。

※ワラスサとモミッサは、稲ワラを材料とし、モミッサは、穂先や節などを除去し、短く加工したもの。

**記念コインを
寄付して
いただきました!**



▲吉田 政吉さん

吉田政吉さん(中村)から、天守閣復元事業にと記念コインが寄付されました。

吉田さんは、「記念コインは、いざれしなくなっていった所を忘れてしまいたい使えなくなるかもしれない。お城への寄付を考えていたところなので、このコインを有効に活用してもらえればと思います」と、天皇陛下在位六十年記念の十万円金貨を大洲城天守閣復元事業のために寄付していただきました。

ありがとうございます!

天守閣復元事業には、皆さんからご寄付を頂いています。目標金額は五億円で、現在約三億三千万円が集まっています。これに寄付の予約を頂いている額を合わせると、三億六千三百万円になり、目標額の約七割が集まったことになりました。これまでの皆さんのお気持ちに感謝申し上げます。引き続きご協力をお願いいたします。

大洲城天守閣復元



▲工事担当者の説明を聞く参加者の皆さん

かわら版 復元大洲城

平成15年2月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、340,570,358円です。

第79号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲見どころには解説パネルを設置

一般見学会を、四月に行う上様式(詳しくは下記をご覧ください)でも実施します。四階まで組み上がった木組みの様子をご覧ください。

一般見学会は、四月に行う上様式(詳しくは下記をご覧ください)でも実施します。四階まで組み上がった木組みの様子をご覧ください。

見学会では、工事担当者から大洲城の特徴や用材へのこだわりを紹介、解説パネルを用いながら天守閣の内部を案内しました。そのほか、台所構内では、大洲城の歴史やこれまでの復元記録を紹介したビデオを上映しました。

見学会では、工事担当者から大洲城の特徴や用材へのこだわりを紹介、解説パネルを用いながら天守閣の内部を案内しました。そのほか、台所構内では、大洲城の歴史やこれまでの復元記録を紹介したビデオを上映しました。

一般見学会を
開催しました!!



▲乾燥したときのねじれや曲がりを防ぐため、くん煙乾燥が施された栗材



▶木更き式で使用した梁を間近で見ることが出来ます。

その二「梁」
梁には樹齢三百年を超える天然の木曾松を使用しています。



▲1~2階の心柱は御仙始め式で伐採した如法寺の松を使用(写真中央が心柱)

見どころ紹介
その一「心柱」
大洲城天守閣の心柱は、一、二階、三、四階をそれぞれ貫通する二本の通し柱です。

見どころ紹介
その二「梁」

大洲城瓦記名会のご案内

大洲城天守閣に使用する瓦に皆さんの氏名や将来の夢などを書き残していただく「大洲城瓦記名会」を開催します。

日時 四月五日(土)・六日(日) 午前10時から午後四時まで

会場 大洲城本丸

対象瓦 平瓦 一万枚

金額 一枚二千円(お一人何枚でもご寄付いただけます。)

顕彰 寄付者名簿に「物品の寄付」として掲載します。十万円以上の瓦寄付者は銅版に刻み顕彰します。

その他 上様式以降は、平成十五年八月末まで市役所内に記名所を設ける予定です。

◆市外、県外などにお住まいの方へ
市外、県外など遠隔地にお住まいの方などで、当日やむを得ず記名会場に参集できない方には、代筆をさせていただきます。

①代筆を希望される場合は、金額記入欄の右横の空白に「代筆」と記入した返信用紙をご利用ください。

②返信用紙一枚につき、「一人(一社)の氏名(社名等)」を記入してください。

③代筆の場合、瓦には、住所(市町村名まで)及び氏名等の記入までとさせていただきます。

④返信用紙等関係書類の送付を希望される場合は、市役所商工観光課(☎2111)までお問い合わせください。

上棟式 四月四日(金)

上様式イベント 四月五日(土) 六日(日)

大洲城天守閣復元工事は、いよいよ上棟を迎えます。四階四階の天守閣にちなんだ四月四日(金)には、施工業者主催の式典が開催されます。また、五日(土)・六日(日)には、大洲市と大洲城天守閣復元イベント実行委員会の主催で上棟式イベントを開催します。日程は次のとおりです。

◆日時 四月四日(金) 10時

◆場所 大洲城本丸

※関係者のみの参加となります。祭雨天の場合、中止となるイベントがありますので、あらかじめご了承ください。

◆日時 四月五日(土) 10時

◆場所 大洲城本丸 市民会館 脇川河原

◆内容 一般見学会(本丸)

瓦記名会(本丸)

野だて茶会(本丸)

忍者ショー(市民会館)

もちまき(市民会館)

屋台村(市民会館)

熱気球体験(脇川河原)

渡し舟(脇川河原)

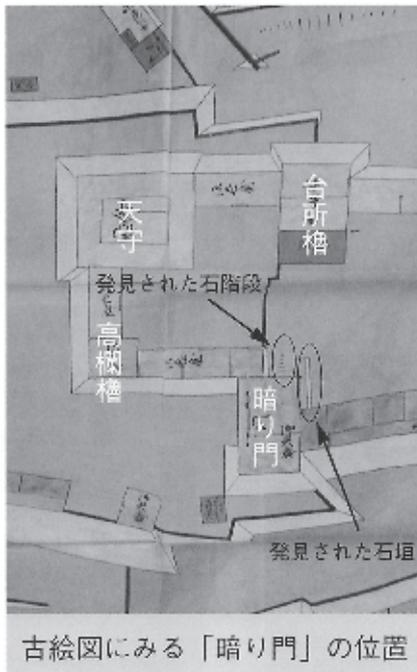
大洲城天守閣復元

かわら版
復元大洲城

平成15年3月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、344,346,582円です。

第80号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



古絵図にみる「暗り門」の位置

「暗り門」の遺構を発見
速報 城山本丸を発掘調査

復元される天守閣に必要な電気や水を送るための配管埋設工事を前に、市教育委員会では、かつて城山頂上の本丸入口にあった「暗り門」を発掘し、調査・記録しています。

姿を現した「暗り門」

暗り門は、本丸に進入する際に最後の関門となる重要な施設で、敵が突入しにくい構造が採られていました。

現在は、門も石垣も取りのけられ、まっすぐ本丸に向かって登る坂道になっていますが、暗り門があった頃は、左方向へL字に折れ曲がり、台所櫓正面に向かって登る構造でした。幸道になったのは昭和三十年代頃と考えられ、それ以前は昔の石階段が残っていたようです。今回の発掘調査によって出現

4つの推測

したのは、正面に立ちほだかる石垣と急な階段です。調査場所は、電気や水道の配管工事が予定されている地中部分で、ごく限られた範囲です。暗り門の全容が明らかになったわけではありませんが、多くの情報を得ることができました。

写真① 石垣下部は残存

現在のような坂状の古道を造る際、石垣の上部のみを壊し、埋め立てたものと考えられます。

写真② 台所櫓正面への階段

ブロック状の石を横一列に並べて、台所櫓正面へと登る石階段にした跡が見つかりました。その形態から当時のままの状態であると考えられます。

写真③ 「雨落ち溝」を確認

石階段と石垣の間に、石が敷き詰められた状態で並んでいます。これは雨落ち溝と考えられます。

写真④ 瓦や陶磁器が出土

石階段や石垣を埋めた土砂の中



【写真①】石垣の上部は破壊されているが下部は残存



【写真②】階段はほぼ当時のまま残存



【写真③】石垣と階段の間にある雨落ち溝とみられる跡



【写真④】埋められた土砂の中に多量の瓦が混入

中には多量の瓦や陶磁器が混ざっていました。この中には、歴代藩主・加藤家の家紋「蛇の目」の模様デザインされ、明らかに大洲城のものと思われるもの、鯉の形をした鬼瓦など、櫓級以上の建物に使用されたと考えられるものや、江戸時代以前の陶磁器も含まれていることから、大洲城内で採取された土砂の可能性が高いと思われます。

昭和三十年代頃、この周辺に残っていた建物は高欄櫓と台所櫓のみです。では一体、この大量の土砂をどこで採取し、また、

瓦ほどの建物に使われていたものなのか？ 謎は深まるばかりです。

私たち市民の貴重な財産

今回確認された石垣や石階段などの遺構は、貴重な埋蔵文化財であり、先人から受け継いだ市民共有の財産です。

調査終了後は、予定どおり配管工事が進められますが、貴重な文化財を破壊することのないよう注意し、遺構の保護に努めます。

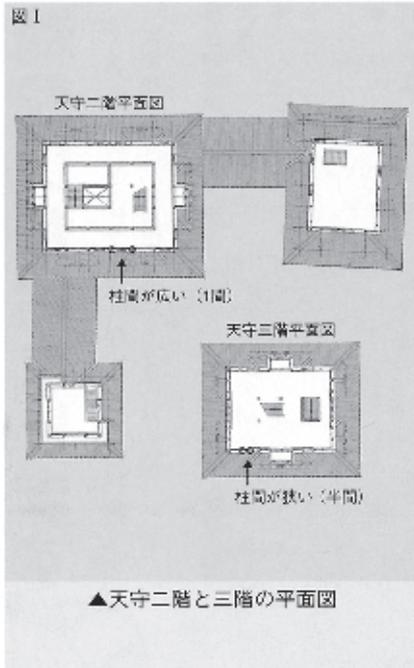
大洲城天守閣復元

かわら版
復元大洲城

平成15年4月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、366,032,617円です。

第81号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲天守二階と三階の平面図

天守内壁の仕上げが決定！
三階は板壁仕上げに

天守の外壁の仕上げは、明治時代に撮影された写真から漆喰塗りと下見板を併用していたことが分かりますが、内部については「天守雛形」と呼ばれる木組み模型しか資料がなく、内壁の仕上げを決定付けるものではありません。普通このような場合、他城の例や現存建物を参考に仕上げを決定します。

大洲城天守の場合も同様、現存する重要文化財の櫓などを参考に内壁の仕上げは三階を除いて漆喰塗り仕上げとします。

構造の異なる天守三階
天守三階は「天守雛形」から他の階とは異なる構造であったことが分かっています。他の階と比べて柱の本数が極端に多いのです。他の階の側柱(外壁の柱)は、柱と柱との間が一間

(約一・〇間)間隔であるのに対し、三階の側柱は半間(一・〇間)間隔で立っています。(図Ⅰ)また、内側の柱は、他の階と異なり、中心柱を含め五本の柱が独立して立っています。

納戸として使われた天守三階
なぜ天守三階がこのような造りになっているのでしょうか？設計者は次のように分析しています。

天守二階の屋根の東面・西面には「千鳥破風」と呼ばれる三角の小さな屋根が二つ載っており(図Ⅱ)、この「千鳥破風」は、詳しくは「比翼千鳥破風」(図ⅢA)と呼ばれ、「入母屋破風」(図ⅢB)から派生したものとされている。「入母屋破風」は外壁を覆うように大きく葺かれるのが一般的であり、「入母屋破風」で隔れる階は屋根裏のような部屋となる。大洲城天守の場合も三階部分は屋根裏相当の部屋であったと考えられる。

また、天守の中心柱をわざわざ二階部分で上下二本に分けているのも、天守一・二階と三・四階を別物として考えた結果であると指摘しています。

天守三階は、他の階のように座敷として使用されず、屋根裏相当の部屋として武器や食糧、

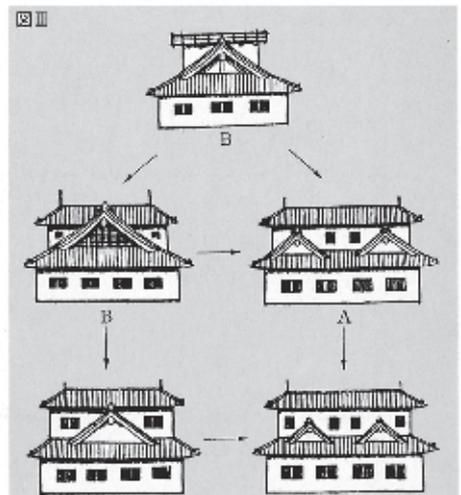
貴重品などを格納する納戸的な役割を果たしていたと考えられるのです。

他城では、高知城天守が各階の内壁の仕上げを変えています。座敷として使用する四階と六階は貼付け壁(写真Ⅰ)であるのに対し、他の階は板壁仕上げです。(写真Ⅱ)また、松山城天守の破風裏の小部屋は板壁仕上げです。(写真Ⅲ)

このことから天守三階は板壁仕上げとし、他の階は既存の重要文化財の仕上げと同様の漆喰塗り仕上げとすることが妥当と判断しました。



▲大洲城天守の「比翼千鳥破風」



▲屋根形式の推移図
(出典：日本建築史基礎資料集14 城郭Ⅰ)
様々な形式の破風を組み合わせることで、その城特有の外観が出来上がる。大洲城天守の破風の配列は、寛永年間の江戸城天守に酷似していると言われる。



▲松山城天守破風の間(屋根裏部屋)



▲高知城天守二階内部「板壁」



▲高知城天守六階内部「貼付け壁」

大洲城天守閣復元



▲柱打の儀
紅白幕で装われた棟木を工匠役が
桝や当て板を使い打ち固める。

かわら版 復元大洲城

平成15年5月1日まで
に皆様からお寄せいただ
いた復元のための募金額
は、**386,133,617円**
です。

第
82
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城天守閣復元工事

上棟式を迎えました!!

施工業者主催の大洲城天守閣復元工事の上棟式が、平成十五年四月四日に開かれました。また続く五・六日には、市と実行委員会の主催で一般見学会、瓦記名会などがあり、六千人を超える人出で賑わいました。

感謝の儀式「上棟式」

上棟式とは、住宅建築の「たてまえ」にあたるものです。屋根の礎を支える棟木をすえ付け、棟上まで木工事が無事完了したことへの感謝と、建築に携わる工匠の労をねぎらうための儀式です。

式には榊田市長を始め、市議会議員、復元委員、工事・設計関係者など約二百人が出席し、「感謝の儀」や「撤餅の儀」などに参加して、上棟を祝いました。「上棟の儀」では、大工が装束を身にまとい工匠役を務めました。参加者全員で棟木に取り付けられた紅白の糊を「えいっ、

えいっ、えいっ」のかけ声と共に引き、棟木を大守の最上部に納めると、工匠役が桝や当て板を使い、長さ八皿の棟木を打ち固めました。

棟木には、天守一・二階の通し柱と同じく、大洲藩主加藤家の菩提寺の一つである如法寺で調達したヒノキを使用しています。

見学会に六千六百人が参加

四月五日・六日には、復元中の天守閣が一般公開されました。この見学会には、市内外から二日間約六千六百人が訪れ、四階まで組み上がった様子を見学しました。

また同日、天守閣に使われる平瓦の裏面に自分の名前や願い事などを墨書きする「瓦記名会」があり、千二百六十五人が参加しました。(瓦記名は、八月末まで市役所一階ロビーで受け付けています。)このほか、大洲城天守閣復元イベント実行委員会(古下利秋実行委員長)主催のもちまきや忍者ショー、舞台村などが催され、会場を一層盛り上げました。



▲戦国武者姿の市職員らが工事の様子を解説



▲工匠役を務めた大工たち

一般見学会の追加開催決定

市では、完成してからは決して見ることのできない天守閣の復元の様子をできるだけ多くの皆さんに見ていただくため、一般見学会の開催を計画しています。

◆見学会・瓦記名会【次回】

八月十四日(水)・十五日(金)

◆見学会【最終回】

十一月二十二日(土)

二十三日(日)

次回はお盆期間中に開催します。備省されるご家族・お友達などにもぜひご案内ください。



▲棟木に使用した如法寺のヒノキ断面
樹齢110年、直径50cm、長さ22m



▲1枚2,000円の瓦記名に1,265人が参加



▲上棟を祝う「もちまき」

大洲城天守閣復元



▲瓦工場で土を練った状態の鯉瓦の形を整える関係者（鯉瓦は大洲ライオンズクラブ寄贈）



▲蛇の目紋入りの軒丸瓦と釘抜きと呼ばれるひし形の中心模様があしらわれた軒平瓦（台所槽）

かわら版 復元大洲城

平成15年6月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、393,656,917円です。

第83号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

徹底解剖！ 大洲城天守閣復元工事 ～瓦の製作編～

天守閣と多聞櫓たもんこに使用する瓦（三十八種類、約四万八千点）の製作が今年の春から始まっています。

出土した瓦をもとに

大洲城天守閣の復元時期は、写真などの資料がそろった「幕末期」に設定されています。

この時期に用いられていた瓦を見本にして、復元に使用する瓦もできるだけこれに近づけようとしています。過去の発掘調査で幕末期の地層から出土した瓦が見つかっており、これを調べたところ、軒先の軒丸瓦など主要な瓦には、「蛇の目紋」（大洲藩主加藤家の家紋）の入った瓦を使用していたことが分かりました。

凍害に強い瓦

今回、天守閣に使用する瓦は、

すべて岐阜県産の耐凍瓦です。

岐阜や奈良近辺の瓦は、原料となる「土」に特徴があり、高温で焼き上げることができま

す。一〇〇度を越える高温で焼き

上がった瓦は、水分の吸収を抑えることができるとい

え、瓦が凍って膨張し瓦が割れるのを防ぐ効果があります。昭和四

十四年から昭和四十五年にかけて行われた台所槽・高欄橋の解体修理工事では、奈良産の耐凍

瓦を使用しています。

鯉瓦の製作

大洲城の鯉瓦（大洲ライオンズクラブ寄贈）は、明治時代に



目の部分に蛇の目紋がデザインされた鯉瓦（寛文5年製作・市立博物館蔵）

撮影された写真と市立博物館に所蔵されている鯉瓦をもとに製作しました。市立博物館に残る鯉瓦には、寛文五年（一六六五）に作られたことが記されています。天守に使用された鯉瓦であるかどうかは判明していませんが、鯉瓦の高さが明治の写真に写っているものとはほぼ一致することや、鯉の目に蛇の目が使われていることから鯉瓦の見本とすることにしました。

平成十五年三月には製作途中で練土状態の鯉瓦を瓦工場（岐阜）で検査し、設計者や瓦職人の手で、鯉瓦の尾びれや鱗などの形が整えられました。出来上がる鯉瓦は、高さ三尺二寸（約九十二センチ）、重さは約八十斤（約四キロ）になります。

瓦の製作は、一部の役物瓦を除き六月末で終了し、七月からは、いよいよ瓦葺きが始まります。

瓦 記名会 連絡所で 開催

期日	時間	場所
6月29日 (日)	10:00~11:30	平野連絡所
	14:00~15:30	南久米連絡所
7月6日 (日)	10:00~11:30	菅田連絡所
	14:00~15:30	大川連絡所
7月13日 (日)	10:00~11:30	新谷連絡所
	14:00~15:30	柳沢連絡所
7月27日 (日)	10:00~11:30	上須戒連絡所
	13:00~14:30	八多貴連絡所
	15:00~16:30	三善連絡所

天守閣に使う平瓦に自分の名前や願いごとを書き記すことができます！

費用 1枚 2,000円

- ◆どの連絡所でも記名できます。
- ◆大洲城で一般見学会・瓦記名会を8月14日(木)、15日(金)の両日に開催します。

大洲城天守閣復元

かわら版
復元大洲城

平成15年7月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、400,158,917円です。

第84号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成15年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲天守の屋根は入母屋と呼ばれる屋根形式で、妻には懸魚(げぎょ)が飾られている

徹底解剖!!

大洲城天守閣復元工事

「屋根工事編」

天守閣の屋根形式

大洲城天守閣の屋根は、棟の近くに妻が入る「入母屋」と呼ばれる屋根形式です。入母屋根は、四方に屋根の軒が廻り、雨水を分散でき、妻部分の破風や懸魚で建物の装飾を表現することが出来ます。

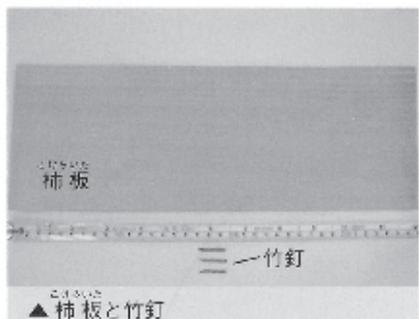
天守閣の屋根の四隅は緩やかに反り上がっています。これは、瓦の重さに耐えるための技術で、軒先が長い年月の間に下がってくるのを防ぎ、同時に外見上の美しさを表現したものです。

懸魚とは?

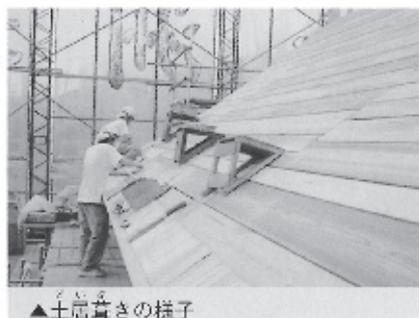
天守閣の妻や破風には、懸魚と呼ばれる飾りを取り付けられています。懸魚は、もともと神社建築に用いられる装飾りで、

その語源は、「屋根に懸けた魚」から発したものと考えられています。中国では、現在でも魚をかたどった板を屋根に懸ける風習が残っているようです。水と関わりのある魚を屋根に懸けることで、防火のまじないとなるのです。鯨瓦もこれと同じ意味合いのもので、鯨は、波を起こし、雨を降らす空想上の生き物で、水や雨と関係することから建物の最上部に取り付けられ、火災から守っているのです。

懸魚は、屋根の妻部分と全ての破風に取り付けています。また、取り付ける箇所がそれぞれ異なっています。天守四層の妻部分と千鳥破風(大入)には「無懸魚」、下鳥破風(小入)には「梅鉢懸魚」、天守二層の唐破風



▲柿板と竹釘

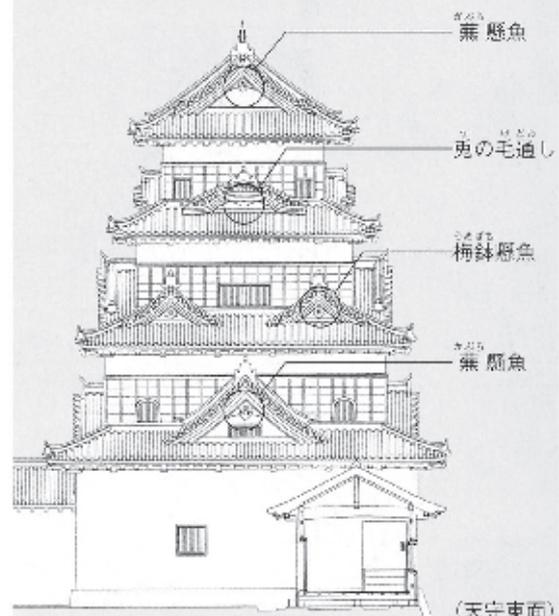


▲土居置きの様子

「土居置き」
屋根工事では、瓦を置く前に野地板の上に柿板を屋根全面に

には「兎の毛通し」と呼ばれる種類の懸魚をそれぞれ取り付けています。

大洲城天守閣の懸魚の種類



敷き詰める土居置きと呼ばれる工程があります。柿板には長さ約30cm、厚さ約2cmの薄い板を使用します。棧は水に強く、風呂桶などにも使用されます。大洲城では、雨のあたる下見板などに使用しています。柿板は、瓦から漏れた雨が野地板に浸透しないよう幾重にも重ねて敷き詰めます。

土居置き工事は、今年六月から始まりました。柿板を固定する釘には、ひご状の短い竹釘を使用します。舟き師は、たくさん竹釘を口にあくみ、屋根上でトントンと素早く柿板を留めていきます。そのため、柿置きはトントン音とも呼ばれます。

屋根工事は、土居置きの後、七月から瓦置きに入っています。

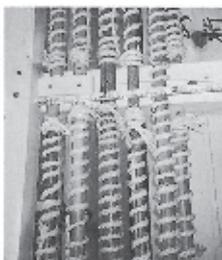
大洲城天守閣復元



▲姫路城
全壁面が漆喰で塗りこめられている



▲松本城
白漆喰と黒漆で塗られた下見板のコントラストが美しい



▲竹小舞
壁土が乾きやすいように竹の間に隙が空けられている

かわら版
復元大洲城

平成15年8月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、408,548,677円です。

第85号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対しての寄稿も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

伝統工事を受け継ぐ その3
壁工事編

漆喰壁

城郭(近世城郭)の外壁には、普通、漆喰と呼ばれる壁が使われています。漆喰塗りは古代から高級な壁の仕上げで、室町時代末頃までは、富や権力の象徴でした。

漆喰は、貝を焼くなどして出来る石灰と、砂と糊(糊)としてスサを水で練って塗ります。スサには麻や紙が使われ、糊には米などが使われました。この判材が特に高価であったため、漆喰壁は贅沢なものであったとされます。やがて、糊に海草を使うことが工夫され安価になり、城郭などでも広く使われるようになったのです。

下見板張り

当時の漆喰壁は、現在のものほど雨に強いものではなかったため、軒下の雨の当たるところに

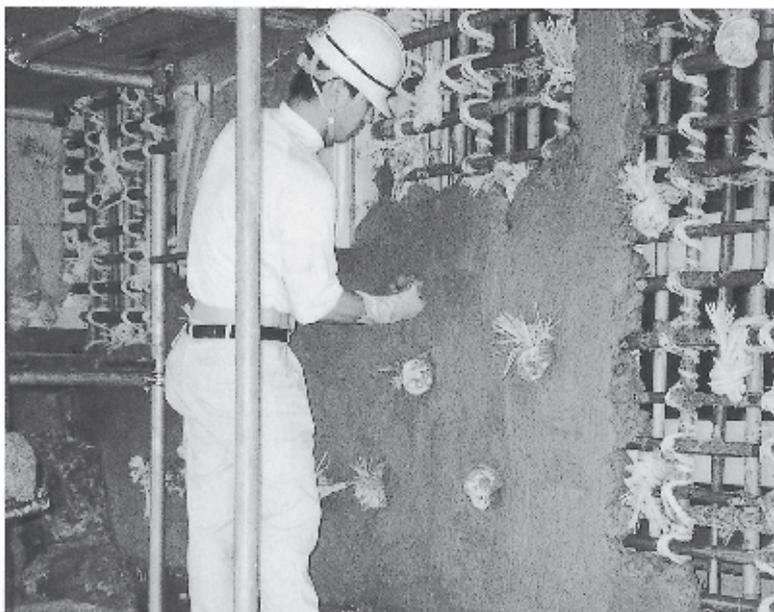
は下見板が張られました。下見板張りは、土壁を鉄砲などで崩されないためにも有効でした。また、下見板には防蟻剤として黒漆や墨が塗られました。

その後、関ヶ原の役のころから、姫路城のように下見板張りを使わず、全壁面を漆喰で仕上げられる城郭が多くなります。これは、漆喰に油スサを加えた、水に強い南蛮漆喰の技法が取り入れられたためと考えられています。

大洲城天守閣の壁工事

大洲城天守閣の壁は、白漆喰と下見板張りの組み合わせです。下見板には水に強い樺材を使用します。外壁は柱を塗りこめる大壁、内壁は柱を見せる真壁と呼ばれる造りの壁になります。また、天守閣の一階外壁のうち外に面している北面・西面の壁は、太鼓壁と呼ばれる重厚な壁になります。壁の中に瓦礫を入れ、頑丈な造りにし、鉄砲や石つぶてなどの攻撃に備えたのです。これらの壁の造りは、現存する重要文化財の櫓に倣っています。

天守閣の工事は、四月から壁の下地の工事を行っています。壁の下地には、竹小舞を使用しています。直径三〇程度の丸竹を縦で格子状に組んでいきます。六月から竹小舞に壁土を付ける荒壁打ちと呼ばれる作業を始まりました。半年以上渡かせた壁土は、発酵し、粘りが増しています(壁土の養生は、広報2月号・かわら版第78号で紹介しています)。この壁土に現場で再度薬を混ぜ合わせ、団子状に丸めて竹小舞に押し付けるのです。



▲荒壁打ち
壁土を団子状に丸めて竹小舞に押し付ける

やがて、荒壁が乾燥し、ひび割れが生じ始めると、今度はそれを塗り潰すように重ね塗りを行います。これらの作業を繰り返していき、最終の漆喰塗りまで合計七工程の作業を行います。昔ながらの工法を用いる壁工事は、壁土の養生期間を含めると約二年間かかります。このような長期間を要する壁工事の機会が少なくなってきました。天守閣の復元を機に伝統的な工法が後世に受け継がれていくほしいものです。

大洲城天守閣復元

かわら版
復元大洲城

平成15年9月1日まで
に皆様からお寄せいた
いた復元のための募金額
は、414,115,677円
です。

第
86
号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成18年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 電話 24-2111 内線 352



▲漆喰づくりの様子 漆喰塗りは古来からの伝統工法で、製作にも手間がかかる。

漆喰には、石灰と糊、そしてスサと呼ばれる植物繊維を用います。その工程は、糊を作ることから始まります。薪で火を炊き、グラグラと湯が沸くと北海道産の「ぎんなん草」と呼ばれる海草を入れ、しばらく煮ます。【写真1】海草を煮るので、作業場内は、昆布を煮たような独特の匂いが充満しています。ぎんなん草が柔らかくなり、煮汁に粘りが出ると糊の出来上がりです。糊が出来上がると今度はスサ

大洲城天守閣の復元は、古来の伝統技術により、明治時代に取り壊された天守閣を再現するものです。今月号では、天守閣の白壁に使用する漆喰づくりを紹介します。

伝統技術を受け継ぐ その4
漆喰づくり編



写真3 糊とスサを混ぜ合わせる



写真1 ぎんなん草を入れ糊を作る

を混ぜ合わせます。【写真2・写真3】スサは、漆喰が剥がれ落ちたり、収縮してひび割れたりするのを防ぎます。スサには、兵庫県産の麻スサを使用します。



写真4 石灰を加え混ぜ合わせる



写真2 スリを加える

麻スサとは、麻のロープを細かく切断し、もみほぐしたものです。糊とスサがよく混ざると最後に石灰を混ぜ合わせます。【写真4】石灰は、高知県産のもので、糊とスサに対し、二倍の量の石灰をミキサーで混ぜ合わせます。混ぜ終わると、袋に入れ約十カ月寝かし、漆喰が完成します。【写真5】



写真5 約十カ月寝かせると、漆喰が完成する

大洲城天守閣に使用する漆喰の量は約三十㎡。本格的に漆喰塗りが始まるのは来年の春頃の予定です。

一般見学会・最終回
十一月二十二日(上)
二十三日(日)
午前十時から午後四時まで



▲4階屋根の鯉瓦や鬼瓦を見上げる見学者

一般公開に
二、九〇〇人が参加!

大洲城天守閣復元

かわら版 復元大洲城

平成15年10月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、418,495,557円です。

第87号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市別施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目標し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲小早川隆景肖像画(米山寺(三原市)蔵)

大洲城あれこれ9

戦国武将編 小早川隆景・戸田勝隆

近世の大洲(大津)城には、有力な戦国武将が次々と入城しました。大洲は、脇川を利用し瀬戸内海へ出ることができたので、戦国武将たちにとって重要な場所として位置付けられていたのかも知れません。今号では、秀吉の四国平定後になつて最初に大洲城を支配下に置いた小早川隆景、続いて入城した戸田勝隆を紹介しましょう。

小早川隆景(一五三三～一五九七)

豊臣五大老の一人に任命

小早川隆景は、天文二年(一五三三)毛利元就の三男として生まれ、やがて竹原小早川家の養子となります。兄の吉川元春とともに「毛利西川」と呼ばれ、元春が山陰地方を担当、隆景は山陽地方を担当し、毛利家の発展に尽くしました。

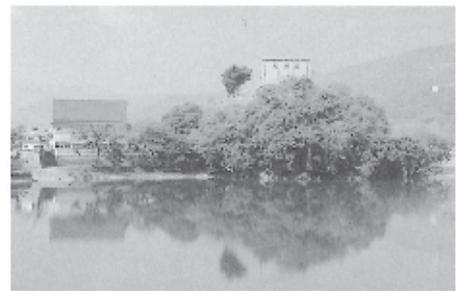
隆景は智将としても知られています。天正十年(一五八二)秀吉は、毛利討伐のために備中高松城

を水攻めします。戦況は隆景が優勢でしたが、本能寺の変で信長が死

亡すると、秀吉はいち早く和睦を結び、明智光秀を討つため近畿に戻ります。このとき、兄の元春らは進撃しようとしていますが、隆景は「やがて、秀吉より天下が統一される。ここで息を売れば毛利家は秀吉とともに発展することができ」と考え、追撃派を抑えたと言われています。結局、この隆景の判断が軍事に的をし、秀吉の下、毛利家は発展を遂げたのです。秀吉の信頼を得た隆景は、後に五大老(徳



▲小早川隆景禁制(大禅寺蔵)



▲現在の大洲城跡(平成15年9月撮影)

川家康、前田利家、毛利輝元、宇喜多秀家、小早川隆景、隆景の死後は上杉景勝)の一人に任命されます。

隆景による伊予の支配

天正十三年(一五八五)秀吉の命により小早川隆景は四国平定のため、伊予に上陸します。その功により、同年伊予二十五万石をうえられ湯月城を居城としました。隆景が入国してからは、今まで戦乱に苦しんだ国内もようやく静まり、人々も安心して生活することができるようになったといわれています。写真の「小早川隆景禁制」(市指定文化財)は、占領した城下の寺や神社などでの兵の乱暴を禁止するためのものです。この文書は、大禅寺(大洲市西大洲、大禅寺は古名を「大善寺」という)で大切に保管されています。隆景が伊予を支配していた間、大洲城には隆景の養子である小早川秀包(のち久留米城主十三万石)が居城していました。

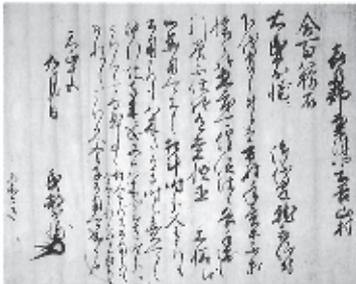
戸田勝隆(一五九四)

秀吉の家臣 戸田勝隆

秀吉の家臣であった戸田勝隆は、秀吉が姫路城主であった頃「宮田(光茂)、御子田(正治)、尾藤(知宣)、戸田をこえる有功の士あらず」といわれ、秀吉の家臣のなかでも特に高名であったといわれています。やがて、天正十五年(一五八七)、小早川隆景が九州に転封となると、勝隆は宇和、喜多郡十六万石を与えられ、大津城に入城します。

勝隆は、性質が粗暴で、政治は武断的で、社寺はその多くが荒れ果てたとされています。現存する「戸田勝隆文書」(市指定文化財)は、百姓の年貢の取り方を厳しく指示した沙汰状で勝隆の施政を伺い知ることができ貴重な資料です。勝隆は、文禄三年(一五九四)、朝鮮の役に参戦しましたが病死し、嫡子がなく大洲戸田家は断絶します。

(参考文献)「大洲市誌」、「大洲市文化財調査集」、「大洲城跡保存整備計画書」



▲戸田勝隆文書(市立博物館蔵)

大洲城天守閣復元



▲藤堂高虎肖像画（四天王守（三重県津市）蔵）

かわら版
復元大洲城

平成15年11月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、420,797,914円です。

第88号

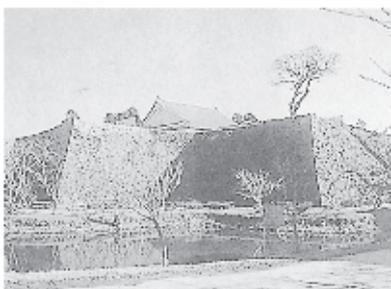
大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年（2004）の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

秀吉の死後は、家康からも気に入られます。關ヶ原の戦いでは東軍（徳川方）に加わり手柄を立て、伊予半国二十万石（今治、宇和島）を治めました。その後、慶長十二年（一六〇八）には二十二万石で津城（三重県津市）に入り、大坂の陣で活躍した高虎は、元和三年（一六一七）には三十二万石の大大

高虎は、近江国（滋賀県）で生まれ、父の虎高と同じく浅井長政の家来でした。元龜元年（一五七〇）、姉川の戦いの後は、織田信澄（信長の弟の信行の子）、続いて豊臣秀長（秀吉の弟）に仕え、秀吉の四国・九州平定などに参戦しますが、やがて、秀長が亡くなると、その子秀保（秀長の養子）の後見人として仕えました。
文祿元年（一五九二）、秀吉は朝鮮に出陣します。高虎は、秀保に代わり水軍の將として活躍しましたが、文祿四年（一五九五）、秀保が大和十津川で溺死すると、責任を感じた高虎は高野山に入り剃髪します。しかし、それを惜しんだ秀吉に呼び戻され、伊予宇和島七万石を与えられました。

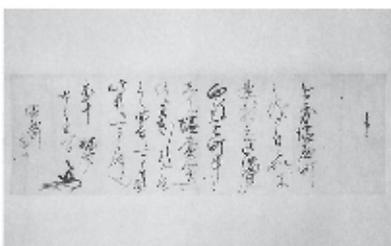
「大洲城あれこれ」では、大洲城に入城した戦国武将をシリーズで紹介しています。今号では、戸田勝隆が朝鮮の役で死亡した後、大津城（大洲城）に入城した藤堂高虎を紹介し

大洲城あれこれ10
戦国武将編
藤堂高虎（一五五六～一六三〇）



▲篠山城（兵庫県篠山市）

名となりました。
築城の名手
高虎は、築城の名手としてよく知られています。高虎は、城を造るなかでも、特に石垣を築いたり堀を造ったりする縄張りづくりの能力が優れていたようです。江戸幕府からもその能力が認められ、江戸城や伏見城、篠山城（兵庫県）などの「天下普請」と呼ばれる幕府の直轄工事のほとんどに参加しています。もちろん自ら居城した宇和島城（※現存の天守は後の伊達家が改築したもの）、今治城、津城なども高虎が築城したものです。



▲塩屋町創成褒状（市立博物館蔵）

大津（大洲）との関わり
文祿四年（一五九五）高虎は、七万石で宇和島に入ると、すぐに板島城（宇和島城）の築城に取り掛かりました。その当時、大津は、蔵入地代官（秀吉の直轄地を治める代官）として高虎が治めていたもので、板島城の築城の間、高虎は大津城に居城しました。
慶長二年（一五九七）、二度目の朝鮮への出陣では、高虎軍は大津から出兵し、千人余りの捕虜を連れて大津に戻ります。そのなかには、儒学者姜沆もいました。翌年、高虎は戦功を認められ一万石加増されると、感利島の朝鮮館を出石寺（長浜町）に奉納します。この銅鐘は、現在も出石寺に残されており、国の重要文化財に指定されています。



▲藤堂高虎が奉納した銅鐘（重文：出石寺蔵）



▲現在の志保町（大洲市大洲）の様子

塩屋町を創る
慶長十年（一六〇五）、高虎は、部下の田中林彦に命じて大津の町制りを行っています。市指定文化財の「塩屋町創成褒状」は、塩屋町創設の命令に町民が素早く対応したことなどに対して田中林彦が送った褒状です。藤堂家の城下づくりの構想を伺い知ることのできる貴重な資料です。
塩屋町の場所には現在の志保町のあたりで、「シオマチ」がなまって「シホマチ」と呼ぶようになったと言われています。
（参考文献：『大洲市誌』、『大洲市文化財調査集』、『大洲城跡保存整備計画画書』）

要文化財に指定されています。関ヶ原の戦いの後、高虎が今治に移ると、慶長七年（一六〇二）、高虎の養子、高吉が大津に入城しました。（高吉は、信長の有力な家臣であった丹羽長秀の三男で、最初は、高虎が仕えた豊臣秀長の養子でしたが、後に秀吉の命で高虎の養子になりました。）

大洲城天守閣復元



▲脇坂安治肖像画<脇坂研之氏所有>

かわら版 復元大洲城

平成15年12月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、424,949,843円です。

第89号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城天守は、洲本城から移築された?
近世城郭としての大洲城天守

大洲城天守は、近世城郭としての大洲城天守。慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の戦いでは、西軍(石田三成方)から東軍(徳川家康方)に復讐返り、勝利に貢献すると、やがて、慶長十四年(一六〇九)五万三千五百石で安治は大津(羽)に入城します。

「大洲城あれこれ」では、大洲城に入城した戦国武将をシリーズで紹介しています。今月号では、藤堂高虎の後、大津城(大洲城)に入城した脇坂安治を紹介いたします。

の創建は、文献等に記されておらず、はっきりとしたことは分かっていませんが、藤堂高虎が脇坂安治の時代に建てられたといわれています。

大洲城あれこれ11

戦国武将編

脇坂安治(一五五四~一六二六)

「大洲城あれこれ」では、大洲城に入城した戦国武将をシリーズで紹介しています。今月号では、藤堂高虎の後、大津城(大洲城)に入城した脇坂安治を紹介いたします。



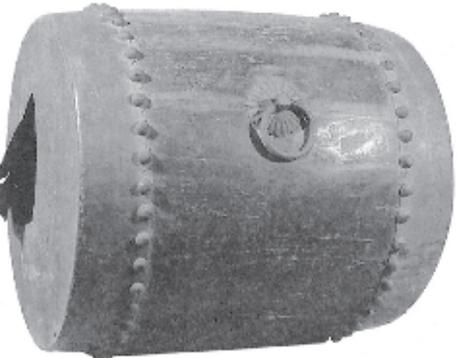
▲洲本城の天守台
辰臺台が建てられている。



▲蛇野神社
脇坂安治を祭り、その功績を称えている。

子定でしたが、途中、家康の天下普請に添えて丹波亀山城に移築されたといわれています。大洲城の天守も、洲本からはるばる移築されたものかも知れません。

年(一六一七)信濃飯田城に移り、その後、寛文十一年(一六七二)播州龍野城主となり明治維新を迎えます。龍野市内にある龍野神社では脇坂氏の始祖である安治を祭り、現在でもその功績を称えています。
〔参考文献〕「大洲市誌」、「大洲市文化財調査書集」、「大洲城跡保存整備計画書」



▲脇坂安治陣太鼓<市立博物館蔵>
胴内の墨書きにより、この陣太鼓は文禄の役の時、安治が朝鮮で造らせた10個の太鼓のうちの一つであることが分かっています。

大洲城天守閣復元



▲加藤光泰肖像画（龍護山曹溪院蔵）

当時の情勢は、家康が江戸に転封となった直後で、秀吉は家康に備えるために家康包围網を形成します。甲府城をはじめ松本城、上田城など関東近辺の重要拠点に豊臣方の大名を配置したのです。光泰は、甲府城に入ると隣国家康の監視とけん制役を担い、将に関東への物資流通に目を光らせていたといわれています。同時に甲府城の天守台や本丸など主要部分の石垣の普請を完成させ、本格的な甲府城の整備を

かわら版
復元大洲城

平成16年1月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、442,253,843円です。

第90号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城あれこれ12

戦国武将編

加藤光泰（一五三七～一五九三）
加藤貞泰（一五八〇～一六二三）

「大洲城あれこれ」では、大洲城に入城した戦国武将をシリーズで紹介しています。今月号では、脇坂安治の後、大津城（大洲城）に入城した加藤貞泰とその父光泰を紹介します。

二十四万石の大大名・光泰

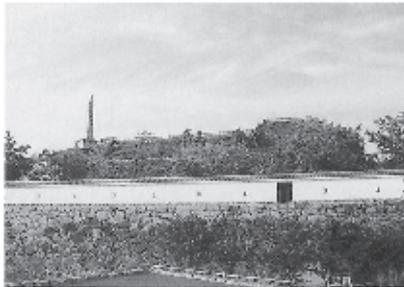
貞泰の父、光泰は美濃国（岐阜県）の出身で、はじめ斎藤道三の孫、斎藤義興の家来でしたが、後に秀吉に仕えます。光泰は、秀吉のもとで数々の殊勲をたて、天正十二年（一五八四）には近江国（滋賀県）高島城主二万石、翌十三年（一五八五）には美濃国大垣城主四万石を所領します。やがて、天正十八年（一五九〇）小田原城攻めで活躍し、光泰は、甲斐一國二十四万石の大大名に出世します。

行いました。

文禄元年（一五九二）光泰は朝鮮に出兵します。朝鮮で光泰は、石田三成らと軍事上の意見で対立し、不仲になります。翌年、三成は光泰と和解するため酒宴を催しますが、その夜知宿した光泰は吐血し、五十七歳で死去します。

光泰の死後の貞泰

光泰の死後、貞泰が甲府二十四万石を受け継ぎます。貞泰は



▲甲府城跡（山梨県甲府市）

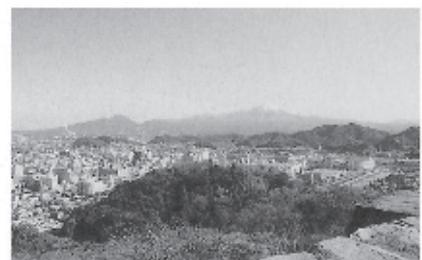


▲加藤貞泰肖像画（龍護山曹溪院蔵）

父が三成と不仲であったため、十五歳という若年を理由に美濃国黒野城主四万石に減封させられます。しかし、父に劣らず有能であった貞泰は、関ヶ原の戦いなどで功績を上げ、慶長十五年（一六一〇）には米子城主六万石に、元和三年（一六一七）には、同じ六万石で大津（洲）に入城します。その後、大津（洲）での領国体制の確立を目指そうとした矢先、元和九年（一



▲市指定史跡「加藤光泰靈廟並びに加藤家の墓所」



▲米子城跡（鳥取県米子市）
「天守台から大山を望む」

六二三）四十四歳の若さで病死します。
加藤家の菩提寺の一つである龍護山曹溪院（大洲市大洲）には、光泰の霊廟と貞泰の墓所があり、市の文化財（史跡）として現在も大切に保存されています。
〔参考文献〕「大洲市誌」、「大洲市文化財調査集」、「大洲城跡保存整備計画書」

大洲城天守閣復元



▲野村棟梁 (左) と河村棟梁 (右)

かわら版 復元大洲城

平成16年2月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、448,130,843円です。

第91号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの人はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲野村棟梁 (右端) の木材検査の様子

野村 設計者から最初に頼まれたのは、「木材の拾い出し」(設計図面から部材寸法、数量を割り出す準備作業)でした。それ

野村棟梁は、これまで社寺建築がほとんどで城郭の建築は初めてということですが、大洲城の仕事は正式に引き受けたときの心境はどのようなものだったか?



野村克己棟梁(56)宮山県出身。大工工事の

総まとめ役として、木材の拾い出し、検査など最も重要な仕事を担った。

大洲城天守閣の復元工事は、今年九月の一般公開に向けて、着々と進んでいます。今月号から「大洲城の匠たち」と題し、その工事に携わる職人たちをインタビュー形式で紹介していきます。今回は、大工をまとめる親方役の「棟梁」を紹介します。



河村棟梁は現場のまとめ役として木工事を指揮し、「木組み」などを経験されたわけですが、何か苦労はありましたか? 河村 最も苦労したのは、火打梁(右下写真)の部分でした。大工たちが線がかりで一カ所に半日以上も費やしました。組むのも大変でしたが、何百年後かに修復解体するときには、さらに大変な作業になると思います。大洲城の木組みは、まるで知恵の輪のように難解です。

河村棟梁は現場のまとめ役として木工事を指揮し、「木組み」などを経験されたわけですが、何か苦労はありましたか? 河村 最も苦労したのは、火打梁(右下写真)の部分でした。大工たちが線がかりで一カ所に半日以上も費やしました。組むのも大変でしたが、何百年後かに修復解体するときには、さらに大変な作業になると思います。大洲城の木組みは、まるで知恵の輪のように難解です。

河村満夫棟梁(59)宮山県出身。大洲城の現場棟梁として、14人の大工を束ね、木工事を指揮しました。

ただで終わりたいと思っていたら、正式に大工を請けてほしいと。図面を既に見ていたもので、依頼を受けても特に驚きや不安はありませんでした。むしろ、昔の人がやった仕事を、同じ大工として自分にもできないはずはない」と、自信を持って引き受けました。

野村棟梁は現場のまとめ役として木工事を指揮し、「木組み」などを経験されたわけですが、何か苦労はありましたか? 河村 最も苦労したのは、火打梁(右下写真)の部分でした。大工たちが線がかりで一カ所に半日以上も費やしました。組むのも大変でしたが、何百年後かに修復解体するときには、さらに大変な作業になると思います。大洲城の木組みは、まるで知恵の輪のように難解です。

野村 宮大工は決して一人ではできません。集団で作業しますから、チームワークが重要です。皆で取り組んで、皆で苦労や喜びを分かち合えることは、宮大工として幸せです。また、今回のように、地元の大工の皆さんと共に作業し、互いの技術が後

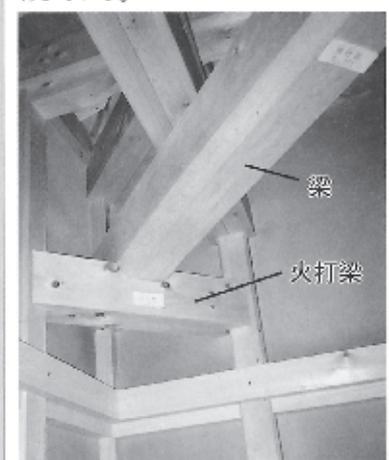
野村 宮大工は決して一人ではできません。集団で作業しますから、チームワークが重要です。皆で取り組んで、皆で苦労や喜びを分かち合えることは、宮大工として幸せです。また、今回のように、地元の大工の皆さんと共に作業し、互いの技術が後

野村 宮大工の建てた寺や神社は、少なくとも生きていた間は、ずっと建物が残っているということですが、住宅ならせいぜい数十年ですが、社寺は数百年残ります。また、大洲城のように大工冥利に尽きる仕事につくこともできます。

お二人は、これまで多くの建物を建築されてきたわけですが、宮大工になって良かったと思うことを教えてください。河村 宮大工の建てた寺や神社は、少なくとも生きていた間は、ずっと建物が残っているということですが、住宅ならせいぜい数十年ですが、社寺は数百年残ります。また、大洲城のように大工冥利に尽きる仕事につくこともできます。

野村 宮大工は決して一人ではできません。集団で作業しますから、チームワークが重要です。皆で取り組んで、皆で苦労や喜びを分かち合えることは、宮大工として幸せです。また、今回のように、地元の大工の皆さんと共に作業し、互いの技術が後

火打梁とは 天守閣の隅角部分に用いられ、梁にかかる荷重を周辺の柱に分散させるための材。火打梁が入るのは大洲城天守閣の特徴の一つで、復元資料の「天守難形」と呼ばれる木組み模型からもその存在が判明している。



「出来上がると同時に自分の手から離れていく...。お城とはそういうものです。」

世に受け継がれていくことは、大変有意義だと思えます。

天守閣がもうすぐ完成します。野村 今回、城郭の仕事に初めて関わってみて、社寺建築とは異なる思いがあります。これまでの仕事は、「自分で建てた」という実感がありません。しかし、城とい

野村 宮大工は決して一人ではできません。集団で作業しますから、チームワークが重要です。皆で取り組んで、皆で苦労や喜びを分かち合えることは、宮大工として幸せです。また、今回のように、地元の大工の皆さんと共に作業し、互いの技術が後

※このインタビューは、平成十五年十二月に行ったものです。

大洲城天守閣復元

かわら版
復元大洲城

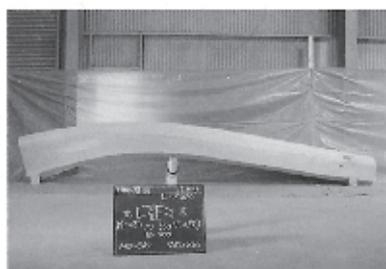
平成16年3月1日までに皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、453,082,923円です。

第92号

大洲市は、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年を迎える平成16年(2004)の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。大洲城に関する写真や資料などをお持ちの方はご連絡ください。また、このコーナーに対してのご意見も募集しています。
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352



▲永山 守副棟梁(34) 富山県出身。木材の墨付けを担当。墨付けは、設計者の意図を木材に反映させる重要な仕事。「建物の良し悪しは、墨付けで決まる」とさえ言われている。



▲梁の型を作るために実際に撮影された写真

大洲城の匠たち 2
副棟梁

大洲城天守閣の復元事業は、今年九月の一般公開に向け、着々と進んでいます。前号に続き、工事に携わる職人たちをインタビュー形式で紹介いたします。今回は、棟梁を助け、木材の墨付けという大役を担った副棟梁です。

永 山副棟梁は、大工工事のなかでも大役である木材の「墨付け」を担当されました。墨付けは、普通ベテランの大工がする仕事というイメージがありますが？

永 山 実は宮大工になって間もない頃から墨付けを任されていました。しかし、経験してきたのは社寺建築で、城郭の墨付けはもろもろ初めてです。

初 めての城郭建築ということでは不安があったのでは？

永 山 木組みや木材の大きさなど城郭は、社寺と似たところがたくさんありますので不安はそれほどありませんでした。ただ、社寺と比べて城郭は梁が多く、

大洲城の天守には99本あります。しかも丸太梁が露出していて人目に触れますので、木組みの精度が要求されます。一本一本の大きさと曲がり具合が異なる木材を振り分けるのは大変でした。

99本すべての梁材を写真に撮って、厚紙で十分の一サイズに型を取り、それらを設計図面上で裏材裏所に振り分けるのです。このような手間をかけた作業は初めてでした。

正解があるようでない…復元の最も難しいところですよ。

今 回は「復元」という特殊な工事でしたが？

永 山 大洲城は、写真など多くの資料が残っていました。資料

が豊富にある以上、できるだけそれに忠実に復元しなければなりません。各部を資料と照らし合わせる確認作業も当然厳しくなり、工事を難しくさせていたことは確かです。

写真に写る大洲城の天守は、明治期の老朽化した姿です。そのことがよく分かるのが屋根の反り方です。写真に写った屋根の反りは比較的ゆるやかですが、本来は反りがもっときつかったかもしれません。幾年にもわたる屋根の加重で軒先が下がり、反りがゆるくなったとも考えられます。写真にあるのが本来の

姿とは断言できません。正解があるようでないのです。復元という仕事の最も難しいところだと思います。

問 もなく木工事が終了します。感想を聞かせてください。

永 山 二年近く大洲で作業しました。地元の大工を始め、大勢の人に親切にいただいた。大洲には愛着があります。大洲の皆さんの期待に応えることができようベストを尽くしたつもりです。大洲城は、大勢の人に見ていただきたい建物です。

※このインタビューは、平成十六年一月に行ったものです。



▲柱の上から梁の木組み作業を指揮する永山副棟梁



瓦葺き師：川島博美さん(52)岐阜県出身。地元岐阜城を始め長浜城、小幡城、掛川城など多くの城郭の瓦葺きを経験。平成12年には「岐阜の名匠」として岐阜県から表彰された。

かわら版 復元大洲城

平成16年4月1日まで
に皆様からお寄せいただいた復元のための募金額は、
480,190,174円です。

第93号

大洲市では、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年となる今年9月の一般公開を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。この事業は、大洲城本丸跡に天守閣と現存する台所櫓、高麗櫓とを結び多聞櫓を復元するもので、歴史を後世に正しく伝えるため、豊富な資料をもとに史実に忠実な復元を行っています。
【大洲城天守閣復元事業の問い合わせ先】
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城の匠たち3 瓦葺き師

大洲城天守閣の復元工事は、今年9月の一般公開に向け、着々と進んでいます。前号に続き、工事に携わる職人たちのインタビュー形式で紹介いたします。今回は、屋根工事を担った瓦葺き師、川島博美さんを紹介いたします。

川島さんは、社寺はもちろん城郭の瓦葺きのキャリアも豊富にお持ちですが、城郭と社寺との違いを教えてください。

川島 歴史的に社寺から城郭に発展した流れがあるようなので、城郭と社寺の瓦葺きは基本的に同じものです。ただ、城郭は戦いの場所ですから、そのイメージは大切にしています。また、城郭でも当時の葺き師によって葺き方が異なります。昔き師には癖がありますから、癖を見抜くようにしています。さらに、いつの時代の城郭なのか時代考証も必ず行います。

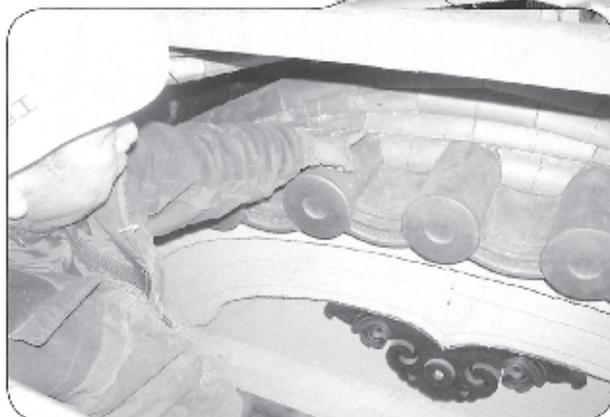
父の川島恒夫さんは、越前守や京都御所などを経験され現代の名工として賞状を授けられたほどの技術の持ち主とお聞きしました。大洲城の瓦葺きにも参加いただいた、言わば父と子の合作のようなものですかね？

川島 父には、特に破風などの飾り屋根の部分を手伝ってもらっています。父は、親であり師匠でありライバルでもあります。父は昔から金銭のことは全く気にせず、手前を惜しまない職人でした。私が認める本當の職人の一人です。しかし、最終的には私は父よりも上を目指したい。もちろん、全ての技術において父を超えるのは難しいことです。誰にも不得手はあります。ただ、私の得意な部分では父を超えたいと常に考えています。そのためにも、独自の技を見出し、それを磨くことが重要だと思っています。人の真似だけではなかなか勝てません。弟子たちにはいつも言っています。「まずは親方の真似をしろさい。それから自己流に楽しんで行け」と。

完成予想図（唐破風部分切り抜き）



天守三層に載る唐破風は最も苦
労した部分。唐破風の均整のとれた
曲線を運り出すのが難しい



唐破風の袖丸部分

父は、瓦と対話しながら葺いていくように私に教えてくれました。しかし、私は瓦だけでなく建物全体と対話して葺くようにしています。瓦は建物全体と調和して初めて生きてくるのです。

最後に、大洲城の見どころを教えてください。

川島 大洲城の天守は、小規模ながらも破風と呼ばれる飾り屋根が豊富に取り付けられています。中でも、天守三層の四方に取り付けられた唐破風は曲線を持った美しい破風です。この唐破風の一部に袖丸と呼ばれる部分があります。袖丸は、唐破風の丸みを正面に形作るもので、この丸みを瓦で表すのは最も苦

しい部分です。職人冥利に尽きる最も楽しいときです。

川島さんの名刺の裏にはこんな言葉が書かれてありました。「先人の残した美をみつめ大切に、想像の喜びに今日も働いて居ります」

※このインタビューは、平成十五年十二月に行ったものです。



左官：城ノ戸健志さん（31）大洲市出身。総勢 10 名近い左官を束ねる言わば左官の棟梁的存在。



天守三層に載る唐破風は最も苦勞した部分。唐破風の曲線を造り出すために型板を作成した。



大洲城の唐破風専用のコテ

※このインタビューは、平成十六年四月に行ったものです。

かわら版 復元大洲城

平成16年5月1日までに皆さんからお寄せいただいた復元のための募金額は、**492,763,174円**です。

第94号

大洲市では、市の新しいシンボルとして、市制施行 50 周年となる今年 9 月の一般公開を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。この事業は、大洲城本丸跡に天守閣と現存する台所櫓、高層櫓とを結ぶ多間櫓を復元するもので、歴史を後世に正しく伝えるため、豊富な資料をもとに史実に忠実な復元を行っています。

【大洲城天守閣復元事業の問い合わせ先】

商工観光課まちづくり対策第 1 係 ☎24-2111 内線 352

大洲城の匠たち 4

左官

大洲城天守閣の復元工事は、今年九月の一般公開に向け、着々と進んでいます。前号に続き、工事に携わる職人たちのインタビュー形式で紹介していきます。今回は、左官工事を担った城ノ戸健志さんです。

内 子や大洲など南予には白壁の古い町並みが残り、左官の技術も受け継がれています。城ノ戸さんは、城郭の左官工事は初めてということですが、これまでの工事と異なっていたのはどのようなところですか。

城ノ戸 特に壁の厚みが異なります。例えば、壁の下地となる木舞竹。普通は割り竹と違って直径三センチ程度の竹を半分に割って格子状に組むのですが、大洲城の場合、割り竹でなく丸竹をそのまま格子状に組んでいます。場所によっては、木舞を二重にしてその間に瓦隙を詰

めて壁を強固なものにしている部分もあります。敵からの攻撃に備えた城郭の壁は他の建物の壁とは全く構造が異なります。特に、外観上の美しさも問

同 われますね。城ノ戸 城郭は、頑丈だけでなく美しさが求められる特殊な建物です。城郭特有の美しさを表現するのは、これまでにない全く未知の世界です。既存の櫓だけでなく他の城郭へも随分と足を運びました。外観の美しさを表現するには、最終仕上げの漆喰塗りだけが上平く出来れば良いと思われがちですが実際はそうではありません。仕上げを

決めるのは、それまでのいくつもの工程が重要なのです。荒壁打ちから始まり、最終の漆喰仕上げまでの工程は八、九工程あります。それぞれの工程にミスがあれば、最後に狂いが出てしまうのです。全ての工程に神経を注ぎ、集中しなければなりませんでした。

こ 分はどの部分ですか？ 城ノ戸 大洲城には破風と呼ば



屋根を支えるための垂木。緩やかな反りを保ち堅然と並ぶ垂木を漆喰で美しく表現する。左官技術の見せどころ。

れる飾り屋根が豊富に取り付けられています。なかでも、三種の屋根に付いた唐破風は曲線の美しさを表現した装飾的で優美な屋根です。唐破風の漆喰仕上げは瓦屋根と同じように曲線を表現しなければなりません。正確にこの曲線を描くのが最も苦勞した部分でした。原寸の型板や専用のコテを作り、丸みを作り出しました。

また、屋根を支える垂木は程よい反りを保ちながら整然と並んでいます。この垂木の並びを美しく自然に見せるのは至難の技です。これらの部分は、苦勞した分、最高の仕上がりとなりました。六月中旬には素屋根がいよいよ取り外されます。一般公開は九月からですが、遠景からでも大洲城の美しさを堪能していただきたいと思っています。



▲畷川のほとりに堂々たる勇姿を現した大洲城
(右：天守閣、左：台所櫓)

かわら版 復元大洲城

平成16年6月1日までに
皆さんからお寄せいただいた
復元のための募金額は、
499,100,174円です。

第95号

大洲市では、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年となる今年9月の一般公開を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。この事業は、大洲城本丸跡に天守閣と現存する台所櫓、高櫓櫓とを結ぶ多層櫓を復元するもので、歴史を後世に正しく伝えるため、豊富な資料をもとに史実に忠実な復元を行っています。
【大洲城天守閣復元事業の問い合わせ先】
商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城天守閣の復元工事は、今年九月の一般公開に向け、着々と工事が進んでいます。本工事は、五月末には完了し、残った「素屋根」と呼ばれる外部の仮設足場の解体作業を行っています。

五月二十五日、素屋根の外側を覆うシートの取り外し作業を実施。短時間で天守の全容を出現させ、「一夜城」ならぬ「一昼城」を演出しようとする職人総勢八人で取り外しを行いました。

午後一時半、報道陣が見守るなか、作業はスタート。川風が強く、シートがあおられて作業は難航しましたが、午後三時

大洲城天守閣 勇姿を現す！

すやね
素屋根を解体！

半には四面全ての取り外しが完了。わずか二時間ほどで大洲城の勇姿が畷川のほとりに姿を現しました。素屋根の解体は、この後、六月中旬まで続きます。

「大洲城のイベント予定」

◆ライトアップ点灯

八月二日 二十時～

「大洲川まつり花火大会」の初日から大洲城のライトアップを始めます。

◆先行公開「プレオープン」

八月十四・十五日

十時～十六時 有料

お昼の帰宅客の皆さんにぜひご案内ください。

※内部展示は準備中のため観覧できません。

◆一般公開「正式オープン」

九月一日 十四時～ 有料

◆完成記念イベント

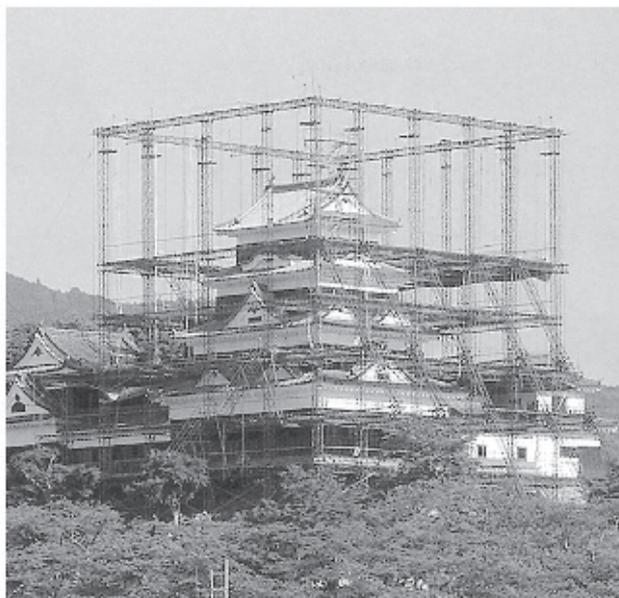
九月一日～五日の五日間、大洲城本丸、二の丸では完成記念イベントを行います。

※先行公開・一般公開の料金は、完成記念イベントの内容などは決定したい、お知らせします。

楽しく学ぶ「大洲歴史探検」のご案内

大洲の歴史を古代から現代まで分かりやすく紹介した「大洲歴史探検」(土井中照著)。市制施行50周年を記念して市の町並博実行委員会が出版しました。大洲城の歴史はもろろん、天守閣復元の話も盛りだくさん！

商工観光課、市内の書店などでお買い求めください。
(販売価格：1,000円 B6版144頁)



▲北西から見た大洲城。左に台所櫓、右に高櫓櫓を従えた複連結式天守群である。6月中旬には鉄骨の足場が完全に取れた。



▲大洲城天守の内部。天守に入るとまずこの光景が目に入る。上部に並ぶ大きな丸太梁が特徴。

かわら版 復元大洲城

平成16年7月1日までに皆さんからお寄せいただいた復元のための募金額は、**506,312,674円**です。

第96号

大洲市では、市の新しいシンボルとして、市制施行50周年となる今年9月の一般公開を目指し、大洲城天守閣復元事業に取り組んでいます。この事業は、大洲城本丸跡に天守閣と現存する台所櫓、高櫓などを結ぶ多間櫓を復元するもので、歴史を後世に正しく伝えるため、豊富な資料をもとに史実に忠実な復元を行っています。

【大洲城天守閣復元事業の問い合わせ先】

商工観光課まちづくり対策第1係 ☎24-2111 内線352

大洲城いよいよ一般公開！

公開日程・内容が決定！

大洲城は、いよいよ九月一日に一般公開（正式オープン）を迎えます。今号では、一般公開とお盆期間中に開催する先行公開（プレオープン）、九月一日～五日の完成記念イベントの内容を紹介します。

先行公開（プレオープン）

◆期日

八月十四日・十五日（土・日）

◆時間

午前10時～午後四時

◆整理料

大人 二百円

小人 百円（中学生以下）

◆割引など

・小学生未満は無料

・高齢者手帳の所持者は無料

・身障者手帳の所持者とその付添いの人は無料

◆内容

大洲城の内部を公開します。展示物は、準備中のため設置していませんのでご了承ください。

◆使用材の販売

大洲城に実際に使用した木材の端材を販売します。復元の記念にぜひお求めください。なお、数に限りがありますので、お早めにお越しください。

◆駐車場

大洲市民会館駐車場（有料）
大洲警察署跡駐車場（無料）

お盆に帰省される皆さんにもぜひご案内ください。

一般公開（正式オープン）

◆期日

九月一日（水）午後二時～

◆時間

一日：午後二時～午後五時
二日以降：午前九時～午後五時

（礼止：午後四時～三十分）

◆観覧料

普通観覧料

大人 五百円



▲本丸から眺めた天守（左）と台所櫓（右）。白い漆喰と黒い下見板のコントラストが美しい。

小人 二百円（中学生以下）
共通観覧料

（大洲城一臥龍山荘）

大人 八百円

小人 三百円（中学生以下）

◆割引など

・小学生未満は無料

・高齢者手帳の所持者は無料

・身障者手帳の所持者とその付添いの人は無料

・二十人以上の団体は二割引

◆駐車場

大洲市民会館駐車場（有料）
大洲警察署跡駐車場（無料）

※警察署跡駐車場の利用は、十月末までの予定です。

完成記念イベント

○九月一日（水）午後二時～

祝砲（火縄銃）

火縄銃の号砲に合わせ一般公開をスタート。数回の演武を予定。

再現「慶長年間」

大洲城天守が創建された時期「慶長年間」の様子を当時の衣装を身にまとったエキストラが再現し、城内の雰囲気を感じ上げます。

○九月二日・三日（木・金）

午前九時～

再現「慶長年間」

○九月四日・五日（土・日）

二の丸音楽祭

大洲城を見上げる二の丸に音のくつろぎ空間を演出します。

四日：「桂雀三郎ウイズまんぶくプラザ」ライブ
五日：「EPO」コンサート

かわら版
復元大洲城
最終号

大洲城天守閣復元事業は、平成六年に木造による復元を目指し、大洲城天守閣再建検討委員会が発足したことから始まります。そして、平成八年に建築史家（故）宮上茂隆氏が「木造による完全復元が可能」と発表し、以後本格的に実施に移されました。最終号では完成まで十年の復元のあゆみを紹介します。

第一回大洲城天守閣復元委員会

（平成八年七月三十一日）

前身の大洲城天守閣再建検討委員会（平成六年発足）を引き継ぎ、史実に基づき木造で正確に天守を復元するため、大洲城天守閣復元委員会が発足しました。完成までに合計十五回の委員会を開催し、事業の諸問題について検討を重ねました。



発掘調査説明会

丸一年をかけて天守跡の発掘調査を大洲市教育委員会が実施しました。調査では、天守の柱を支える礎石や雨落ち溝が確認され、設計に反映することができました。また、秀吉が位の高い家臣に使用させた「茶紋瓦」が出土し、大洲城が当時いかに重要であったかを知ることができました。

天守跡の発掘調査

（平成十一年二月〜平成十二年一月）



第1回大洲城天守閣復元委員会

平成12年 2000 平成11年 1999 平成10年 1998 平成9年 1997 平成8年 1996 平成7年 1995 平成6年 1994

復元のあゆみ

大洲城模型お披露目式

（平成九年三月十八日）

大洲城の三分の二の外観模型が完成し、市役所ロビーでお披露目式を開催しました。模型を製作し、基本設計を担当した故宮上茂隆氏が大洲城の特徴などを説明しました。



大洲城模型お披露目式

御杣始め式

（平成十二年一月十二日）

大洲藩主加藤家の菩提寺の一つである如法寺で、初めて木材を切り出す儀式「御杣始め式」が執り行われました。寄付をいただいた松は樹齢二百五十年、直径約七十cmの大原木でした。この松は、天守一〜三階の心柱に使用されています。



御杣始め式「斧入れの儀」

大洲城天守閣復元



復元天守(中央)と
現存する台所櫓(左)・高欄櫓(右)

世紀を超え平成の世に大洲城が甦りました。大洲城は、この時代に生きました。私たちが手によって生まれ変わり、これから新しい歴史を歩み始めるのです。

天守完成・一般公開

(平成十八年九月一日)

木工事の開始を祝う木曳き式を開催しました。樹齢三三五十十年の木曾松を特製の音車に載せ、市内約三・五キロを総勢二百五十人で練り歩きました。行列には長野県木曾地方から五人の木遣りが参加し、木曳き唄を披露しました。思い出に残るこの木曾松は、天守一階から二階に上がる階段の途中、手で触れることができます。

木曳き式

(平成十四年六月一日)



御用木お披露目式「手斧始めの儀」

御用木お披露目式

(平成十三年九月三十日)

市内北只の木材保管倉庫で御用木お披露目式を開催しました。地元で調達した木材を始め、秋田県産の栗材や樹齢三百年を超える木曾松などをお披露目しました。お披露目式に続き、施工業者主催による「手斧始めの儀」が執り行われました。



木曳き式

平成16年
2004

平成15年
2003

平成14年
2002

平成13年
2001

起工式

(平成十四年二月五日)

大洲城で施工業者主催による起工式(安全祈願祭)が開催されました。式の後、蔵川芸能保存会が「廻り音頭」を披露。地場音頭に合わせてスズ、ドラムと柱を地面に打ち付け、建物の地固めが行われました。



起工式「地場音頭」

上棟式

(平成十五年四月四日)



上棟式「栱打ちの儀」

上棟式「栱打ちの儀」へのご感謝と、建築に携わる工匠の労をねぎらうための儀式「上棟式」が施工業者主催により執り行われました。「栱打ちの儀」では、紅白幕で装われた棟木を工匠役が打ち固めました。翌日から天守の平瓦に自分の名前や願い事を墨書きする「瓦記名会」を行い、完成までには二千人を超える人が参加しました。

後記

多くの皆さんのお力添えをいただき、十年という長い歳月を経てこの度めでたく大洲城が完成・一般公開を迎える運びとなりました。復元のために寄せられた基金は、目標額の五億円を超え、八月一日現在で約五億一千八百万円となりました。市民の皆さんをはじめ、ご協力をいただいた市外・県外の皆さんに心から感謝をいたします。

これまで全9号にわたり、復元情報をお伝えしてきました。一かわら版復元大洲城は、大洲城完成という当市の歴史的な節目をもちまして終了させていただきます。

大洲市商工観光課

大洲城跡

秀吉期の菊瓦が出土

県内初 近世城郭下から20点

大洲市教委が進めている大洲城天守閣跡(同中大洲)の発掘調査で、十九日までに、既に調査済みの近世城郭遺構の下から、県内では初の菊紋入りの軒丸瓦(かわら)―菊瓦―が出土した。また、古い城郭跡とみられる石列や柱跡、礎石などの遺構も見つかった。

石列や柱跡・礎石遺構も

大洲城天守閣跡地から出土した菊紋入りの瓦



発掘調査は平成十六年夏を白指して市が計画している天守閣復元計画の一環。主目的の近世城の発掘を終え、さらに掘り下げたところ、近山まつに五つの盛り土層を確認した。菊瓦は破片を含め約二十点のうち、七か所の二層目と三層目。うち二点は図柄がくまのわたり、主井と、外側の副井をそれぞれ八井の輪紋がある。安土桃山期の瓦に準しい漆黒の安土城郭遺構研究の「木戸雅寿主君(くまのわたり)」による、製作年代は一五九〇年前後―一六〇〇年頃のものと推定される。当時、徳川氏期建から「従五位下」以上の官位を受けた者が、豊臣秀



近世城郭層の下から見つかった石垣状の石列層

吉の許可がなければ城にふくむことが許されず、同年代の八井の出土例は伏見、上田、大阪、米子などの拠点城郭に限られる。秀吉は全国統一の過程で、四国では既存の山城を壊す一方、瀬戸内沿岸を直

(平成11年10月20日)

垣状石列が出土。その下層で別の構造物の礎石(いしがしら)が埋まっていたほか、さらに下層から直径約四十センチの柱跡二つが確認された。

大洲城は古くは元弘元年(一一三二)年、伊予国守護の宇都宮家が築城。安土桃山時代から江戸初期まで、研究者の間では「豊後」に白田藩、藩政高度、この遺構が出る可能性は十分あった。中世末期の歴史を扱った「大洲城」(大洲市教委)が、平成十七年、加藤長泰が入城を解明する上で貴重な調査

と注目されている。発掘調査は当初二カ月の予定だったが大幅に延長、十二月末までに地山まで調査を進め、現地説明会を行う方針。市教委は「今後、他の遺物が出土すれば、遺物の種類や性格、年代などが分かる可能性がある。各時代城主と関連づけられる」と話している。

大洲城天守閣復元

用材初切り出し

御杣始め式

大洲市が進めている大洲城天守閣復元計画で、用材を初めて切り出し、事業の無事完成を祈願する「御杣(みそま)始め式」(市森林組合主催)が十二日、同市柿木の如法寺山門前であった。

同日伐採した用材は、同寺から寄付を受けた山門近くのヒノキで、高は約三十七メートル、胸高直径七十二センチ、樹齢約二百年。式典には大洲城天守閣復元委員会や市などの関係者ら約百八十人が出席。ヒノキを囲んで祭壇をしつらえ、藤木琢磨・同寺住職が読経した後、柿田与一市長や復元委員会

無事完成を願う



初の復元天守閣用材として切り出されるヒノキに斧入れする柿田市長(右手前)ら

(平成12年1月13日)

の井岡和彦委員長らが斧(おの)入れの儀などを行った。

ヒノキの太木は約二十センチ、高は約三十七メートル、樹齢約二百年。式典には大洲城天守閣復元委員会や市などの関係者ら約百八十人が出席。ヒノキを囲んで祭壇をしつらえ、藤木琢磨・同寺住職が読経した後、柿田与一市長や復元委員会

を移して保管、天守閣の柱材として使用する予定。同市の計画では、二〇〇四年八月の市制五十周年に合わせ、歴史資料に基づき純木造の天守閣と二つの櫓

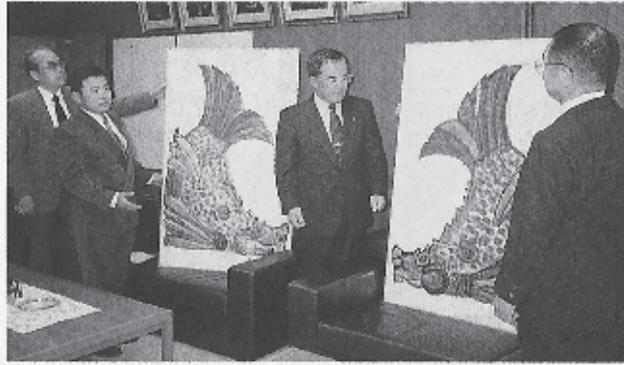
(やぐら)を再建。二〇〇〇年度末までに天守閣の美観設計を仕上げ、二〇〇二年度の着工を目指す。概算事業費は約十三億円。木材の推定使用量は約千本(ヒノキ

換算)で、山林所有者から木材寄付を募っている。また事業費の一部は寄付でまかなう方針で、市民からは一億円(一世帯二万円)を目標に昨年募集中。これに対し「オンブズエビ

め」(会長・西島吉光弁護士)が「区長を通じて寄付募集は地方財政法違反の疑いが強い」などと指摘。同市は違法ではなく撤回しない、としている。

大洲の空にシャチホコを

ライオンズク、市に制作費寄付



鯨の絵を栴田市長（右）に説明する大洲ライオンズの浜田会長（中左）ら

大洲ライオンズクラブ（浜田耕彦会長）は二十一日、大洲城天守閣の鯨（シャチホコ）制作費用に、大洲市に二百五十万円を寄付した。

同ライオンズは今年、結成四十周年を迎え、その記念事業の一環として計画。天守閣の復元に向け、市民の機嫌を高める一助に、この狙いもある。

寄付金と一緒に鯨の絵も贈呈。鯨一對が墨で真横が

ら描かれており、それぞれ高さ百十五センチ、幅八十センチ。市立博物館所蔵や現存機（やぐら）にある鯨を参考に会員の書野隆次さん（五七）が描いた。同日は浜田会長ら四人が市役所を訪問、栴田市長に目録などを手渡した。市の天守閣復元計画は二〇〇四年八月の完成を目指しており、二〇〇〇年度中にまとめる天守閣の詳細な設計の中で、鯨の内容も検討する方針。

(平成12年 2月23日)

歴史のかけら、集めるように...

ジグソーパズルで大洲城

天守閣復元 事業をPR

二〇〇四（平成十六）年夏の完成を目指し、大洲城天守閣復元事業を進めている大洲市は、事業PRのため「元禄五（一六九二）年大洲城絵図」と「大洲城パズル」を製作した。十四日からそれぞれ二千円で販売する。

大洲市 きょう発売

元禄5年の古絵図も販売

絵図は加藤家三代藩主泰恒（やすつね）の時代に製作された市立博物館所蔵品をカラー印刷した。縦百三十八センチ、横七十三センチ。肱川沿いの城郭建築物が描かれており、絵図や大洲城の築城などを記した解説書付



大洲市が製作した大洲城のジグソーパズル（右）と古地図

パズルは五百ピースのジグソーパズルで、縦三十八センチ、横五十三センチ。図柄は明治初期に肱川の河原から撮影された四層四階の天守閣と櫓。コンピュータグラフィック（CG）

（平成12年 3月14日）

で鮮やかに色づけしている。それぞれ千セットを製作、事業費は百三十六万円。同市大洲のおおず赤煉瓦（れんが）館や市内各公民館、市役所商工観光課で販売。売上金は復元基金として積み立てる。郵送も受け付ける（送料は別）。問い合わせは同課（電話089966-2211）。

大洲城 本丸石垣の強度チェック

市改修必要か秋に判断

大洲城天守閣の復元事業を進めている大洲市はこのほど、本丸石垣の調査を始めた。構造や強度などを把握するのが目的で、今秋をめどに改修するかどうかを決める。

調査対象は、復元天守閣を建築する本丸の北西側と、その下側に位置する本丸井戸くわを支える石垣と周辺。石垣は崩壊し、レーザーや振動波などの機器を活用する。表面の石垣形



探査器具を使って石垣や内部構造などを調査する作業員

状や内部構造を記録するとともに、地盤の強度や地層状態をチェックし、石垣基礎部の掘削調査も行う。四日から委託業者が実施中。

九月月上旬までに収集データをもとに、地震や復元天守閣を設置した際の強度を解析。今秋中に改修が必要かどうかを判断する予定。

本丸部分の石垣は一五八七年に入城した戸田勝隆から藤堂高虎、脇坂安治（一

六〇九年入城）の時代に整備されたといわれる。その後も修復されたが、現在、各所に石のずれなどゆがみが生じている。天守閣は来年着工、二〇〇四年夏の完成を目指すという。

（平成12年 8月 9日）

大洲市教委が発行した大洲城発掘調査の概報



天守閣など3回建造判明

大洲城発掘調査概報を発行

大洲市教委

大洲市教育委員会はこの一年を目標に進めている天守閣など、大洲城天守跡地の守衛復元計画に伴い、昨年発掘調査概報（A4判、六ページ）を発行した。同跡地（同市大洲）には一六〇〇年前後に建築された近世天守閣を含め、一五〇〇年代後半から少なくとも三回、異なる建造物が建てられたことが分かった。

同調査は同市が二〇〇四

年から今年一月まで行われた。発掘面積は約二百七十平方メートル。

概報では、遺構や遺物を図面や写真、解説付きで紹介。それによると、調査ではまず近世天守閣の柱を支える基礎石六つが出土。その下の層からは巨石列が見

つかり、近世天守閣より古い時代の建造物の土台と認められた。石の大きさから、建物は檜（やぐら）または天守の可能性があると指摘。さらに下側から溝状の遺構や土塀跡、土器などが見つかった。

また県内初の菊紋入りの丸瓦（がわら）も発見。これを含め織田、豊臣期の瓦

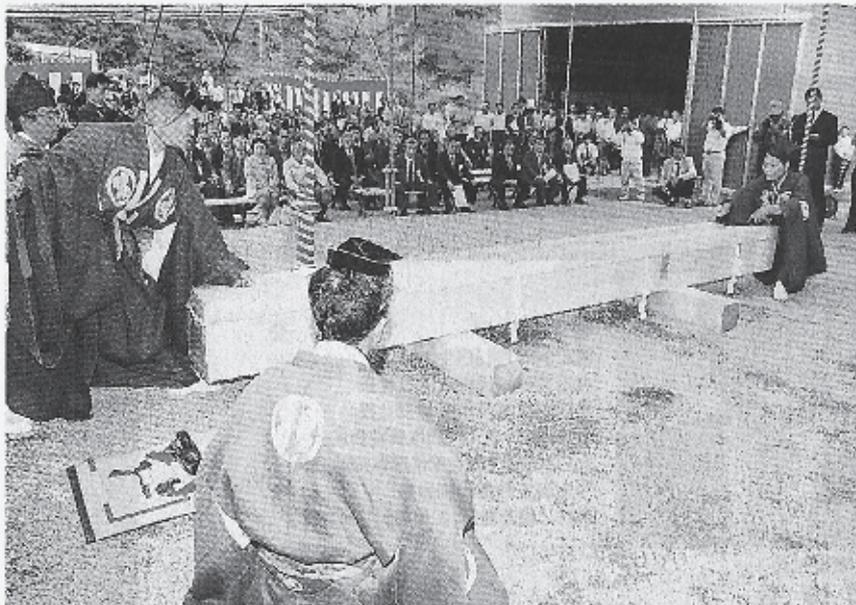
片は約二千点が出土しており、一五七〇～九〇年代のものも推定。文様の特徴から秀吉の時代、大洲（津）城が重要な役割を果たしていたことを意味すると指摘している。

同教育委員会では二百部を製作、県内市町村教委などに配布し、希望者にも配る。問い合わせは同市教委社会教育体育課社会教育係。電話08993(24)2111。

(平成12年12月13日)

● 大洲城天守閣復元 ●

使用木材を一般公開



古式にのっとり大洲城天守閣用材に墨付けを行う棟りょうたち

「手斧始めの儀」も

大洲市が二〇〇四年の完成を目指して進めている大洲城天守閣復元事業で、材料となる木材の一般公開が三十日から五日間の日程で、同市北只に設置した専用の木材保管倉庫で始まった。初日は「御用木お披露目式」も行われた。

天守閣復元は、市の市制五十周年事業として計画。史実に基づき、純木造の四層四階建てで復元する。総事業費約十三億円。このうち五億円を寄付で賄う方針だ。

使用木材は、スギやヒノキなど四百五十五立方尺（住宅約二十棟分）で、ほぼ調達を完了。このうち四割は地元材で、会場の倉庫には全体の二割を乾燥中。

柱材では同市の如法寺から寄付された長さ八尺の通し柱など大柱が並ぶほか、長野県の木曾ヒノキや秋田県産のクリなどあら引き前の大木もある。また天守閣模型や設計図、平面図などをパネル展示。木材切り出しや加工の様子をまとめたビデオも上映している。

式典には関係者ら約二

百人が出席。樹田与一市長が「全国の皆さんの協力でこまで来た。感謝したい」とあいさつ。木材提供者を紹介したあと、古装束の棟りょうが木材に墨付けし、手斧（ちような）を打つ「手斧始めの儀」があり、地元大工有志も木材はつりの裏演を披露した。

公開は四日までの毎日午前十時から午後四時まで。無料。問い合わせは市商工観光課（電話0893（24）2111）。

（平成13年10月1日）

発掘調査中の大洲城の石垣部分。内部から別の石組みが露出している(右)



小石を埋めていく野面(のづら)積みという手法。近世城郭としてはやや古い工法という。

二十二日までに、クレーン車を使って、約七百キ前後の石の除去作業を完了。破壊した岩は、文化財保存の観点から接着補強し再利用する方向。

石垣内側には別の石垣が見つかっており、同市教委は「近世城郭の石垣を補強するために使われた別の建造物の石垣かは、いまのところ不明」という。遺物では、かわらの破片約百点が出土した。事前申し込みがあれば、見学も受け付ける。問い合わせは市教委社会教育体育課☎電話0893(24)2111。

大洲城石垣を発掘調査

市教委 内側に別の石組みも

大洲市が進めている大洲城天守閣復元事業(同市大洲)の一環として、

同市教委は、天守閣部分石垣の発掘調査を行っている。十一月初め

まで。調査区域は、西側上端

で、幅四・三メートル、高さ一・三メートル。同所の一部が割れたり浮き出すなど、崩落の危険性があるため、

今月十一日から修復に伴う調査を実施中。石垣の

組み方は、あまり加工せずに積み重ね、すき間に

(平成13年10月23日)

天守閣の完成を祈って、建築予定地で蔵川地づき音頭を披露する保存会員たち



大洲城天守閣復元で祈願祭

安全願いの「地づき音頭」

伝統の祝い唄 城山に響く

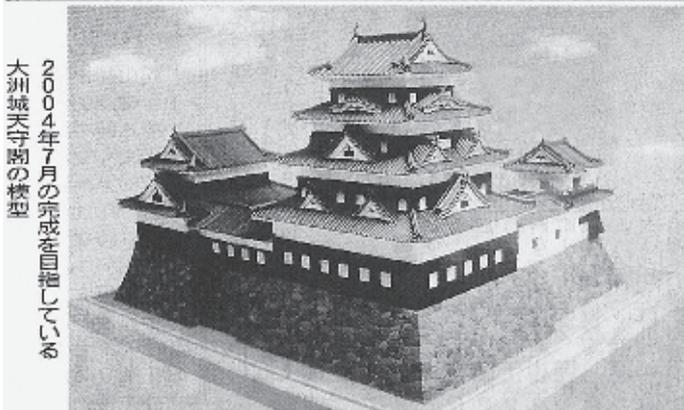
大洲市が進めている大洲城天守閣復元工事の安全祈願祭が5日、城山の建築予定地であった。2004年7月末の完成を目指している。

同事業は、市制五十周年記念事業の一つとして着手。復元するのは四層四階建ての天守閣と、天守閣と現存する「ししの櫓」(やぐら)を結ぶ木造復元は掛川城(静岡県)、白石城(宮城)など、総延長が全国で四例目だが、高さは一・一五倍で最高となる。今月、基礎工事に着手

し秋から組み立て工事が始まるが、外側を覆うたれめ機子は見えない。〇四年の完成、同年九月のオープンを予定している。総事業費は約十三億円。このうち五億円を寄付で賄う予定で、現在の寄付額は二億三千五百万円。発掘調査で天守閣以前の遺構なども検出したが、これらはできるだけ取り保存するとしている。

安全祈願祭には関係者

約百五十人が出席。神事の後、松田与一市長が事業立案の経緯などを振り返り「皆さんのご協力のお願い。無事完成にこぎ着けたら」とあいさつ。同市蔵川地区に伝わる建築物の復元の際の祝い唄「地づき音頭」も披露され、法被姿の保存会員や新田市長らが櫓から伸びたロープを引っ張っては、櫓を地面に打ちたいと事業の完了を祈った。



2004年7月の完成を目指している大洲城天守閣の模型

(平成14年2月6日)

大洲城天守閣の梁となる長さ7.6メートルのヒノキを披露した木曳き式



待ちに待った御用材

大洲で「木曳き式」天守閣の木材披露

大洲市が二〇〇四年の「大洲城天守閣復元事業」材を披露し、木材加工工作完成を目標として進めてい

曳（きび）き式」が一日あり、五十人の曳き手は梁（はり）や柱の用材を曳き歩いた。

木曳き式は元来、伊勢神宮に伝わる儀式で、用材を宮内に曳き入れる際、行われている。同日に披露されたのは、梁となる樹齢三百五十年の木曾ヒノキ（長さ七メートル、直径三十二センチ）と柱となる樹元産の樹齢百年のヒノキ三本（長さ六メートル、直径二十七センチ、重さ三百五十キロ）。曳き手は汗をぬぐいながら、「待ちに待った御用材」のかけ声に「よいしょ」など勇ましい声を張り上げ、市内約三・五キロを練り歩いた。出発式で、樹田与一（大洲市長）やつとことまで来れて感謝無量だ。時間とともに、天守閣がそびえるだろう。今から天守閣の完成が心待ちだ（あいち）。

号院を合図に、市議やミス大洲ら約二百五十人が曳き手とともに大洲市大洲のまちの駅（あごもや）を出発。JR大洲駅を通過し、牝川緑地公園のゴールを目指した。

回事業は、市制五十周年記念事業として着手。四層四階建ての天守閣（高さ約十九メートル、天守閣と現存する櫓（やぐら）をつなぐ多層構で、いづれも木造。総事業費約十三億円）で、五億円を寄付で賄う。現在の寄付額は二億九千万円。

(平成14年6月2日)

21・22日 大洲城復元工事を公開



一般公開される復元工事中の大洲城
天守閣

進ちよく率38%

一階の梁(はり)に使
われている檜(ひのき)約三五千
年の木(木目)ヒノキや地元産
のヒノキなどの用材は追
力(ちから)供給。工事現場はヒノ
キやスギの青(あお)りも心地よ
い。
四層四階の天守閣
城跡への立ち入りは禁止

伝統建築技術も紹介

大洲市は二十一日、二十二日の両日午前十時から午後四時ま
で、二〇〇四年完成を目標として復元を遂げている大洲城天
守閣の工事を一般公開する。現在の工事進捗率は約
38%。天守閣一、二階の木組を自由に見学できるほ
か、工事現場で伝統工法など古来から伝わる建築技術
を分かりやすく紹介している。

巨木から天守閣想像して

されている。建物は防
風雨(ふうう)シートで覆われて
おり、普段は外部から工
事の様子(ようす)がうかがうこと
ができない。

施行の間継(まぎり)大
洲城作業所の外務課職員
三田(みや)隆(たか)に近(ちか)づいたため、
何(なに)度も図面(ずま)を拝見(らいけん)
した。設計(けいけい)、用材(ようざい)、工法(こうぽう)と
徹底的(てきてき)に調べた天守
閣(てんしゅかく)は日本の白鷺(しらさぎ)があ
る。ぜひ、現場(けんじょう)で迫力(せきりき)を
体験(たいけん)してほしい」と喜び
掛(か)けた。

(平成14年12月18日)

天守閣に荘嚴 鯨・鬼瓦 大洲・復元前に展示

二〇〇四年九月の一般公開に向けて復元中の大洲城天守閣で、火よけのまじないとして最上部に



大洲ライオンズクラブと国際ソロプチミスト大洲の会員が寄贈した大洲城の鯨瓦と鬼瓦

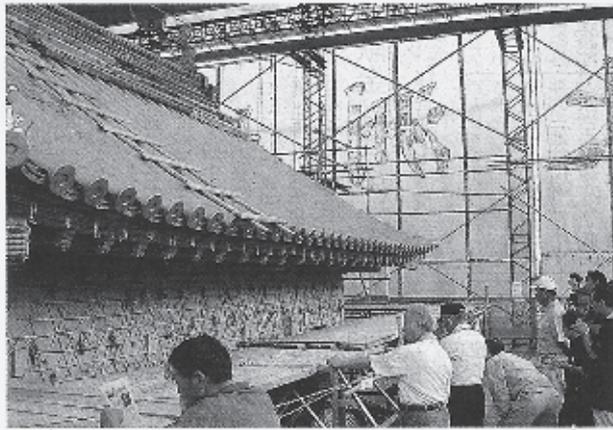
取りつける鯨瓦（しゃちかわら）二点のうち一点と鬼瓦十点のうち二点のお披露目式が二十八日、

市役所であった。瓦を寄贈した大洲ライオンズクラブ（近藤英市会長）と同際ソロプチミスト大洲（村上幸子会長）の関係者ら約三十人が出席、除幕した。高さ約一尺、重さ約六十キログラムの鯨瓦は迫力十分で、市民が見入っていた。鯨瓦（ライオンズクラブ寄贈）は市立博物館に残る一六六五年製の瓦を基に岐阜県で三カ月を費やし製作。また、鬼瓦（ソロプチミスト寄贈）は既存の櫓（やぐら）の鬼瓦を参考に製作、蛇の目の紋（大洲藩主加藤家の紋）をデザインしている。鬼瓦のうち最も大きい棟鬼は幅約一尺もある。鯨

瓦と鬼瓦は八月四日まで市役所ロビーに展示され、八月中に四層目に取り付ける予定。復元工事の進捗よく率は約70%で、屋根工事などを行っている。帰省客や市民に現在の作業を見てもらおうと、見学会を八月十四、十五の両日午前十時から午後四時まで現場で開く。同時開催される瓦記名会では、一枚二千円で使用する瓦の裏に名前や願い事を墨書きできる。問い合わせ先は市役所商工観光課―電話0893(24)2111。

(平成15年7月29日)

歴史ロマンに思いはせ



大洲城天守閣を工事の足場から楽しめる一般見学会

復元の大洲城天守閣見学会

迫力木曾ヒノキ

二〇〇四年九月の一般公開に向け、復元に取り組んでいる大洲城天守閣（木造四層四階建て）の一般見学会が十四日、大洲市大洲の城跡で始まった。見物客は工事の足場から天守閣の屋根工事や左官工事、約三百年の木曾ヒノキなど天守閣の用材を見学したほか、城内のヒノキの香りを満喫していた。十五日まで。

市は工事の様子を二級三月にスタート、現在の二階見学していた。城内で公開し、復元事業が進展し、進捗は約70%。見学客は工事の足場から天守閣の屋根工事や左官工事、約三百年の木曾ヒノキなど天守閣の用材を見学したほか、城内のヒノキの香りを満喫していた。十五日まで。

(平成15年8月15日)

大洲市は十日から、復元中の大洲城天守閣の内部に展示する築城時の立派な情報模型(ジオラマ)に登場する大工、石工などの人形のモデル募集を始めた。モデルは五十人で応募者多数の場合は抽選となる。造形作家の南條亮さん(フリー大阪府岸和田市在住)が当選者の顔写真から特徴をとり、築城作業に携わる人々の表情として十分の一の大きさの模型に制作する。

大洲城築城職人 人形で復元

築城は、昔の城づくりの技術や伝統などを市民者に伝えるとともに、市民に幅広く復元事業に参加してもらうことで、城への愛着を深めてもらうことが、城への復元の担い手が昨年八月、松山市内の百貨店で開かれた南條さんの展示会を訪れた際、人形で人間の情感を具現化させた作品に感動、復元中の大洲城天守閣を見学してもらった。

市が顔モデル募集

南條さんは「大洲城天守閣は昔の工法にこだわって職人的な作業に感動した。(模型制作は)すこくやりたい仕事で役に立てればうれしい」と快諾した。

模型は二種類で、四層四階の天守閣を建てる大工(高さ二尺×横四尺)と、川か



南條さんが制作した大洲城築城の情報模型の人形

ら運んだ石を切り、城壁を築いている様子(尺)で、人形は合わせて約百体設置する。募集するモデルは木を切る人、石垣の石を切る人、城を組み立てる人など五十人。当選者は制作費二万円を償還する。残りの人形は復元事業に携わった市職員や職人などをモデルとする。

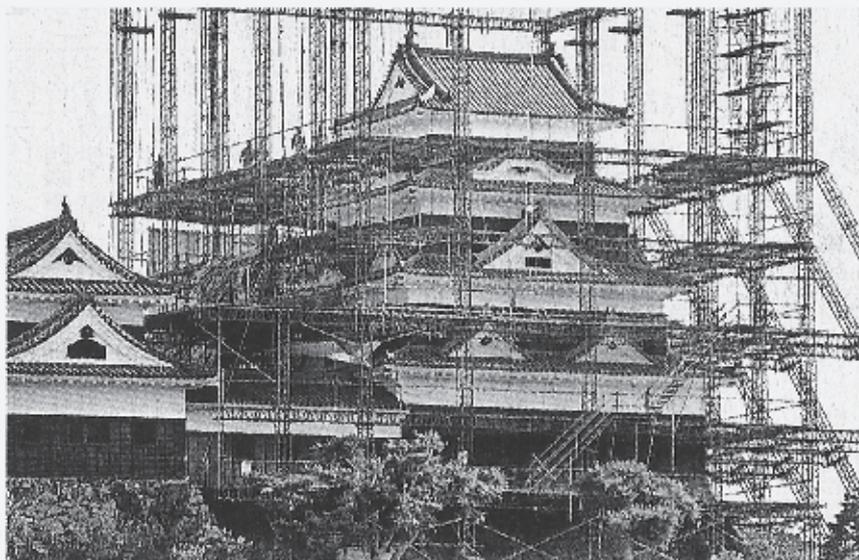
応募方法は、官製はがき(応募は一枚に一人住所、氏名、年齢、性別、電話番号、大洲城へのメッセージを記入し、三月十五日(当日消印有効)までに、郵便番号795-8601、大洲市役所第二観光課大洲城築城ジオラマモデル募集担当に郵送する。問い合わせは同課電話08993(2)42111。

ワイド

えひめ

(平成16年2月11日)

優美天守閣 姿現す



大洲城復元 116年ぶり木造4層

戦後に復元された木造天守として日本一の高さ(約十九メートル)となる大洲城天守閣の外部シートが二十五日、外され、大洲市城跡に百十六年ぶりに木造四層四階の優美な姿が復活した。関係者らが脇川対岸の緑地公園から水郷大洲の新しいシンボルの出現をカメラに収めた。一般公開は九月一日午後二時から。

市は市制五十周年を記念し、天守閣復元事業(本

体工事費十三億円)に取り組んでいる。二〇〇二年二月の起工式からほぼ二年半で事業を終える予定。五月末には本体工事が完成、六月中旬から仮設の足場を撤去し、七月末までにライトアップ用の外部のシートを取り外され、優美な姿を現した大洲城天守閣

設や外灯、園路を整備する。天守閣は重要文化財の台所櫓(やぐら)と高欄櫓と連結。明治時代に撮られた写真や天守櫓(ひな)型などの資料を活用して、史実に忠実な復元に成功した。秋田産の栗(くり)材や地元から寄付された檜(ひのき)など、使用材にもこだわり、約五億円を寄付で賄った。

(平成16年5月26日)

大洲城

5万人来場 復元公開2ヵ月

天守閣が復元された大洲城の来場者が五日、一般公開開始から約二ヵ月間で五万人を達成した。本丸での記念セレモニーでは、樹田与一市長が五万人目となる大分県佐賀関町の影浦広義さん(左)に認定証や、パズルなどの大洲城グッズを贈った。

大洲城来場5万人目となり、樹田市長から認定書を受け取る影浦さん(左)



元された木造天守閣では、国内最高の高さ(一九・一五層)を誇る。一八八八年に取り壊された天守閣を忠実に再現し、現存する台所櫓(やぐら)と高欄櫓に接続している。夜はライトアップされ、臨川浴いで水郷情緒を醸し出している。今年七月末に本体工事を終え、九月一日から一般公開された。

市は初年度の入場者を十万人と見込んでいたが、木造の本物志向の城と話題となったことに加え、町並博の開催で県内外から多くの観光客が訪れたことで、「予想以上に早く五万人を達成できた」(市商工観光課)と手ごたえを感じている。

五万人目の影浦さんは佐賀関町と西宇和郡三崎町の老人クラブの交流会で、来場した。影浦さんは「立派な城を拝見できて光榮に思っている。時を経て評価される建物になるだろう」と話していた。

(平成16年11月6日)

執筆者紹介

- 第一章 大洲市の概要と歴史
大洲市都市整備課 課長補佐 井上 徹
- 第二章 大洲城天守閣復元事業
大洲市商工観光課 主 事 村中 元
- 第三章 復元設計
竹林舎建築研究所有限公司 木岡敬雄
- 第四章 実施設計
竹林舎建築研究所有限公司 木岡敬雄
- 第五章 復元工事
竹林舎建築研究所有限公司 木岡敬雄
株式会社間組 外館 寛
- 第六章 発掘調査
大洲市教育委員会 学芸員 岡崎壮一
- 第八章 結語
大洲市建築住宅課 課長補佐 蔵本和孝

大洲城天守閣復元事業報告書（平成十六年十二月発行）

■編集・発行

大洲市商工観光課
〒七九五―八六〇―一 愛媛県大洲市大洲六九〇番地の一
電話 〇八九三―二四―二二一一

■編集員

大洲市商工観光課 課長 尾崎公男
同 課長補佐 栗田浩治
同 主 事 村中 元

■編集協力

株式会社三宿工房

■印

刷 岡田印刷株式会社

